



京都市蛸薬師東洞院東入

# 旅館傘平新

通名 遠藤新兵衛  
園電話千五百九番 遠藤新平

京都市諏訪町通五條南入

## 尖 辻忠郎兵衛商店

(特電 話三十九番)  
(電 話千六百十九番)  
(大阪 振替貯金口座三  
千五百五十一番)

## 吳服太物卸問屋

大阪市東區淡路町一丁目

## 尖 辻忠郎兵衛出張店

(電 話東千四百十六番)

大阪表用便の儀從前の通取扱ひ仕候

# 清料理

仕出

# 志乃毛虎


釧路浦見町

電 話  
(表四〇一)

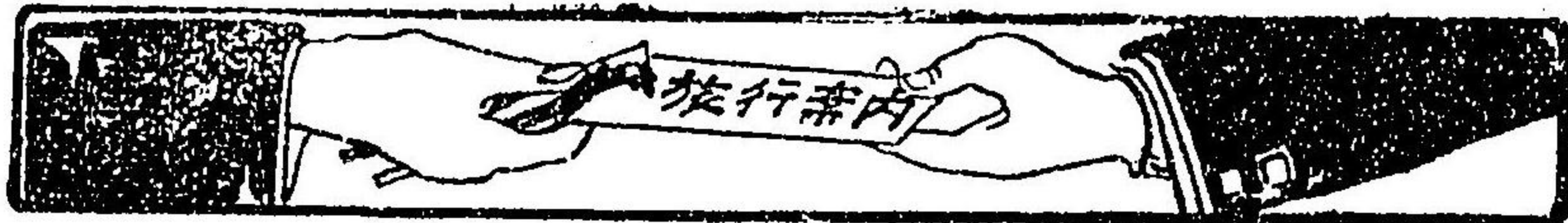


洗粉  
 白く洗う  
 洗粉の良さを  
 大評判にする

北海道代理店 函館 函館末廣町 新田商店



石鹸  
 石鹸の良さを  
 大評判にする



# 北海道旅行案内

崧堂 澤石 太編

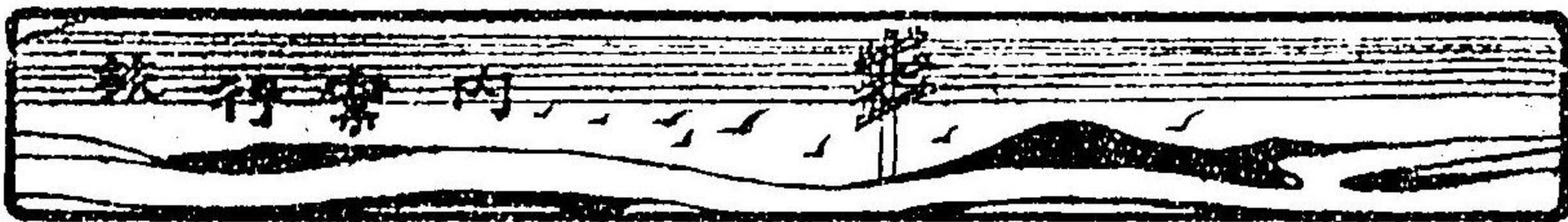
## ●北海道を紹介す

北海の地たる廣袤實に六千方里、山河壯大にして沃野千里に達なり、地中亦有用なる礦物を藏し、且つ沿岸水産物に富むこと殆んど全國に冠絶し、全道の産額年々四千萬圓を下らず、誠には是れ天賦の良土、國家の寶庫と云ふべし、加ふるに日露戦役の結果樺太島の南部は我領有となり、本道の經濟上及び國防上に於て深き關係を生じ、露國領東の策源地たる浦鹽斯德も亦煙波彷彿の間に在り、我國北門の鎖鑰として特に重きを我北海道におく所以のもの豈に偶然ならんや。

北海道を紹介す

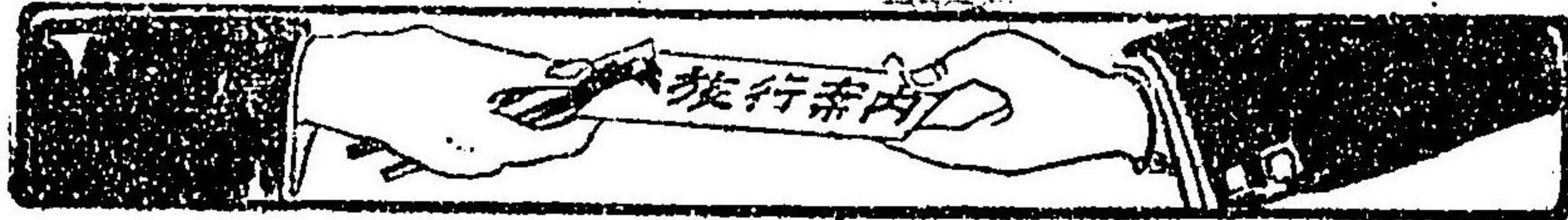
り、如何にして此資本及び勞力を誘致すべきかは、何れの殖民地に於ても先づ最も苦心する所、若し夫れ勞力を誘致し、資本を輸入せしむるを以て拓地殖民の一大要訣となさんか、其法唯だ土地の生産力を増し、資本及び勞力に對する報酬を多からしむるに在るのみ、即ち交通運輸の便を開き、測地排水の法を設け、自然に土地の生産力に資すること是なり、尙之を詳説すれば鐵道を敷設し、道路を開鑿し、港灣を修築するの類皆な是れ土地の生産力を助長し、其價格を増進せしむるものにして、則ち勞力及び資本を誘致するの捷徑なりとす。

北海道殖産の任務は、交通機關を設備するにあるは、著者の贅言を須たざる所、交通の機關には道路、



鐵道、水運の三種あり、若し北海道の河川にして舟楫の便に適するものあらば、是れ實に至便至簡の交通機關と云ふべし、然るに北海道の河川は大體陸地方に於けるが如く、四季を通じて航行の便を與ふるものにあらず、冬時には則ち結氷の憂あり、夏時には則ち氾濫の虞多く、且つ航行里程の如きも石狩川を除けば至つて短小なりとす、拓殖唯一の機關として、單に河流に依頼するは到底策の得たるものにあらず、尙且つ北海道の沿岸は天候常に險惡にして、小形船舶の航行に非常の障礙を與ふる事一再にして止まらず、即ち夏季に於ては濃霧四塞呎尺を辨じ難く、冬季に於ては風雪若りに到りて爲めに逆日海上に漂泊し、或は虚しく出發港に引き返すが如き敢て珍しとせず、故に商賈は常に商機を失し、殖産振はず、工業興らざるの憾あり、此に於てか北海道鐵道の敷設を見るに至る、蓋し十勝線と云ひ、舊炭鐵鐵道線といひ、天鹽

線と云、將又舊北海道鐵道株式會社に特許したる兩樞兩大港の連絡線と謂ひ、本道六千里の樞要部を貫通する交通機關の設備は、優に北海拓殖の急に應じたるなり、果せる哉日本全國人口増加年五十萬の一割則ち五萬人の比例を以て年毎に移民來住の増加を示し、山野年を逐ふて拓け、産業日進月歩の狀ありて、曩に無人の境と唱へられたる地方も、今は勤勉力行永住の志に富める開墾者の盛んに農事に従事するあり、何れの原野も將に個人の有に假せんとするの狀を呈しつゝあり、本道に産出する礦物は金、銀、鉛、硫黃、石炭、石油等にして、其中石炭を主要なるものとし、金之に亞ぎ、尙石油の試掘も至る所成結果を呈しつゝあり、更に小樽築港工事の成績に由れば、火山灰をセメントに混用するときは、其費用頗る廉なるのみならず、耐久の力に於ても、亦能く純セメントに匹敵するを得べしとの説あり若し果して



然らんには、本道各地の火山灰は一蹴して、有用の礦産物に加へらるべく、爲めに火山灰所在地の繁榮を促すに至るべきなり。於是乎、北海道生産の價格は、農作物に、水産物に、礦産物に、何れも非常なる長足の進歩を致せり、由來北海道の地味氣候より云へば、其大部分は農作物に適するものと謂ふべく、現に農學者の説に依れば、將來水田を開墾するに於ては、優に三千萬石の米を産すべしといふ、言或は多少の誇張なきにあらざるも、亦以て本道農業の前途を概見するに足るべく、其他大豆小豆を始めとし大麥、小麥、裸麥、粟、黍、玉蜀黍等皆何れも本道農作物の主要にして、其結果何れも良好なり。水産物に至りては、沿海到る所之を産せざるなく、内地府縣の需要する鱈、昆布、鮭等及び支那地方へ年輸出する四百萬圓以上の海産物は殆んど北海道の生産品ならざるはなし、從て漁業は本道の生産

北海道を紹介す

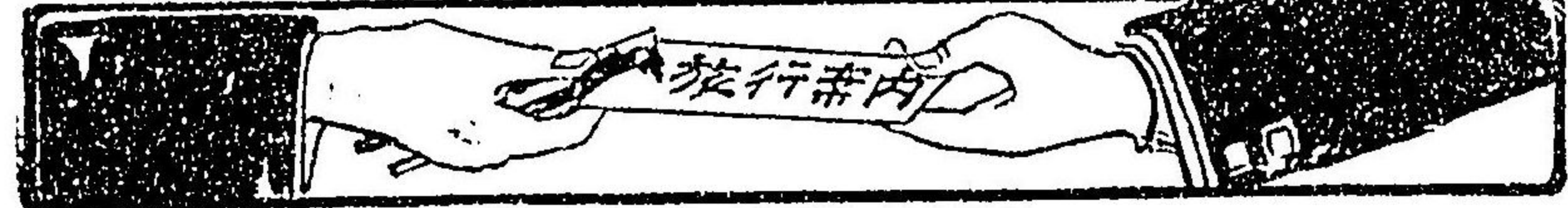
事業中最も發達したるも、然かも往時よりの濫獲と漁業者劇増の結果とに由り近年に至り其漁獲漸次減少するに至りしも、魚鱗の保護蕃殖を圖る適當の方策並に漁獲方法の改良に重きをおかば、更により多くの産額を見らるべし。爾て工業の如何を察するに、一般の意向尙未だ此事業の點に注がれざるの遺憾なきにあらず、現時に於て稍著明なるものを擧ぐれば、燐寸軸木、麥粉、麥酒醸造、亞麻紡績業、製紙業、製糖業、清酒、醬油醸造等にして製氷、製油之に亞ぎ、炭、セメント、馬鈴薯澱粉、晒箔、魚類果物罐詰、沃度魚油等の製造も亦此中に加ふべきものとす、而して本道工業の現在左までに進與せざるものは從來漁業の爲めに割合多き貨銀を得るに慣れ自ら工銀の昂騰を示しつゝある不利を免れざる事情もあらん、氣候寒冷なるが故に、四時を通じて或る工業を限りて其事業に従事するの難きの理由も

三



あらん土地北極に偏するが爲めに物品放散の顧客地に不利なる廉もあらん、又或る少数の場合を除くの外工業上最も不利なる其原料を各地府縣に仰がざるべからざる點もあらん、其他曾て巨額の資本を投じたる工業會社中、或は失敗の不幸に陥りたるものありて、世人をして一時本道投資の危殆を疑はしめたるもあらん、要するに交通不便の爲め、原料の購入及製品の販賣自然に意の如くならず、其事情全然内地に同じからざるは、確に工業振興の一障害たりしなり、左れども是によりて直ちに本道工業の前途を悲觀するは誤解の甚しき者なり、彼の札幌麥酒醸造の如き釀年の醸造高は壹萬五千五百石餘にして年々増石の好成績を呈しつつあるにあらざるや、而かも其原料は凡て北海道産の大麥なりといふ、尙又世人は安りに本道の工業に投資する者なきを聊つと雖も、現に舊炭鐵北鐵會社、船渠會社、日本製鋼所等に對し、府縣の銀

行又は内外の資本家は競ふて投資せる事實もあり、而して彼の麥酒醸造若くは製麻工業の如く、工業經濟上自然に大資本を要すべきものは格別、彼の澱粉製造及び燐寸軸木製造の如き、其他蘭草の栽培を勤めて、之を疊表に織らしむるが如き、或は柘柳の蕃殖を圖りて柳行李の製造に着手せしむるが如き、又は麥畑を開きて麥藁眞田を作らしむるが如き、或は玉蜀黍を原料として火酒を醸造するが如き、特に養蠶事業に就ては農家の副業として、今後儘に本道有望の事業にして孰ろ大いに奨励すべき好事業たり、蓋し本道の地たる頗る養蠶事業に適し、桑葉に最も發生し易き蛆害の少きと天然の野菜繁茂せるが故に人工を要せずして桑葉を得るの利あり、土地廣漠にして斯業上諸多の利益あり、氣候の關係適順なると、此四個の利益を打算し、之を本道開發上に、將又一國の經濟上に利用せば優に生産の好財源たるを得べし。



之を要するに、生産的北海道は、鐵道、港灣の發成すると共に、其特色は益々發揮すべく、北海道は遂に日本の米國たるに到らん、視よ十年前の旭川は寂寥たる、一村落たるを免かれざりしも、今や已に市街井然として、煙突の空に聳ゆるの偉觀を見るにあらざるや、此有様を以て想像するに、十年後の北海道に於ては、最早曠原曠野を見るべからざるやも亦測られず、斯の如き長足の進歩は内地各府縣に於て企及すべからざるの顯象なり、然りと雖も地積の廣大にして、美田沃野の尙潤澤なるに比すれば、人煙の稀少なるは頗る懺焉たらざるを得ず、北海道の面積六千方里なり、之を各府縣一方里の統計人口に比し、優に一千五百萬人を容るべきにあらざるや、而して現に本道有する所の人口は僅に百餘萬人に過ぎず、前途の遼遠なる事ろ歎すべきなり、本道の土地は潤澤にして、且つ必需品は割合に低廉なるのみならず、冒險的生活に

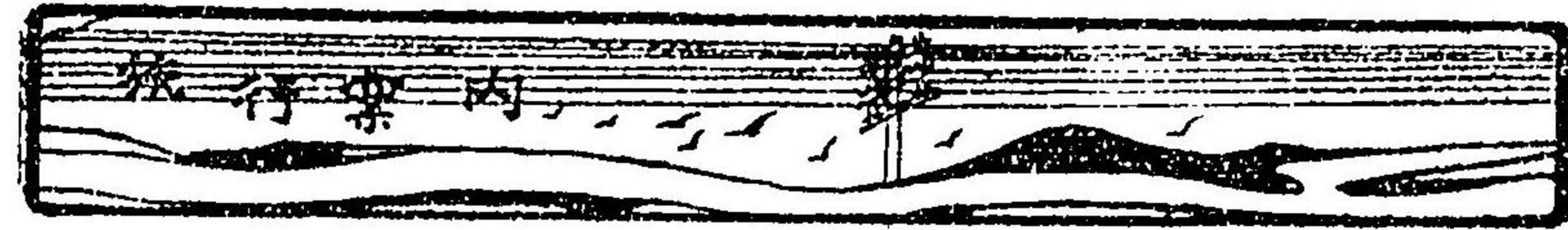
缺くべからざる優勝劣敗の原即ち、各府縣に比して一層適實に行はるゝを見る、加ふるに前途の多望なると、心身の自由なると、生活の變化し易きと之れ等多くの事情は遠く内地の比にあらざる、各府縣幾百萬の壯丁にして、脾肉の歎に堪ざるものあらば、請ふ一輩の海峽を距て、北海道の寶庫あるを忘る勿れ。

●現時の北海道は如何に發展しつゝあるか

前段「北海道を紹介す」の題下に於て北海道を紹介し盡せり、而して編者は尙現下の北海道が如何に種々なる關係に依つて發展しつゝあるの眞想を叙述せむ。

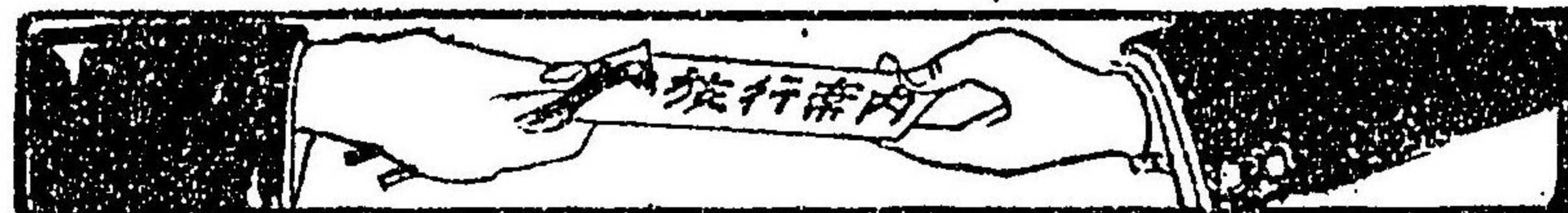
世人をして北海道と云は直に熊鷹跳梁を聯想せしめたるの時代は既に遠き過去に屬し、今や全道到

現時の北海道は如何に發展しつゝある乎



る所山野ともに天然の富源は開發せられ、其進歩發達は刮目して見るべきものあり、殊に四十年九月函館、釧路間の鐵道全通各地の商業分布漸く劃せられんとし、其他の都市また年を追ふて膨脹しつつあり、往年師團を旭川に移され舊炭礦會社を岩見澤に奪はれて其進命を危殆ならしめたりし札幌の如きも、區民は奮つて倉庫其他の設備を完備せしめ、以て附近の物資を吸收し、附近の農場亦た日に月に開拓の地域を擴大して札幌を培ひ、加ふるに鐵道廳の大工場は此地に建設せられ一萬人に近き職工は注入され、尙苗穂村外二箇村を併合して札幌區は俄に茲に擴大され人氣頗る引立ちて舊阿蒙にあらざるの觀あり、旭川は師團の所在地として全道の鐵道中心點として新開の地たるに拘はらず其進運の速度は實に人をして一驚を喫せしむるものあり、本道鐵道の終點たる釧路亦海陸の交通機關を利用して銳意發達に資し又舊態を存

せず、若し他年築港を完成せば優に一の吞吐口として先進港と角逐し得べき地勢を占有するに至るべし、室蘭は從來炭礦會社の産炭七分を輸出して石炭の室蘭たりしに、其天然の良港を利用して石炭、製鋼の室蘭として其發達の刮目す可きものあらむ岩見澤は炭礦所在地たるのみならず石狩原野を控へ營養を吸收して數年前までは一寒村たりしもの今や公然たる大市街を形成し、其他所在の村邑何れも日々發達して北海道の開拓は今や漸く農業本位時代に近からむとす、就中其進歩急激にして暇々停止する所を知らざるの觀あるは實に小樽港なり、明治初年まではアイヌ人種の多數を占めたる所の一漁村に過ぎざりし小樽港は、其地理的關係より殆んど無意識に成育し來りて今や全國に於る有數なる貿易港となり、輸出入貨物一箇年二百萬噸に上り數量に於て優に横濱を凌駕し、神戸の壘を摩せんとなす人口未だ十萬を超すも雖も



人は悉く進取の氣象に富み、港灣の設備に、陸上の計畫に着手して進捗しつつあり、日本銀行は支店を函館より移し、十四五の各大銀行はこゝに集注して其發達を助け、日露條約に依りて露國領事館は此地に設けらるゝことになり税關亦函館より移らんとして目下調査中であり、全道の商業中心點は事實に於て此地に移れり、而して今後本道内地の農業進歩に伴ひ貨物の集散は悉く此地を経ざる可らず、殊に函館、釧路間の鐵道全通以來小樽の商圏は擴大せられ、十勝原野の農産物の幾分は此地の占有に歸せり、此の趨勢によつて推移せば小樽の進歩は實に計り知る可らざるものあり、從來一漁場の地に過ぎざりし留萌は鐵道開通し港灣修築に着手されて將來小樽港の副港として亦十勝、天鹽、北見の貨物集散地として本道の拓殖上商業上の要港となるの目近きにあり、要するに北海道は既往漁業本位の時代を去り、生産力の確實なる農業本位時代に移り、全道の富力益々昂上

北海道と内地間の交通

して所謂北海の富源たる實漸く舉らむとしつゝあり、而して其分布は商業の中心として小樽工業的中心として、札幌、陸運の中心として旭川、補助港として室蘭、釧路留萌等の今後の發達刮目して見る可きものあらむ。

**北海道と内地間の交通**

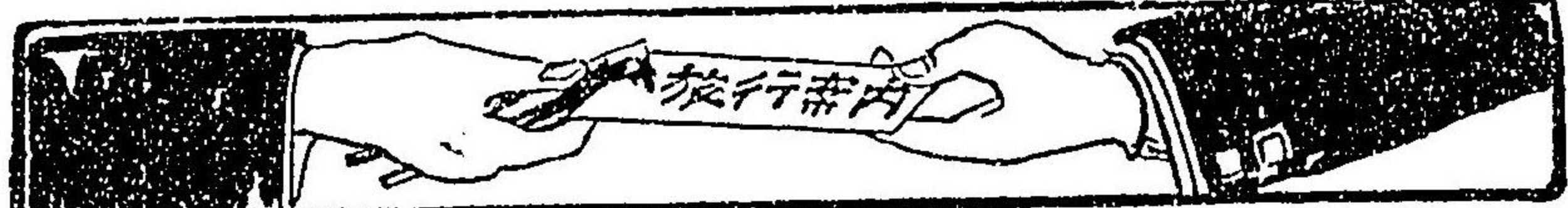
北海道と云へば世人は今尙昔日の蝦夷の如く氣候寒冷、道路險惡交通不便と誤解せるものならむも現下の北海道は内地人の豫想せざる發達進歩の域に達し、而かも交通は頗る至便にまた海陸の旅行最も安全にして便利なり、海上に於ては神戸より西海岸を廻つて函館、小樽に到るべく、陸路は東京上野より汽車にて青森に出で、青森より函館に至るには快速なるタービン式の連絡船あり青森、室蘭間には郵船株式會社の定期航海あり、其他社外船にして往來する者少なからず、また北海道沿海の航行は郵船會社及び北海道廳補助航海船の往來絶えず、只だ冬期に至り極北なる北見、根室兩



國の航海を絶つのみ。其他室も不便なく、陸上の鐵道は函館、小樽を連絡し小樽より北海道廳の所在地たる札幌に至り、石狩原野を横断して室蘭港に至り、又中途より岐れて夕張、幌内、郁春別等の諸炭山に至り、尙岩見澤、砂川等を経て日本に於ける最長の石狩河畔に沿ひ神威古潭の絶勝を過ぎりて北海道の中央にして第七師團の所在地たる旭川町（離宮豫定地のある所）に出で、岐れて北は天鹽線の終點たる名寄に達し、十勝線は下富良野、帯廣、利別等の大農村を経て釧路港に達せり、道路は開拓使以來開墾する所一千八百餘里まで道路の不便不良の處なきにあらざれど重なる部分には、數里毎に驛遞の設けありて、馬を備へ道廳より其費を補給しつゝあれば、馬の賃銀は一里に付き十錢より二十錢まで場所によりて高低あれど、其以上に出るとなく、旅行には決して不便を感ずる事無し、氣候は本邦中にては温度低しと

雖も、歐米諸國に比すれば概して温暖なり、例年四月は積雪融解し爾後温度急に上り、夏季の最高は華氏九十度以上に達し、能く植物を生育せしめ而かも朝夕は涼しくして爽快なり、秋季に至つて温度降り、九月下旬に初霜を結び、十一月末より雪を積み一二月の交其深さ一尺乃至四尺に至り、寒氣強しとは云ひながら世人の想像する如くならず。交通の便斯の如し、氣候亦た適度なり。決して世人の誤解するが如きものにあらず。北海道の山河草木は笑つて世人の來り遊ぶを歓迎す。船ならば横濱より、三日鐵路と船にて東京よりは二晝夜に足らず、殆んど一晝の間に北海道に達すべし、北海道旅行また容易なりと云ふべし。

北海道の關門として、最も古き歴史を有し、台て榎本武揚子が幕軍を率ひて死守せし所、五港の一として知られたる函館は、旅客先づ第一に足を容るゝ所なり。北海道と云へば、直ちに「函館」を



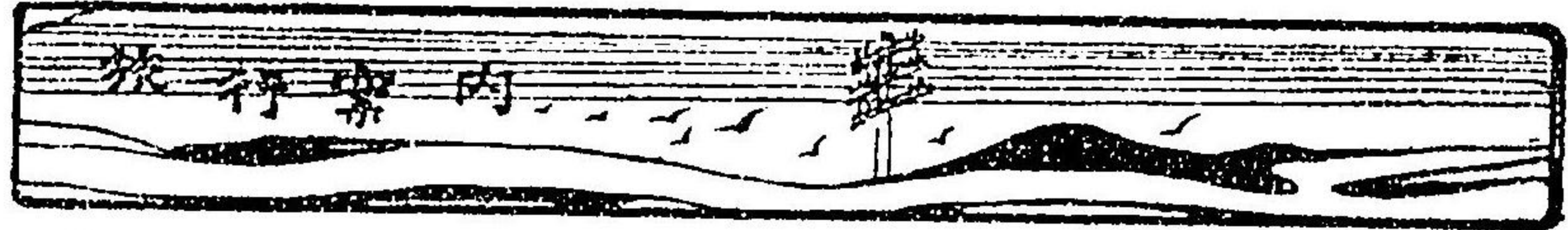
聯想し、世人概ね函館なる名稱を記憶すべし、而して若し一度函館に至らば市街の美麗なる、道路の完備せる、建築に輪奐の美を極めたる、三府以外に稀に見るの鐵道馬車、人家の櫛比往來の難路十萬の人口、一萬五千の人家、帆船林立の巴字灣頭、風光明媚の山と海、遊覽の地各所に備はりてこゝが蝦夷ヶ島の入口かと想像以外の賑やかさに驚かざるもの蓋し稀れなる可し、今此函館に至るには、海、横濱よりするものと、陸、東京上野よりするとの二途あり、而して海路、神戸を起點とし、横濱、萩の濱（陸前）を経て函館に着し、夫より小樽に及ぶを終點とす。日本郵船會社の定期航海と言ふは之れなり。

▲海路の航 日本郵船會社汽船は四日毎に、横濱を解纜し、函館に向ふ可し、若し此途を探らんとする旅客は其解纜一時間以前に其船に乗込む可く、最も平民的に旅行せんとせば、横濱停車場の

正門を出で、數丁にてし、忽ち郵船會社の旅客休憩所に至らん。こゝにて乗船切符を購ひ、其棧橋より解り打乗り二十數分にして船中の人となるを得べし、時間だに計れば、斯の如く手軽に済むなり北海道と云へば其名に驚き、汽船出帆の前日早くも横濱に至り、旅宿に宿泊するが如きは、迂闊の甚しきなり、かくて其船は午前十時横濱を出で、觀音崎を過ぎ、鹿島灘に出で、一夜を船中に明して、翌日の午後は二百六十四哩を航し去つて早くも陸前萩の濱に着すべし此所は松島の八百八島に近く、晝にて見るが如き松の生へたる島は港口にて望み見るを得。港は狭くして大船を並べ繫ぐ能はざるも、其全景瓢箪の如く兩岸の山際が如く歴し來りて、風景箱庭的なり、船は石炭及び水と少許の貨物を積込むべし四時間計り碇泊するを以て、迎ひに來りし小舟に乘し、伏見屋其他の旅宿に上り、浴後新鮮なる介魚を肴として、酌を

北海道と内地間の交通

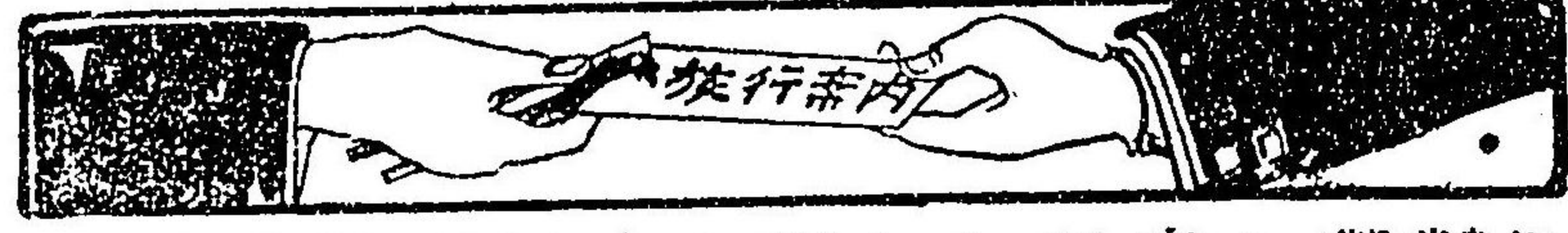




傾くも妙なる可し。此費茶代とも一圓以下にて足る、かくて陶然として酔ひたる時、旅宿の女中は送り解の準備成れるを報ずると共に、再び本船に歸らば、船は又もや錨を抜き、北行金華山沖を奔り、尻谷岬を廻り龍飛、白神、中の沙と呼ぶる津軽海峡を走りて、其翌日午後、乃ち横濱を出で、一夜、萩の濱を發して一夜、合せて二夜、船中に明し、第三日目の午前に函館臥牛山の背後を廻りて、巴の港と知られたる函館に入港すべし。東京を出で、横濱より海路を函館に着するまでの費用を算すれば、新橋より横濱に至る汽車賃三十三圓、横濱より函館に至る汽船賃三圓五十錢合計三圓八十錢なり

漫々たる海原に一條の筋を残して煤煙を遠く引きつ、巨船の甲板の上に立つ心地、また得も云はれず快なり。上野青森間直行列車は午前一度午後一度上野を發す。午前の直行に乗れば翌朝青森に着し午後の列車を擇まば翌夕暮すべし。青森、函館間、亦た快速汽船、毎日数回の航海あり、僅々四時を以て函館に着すべし、午前上野を發し、翌朝青森に着し、数時間休息するには、中島、鍵屋、鹽谷等の旅館あり、亦手軽の旅行には停車場所屬の公設待合所あれば此所に休憩し直ちに乗船するを最も便とす。かくて乗船後四時間の後は函館に着せん。

▲旅客と待合所 青森より汽船にて函館に着し小樽、札幌、旭川方面へ赴かんとする旅客は直ちに特定解船にて函館停車場へ到り、同構内に特設しある公設待合所に入り發車時刻を待合せて目的の方面に到るを最も便とす、同公設待合室は廣瀬



にして一、二、三等客の區別あり、和洋料理、辨當、和洋雜貨、新聞縱覽、浴場、化粧室等其他手荷物の整理切符購入方等あらゆる旅客の便利となるべき設備の完備しあれば、右方面に赴くべき旅客は必らず此待合室にて發車時間を待合せ直通列車にて出發すれば經濟と便利とを併せ有することを得べし。

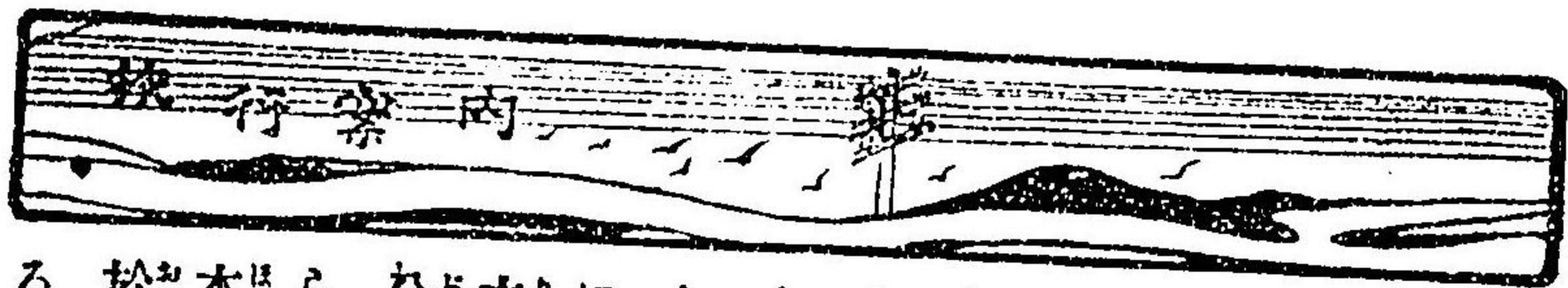
また北海道の汽車の終點釧路に到るには函館停車場より直通列車にて赴くも、また海上汽船にて赴くも旅客の隨意なるも、釧路、帯廣其他十勝方面へ到るには海路を探るを便とす、先づ函館より釧路直航の汽船に乗れば十八時間乃至二十時間にて釧路に着すべければ、夫れより十勝方面へは釧路停車場より汽車にて到るを順路とす。北海道より内地へ赴くべき旅客の函館驛に着せば同地に所用のなき限は直に右の公設待合所に入り乗船切符手荷物の整理は特定ボーイにて親切に世

本道の拓殖事業は如何にして之を進めつゝある乎

話す可ければ青森行の汽船出帆前凡そ一時間前案内者に導かれ待合所を距る僅か數十歩の船客乗降棧橋に到りこゝにて解船に乗り本船に移乗することを得べし。

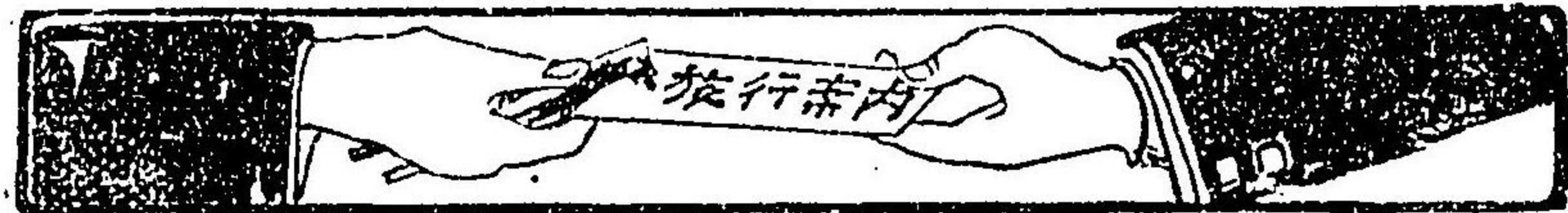
### ●本道の拓殖事業は如何にして之を進めつゝある乎

戦後國運の進揚に伴ひ産業の進歩特に著しく對外貿易の發展亦頗る見るべきものあるは洵に慶賀すべき所たり、然るに一面我邦人口増加の状況を觀るに年々約六十萬人を算し明治四十一年末調査に依れば其人口五千百有餘萬の多きに達せり、面積僅に二萬七千方里を出でざる我本土を以て限りなき人口の増加に應せんとするは固より之を望み得べきにあらず、隨て將來人口の増加に伴ひ之を適當の地域に移殖し益々國力の發展を圖るべきは極



めて必要の計に属す、於是政府は本道拓殖事業計劃を定めて二十六議會に提出し其協賛を経て四十年度より之が實施に着手せる亦定に茲に移殖を奨めて利源の開發を期せんとするに外ならず、本道の地積は北海道を紹介すの題下に於て述べたる如く約六千方里に及び其水陸の利源亦極めて豊富にして僅に五六百萬の人口を移殖するに足れり、此の故に夙に方を拓殖の事に致し年を積むこと茲に四十年其進歩稍々見るべきものあるに至りしと雖も全道の大局より之を觀るときは其成功僅に三分の一に過ぎず、依て今回本道事業計劃の確立を機とし益々拓殖行政の刷新を圖り未開地處分の簡易敏捷を旨とし勉めて移民の渡道を容易ならしめ以て本道開發の速成を期せざるべからず。本道の拓殖に付ては明治二年開拓使設置の初期に於て時の開拓長官に對し優渥なる詔勅を賜はりたる以來年々閱すること四十餘年、此間累代の政府

及び北海道當局者の苦心と移民其他本道に於ける各般企業者の努力とに依り拓殖の進歩頗る顯著にして政府の本道に對する支出金額一億三千萬圓の納金額一億萬圓にして政府の本道に對して事實的支出したる金額は僅に四千萬圓を出でずして今や本道の人口約百四十五萬、農耕地約四十五萬町歩、生産總額六千四百萬圓、内外の貿易總額約一億五千萬圓、國稅年收額約六百萬圓を算するに至れりと雖も之を本道の全體より觀るときは其成功漸く三分の一に過ぎず、若し本道にして果して豫想の如く將來約五六百萬人を收容することを得べしとせば現下の人口は僅に其四分の一内外に達したるものと謂ふべく、今や本道中其開拓比較的緒に就きたる多くの地方にありては漸を以て既に自治制を施行し其社會狀態は殆んど内地と雁行するの程度に進みつゝあり、斯の如く本道拓殖の前途は尙甚だ遠達にして將來發展の餘地極めて多大



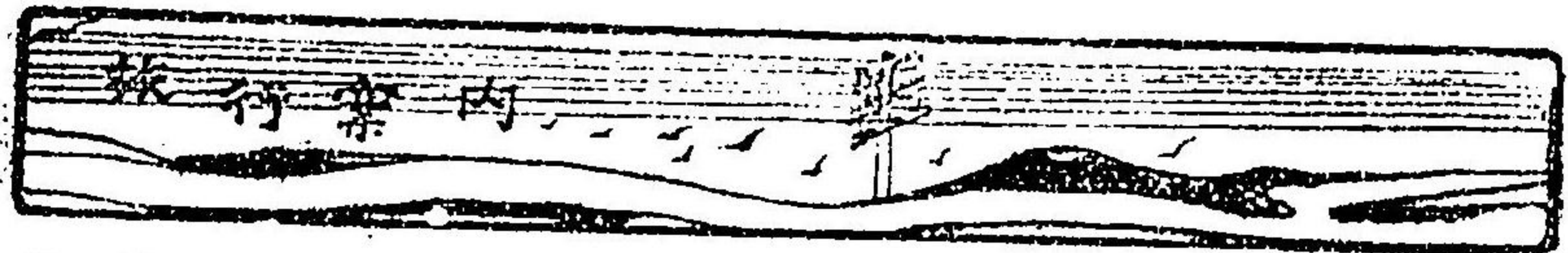
なるのみならず本道の開發は寧ろ今後の經營に俟たざるべからず。政府は明治卅四年度に於て所謂十年計畫なるものを定め初めて國費及地方費を分離し國費に於ては爾後十箇年に涉り一般の行政及拓殖事業に關する所要の費額を豫定し、行政費總額約千百八十萬圓、拓殖費總額二千六百六十萬圓とし拓殖費に於ては殖民地の選定區劃、土地の處分、移民の取扱、水産の調査、農事の試験、道路橋梁の新設修繕、驛遞渡船の施設、河川港灣の調査、小樽港及釧路港の修築、物産其進會の開設及航海の補助等幾多緊急必要の事業を遂行せんことを期せしも實行半ならずして曠古未曾有の日露戰役に逢ふて一頓挫を來し、戰局已に收まりたる後と雖も戦後財政計畫の必要上事業の中止若くは豫算の繰延等あり、而して是より先同三十九年政府は所謂十年計畫以外に一種の計畫を立て新に森林の經營を創始し未

本道の拓殖事業は如何にして之を進めつゝある乎

開地の立木を賣却し依て生ずる收益を以て明治四十年度以降十六箇年間に釧路、留萌、小樽、函館、網走、根室の六港を修築するの計畫を立てたりと雖も不幸にして議會の協賛を経るに至らず、爾來再び調査に従事し同四十年に至り更に森林の整理未開地處分法の改正、森林及未開地より生ずる收入を以て築港其他拓殖上必要な新事業を遂行するの計畫を立て議會の協賛する處となり既に各々實行の緒に就きたりと雖も、元來其計畫の如きは財政上已むを得ざるに出でたる一時的權機の處置たるに止まり其規模極めて狭小にして畢竟十年計畫に對する一種の補足的計畫たるに過ぎず未だ之を以て本道拓殖經營の急需に應ずるに足らざるや勿論なり。

一三

今や戦後國運の隆興に伴ひ努めて利源を開發し國力の充實を圖るべきの秋に方り本道拓殖の如き國家經濟上極めて有利なる事業をあげて之を如上の

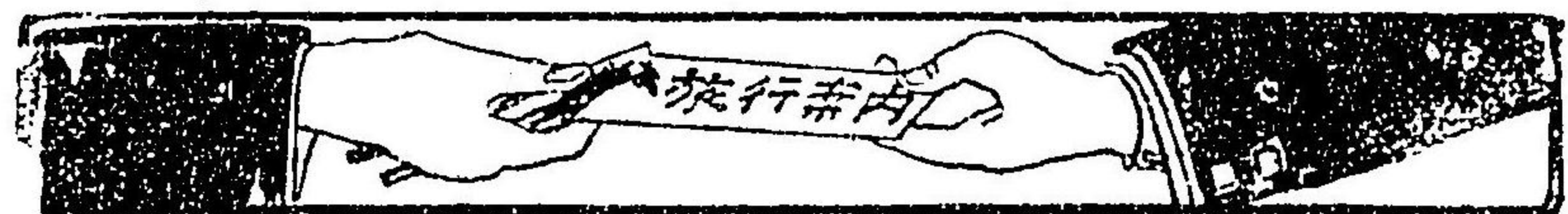


状態に放任するが如きは到底事情の許さざる所なりとす、於是更に従来錯綜せる各種の費目を剴然分離し行政費、拓殖費、森林費の三種とし、而して拓殖費に付ては將來約十五箇年間に拓殖費として政府の支出すべき金額を約七千萬圓と定め其處要の費額は政府の一般歳入より之を支辨することとし、之が爲め政府は毎年度二百五十萬圓及び北海道に於ける政府の歳入増加額を支出するも其支出額は通じて五百萬圓を超過せざること、爲したるの三點にあり、而して是等計畫の根本たる重要事項は内務、大蔵兩省の協定に依り更に閣議に於て決定し、亞で第廿六議會に提出せらるゝや貴衆兩院は各慎重なる審査を遂げたる結果非常なる同情を以て之を迎へ至院一致の状態を以て是認せられたるは本道の爲め亦國家の爲め眞に慶賀に堪へざる所たり、依之本道は今後道内の國庫収入を以て拓殖上必要缺くべからざる諸般の經營を爲す

ことを得べく今後國家的變動の起らざる限りは不動の豫定にして、本道の經營は於是乎始めて確乎不拔の基礎を得、道民は勿論今後新に移住すべきものと雖も自から意を安んじて其業に従ふことを得るに至れり。

●本道鐵道問題の概要

明治廿九年五月北海道鐵道敷設法を發布せられて其敷設線路中最も急を要するもの即ち旭川、釧路を経て根室に至るもの、釧路厚岸より網走に至るもの及旭川より北見國宗谷に達するもの合計五百六十二哩を第一期線とし明治三十年度以降同四十年度に至る十二箇年の繼續事業と爲し、此工費一千八百五十四萬六千圓は第十議會の協賛を経て同三十年度より起工し爾來着々其工事を進めたるも尚一層の實效を收めんとし、第二十二、第二十

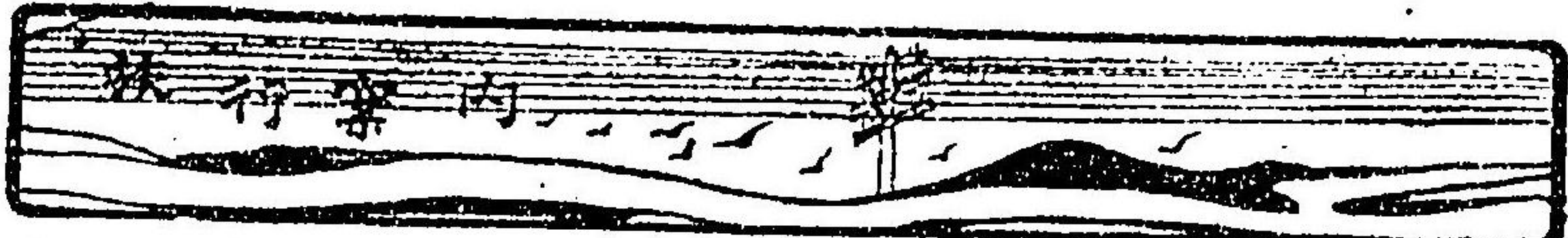


三議會に於て第二期線に屬する線中石狩國兩龍原野より天鹽國留萌に至るもの及十勝國池田より北見國網走に達するもの合計百五十二哩を第一期に線上げ、第一期線中厚岸、網走に至る九十哩を第二期線に線下げ其完成期を同四十七年度に変更し第二十六議會に於て新に石狩國砂川附近より下富良野に至る三十六哩を第一期線に計上して四十六年度に完成せらるゝもの今日の現狀なるが、第一期線中旭川より十勝を経て釧路に至るものは去四十年九月を以て完成し北海道東西兩部の鐵道連絡の功成りたるも石狩國深川より天鹽國留萌に至るもの、天鹽國名寄より北見國稚内に至るもの、十勝國池田より北見國網走に至るもの、釧路國釧路より根室國根室に至るもの尙未だ未成區間として尙現存せり、然るに深川、留萌間三十五哩は四十二年九月を以て完成し、池田、網走間全線百十七哩中池田、滝別間七十五哩は同年九月を以て開通せり

本道鐵道問題の概要

然るに獨り釧路、根室に至る八十九哩は今日に至るも放棄されつゝあり、名寄より稚内に至る百二十一哩は目下名寄、恩根内間二十二哩の工事に着手されたるも工程遅々として進まず、名寄、網走間は第一期線と雖も本道今後の開發は北見にありて拓殖の氣運と各種事業の趨勢は殊に北見の有望視せらるゝより、今や二十六議會の協賛を得て其敷設に着手されつゝあり、其他今回拓殖事業計畫の確立と相待て未成豫定線以外に急設すべきもの投票に迫あらず、二十六議會に於て砂川、下富良野間鐵道を敷設せらるゝことに至りたるは豫定以外其主要なるもの一なり、其他道民の希望線と稱する十八線約七百哩を算するに至りしと雖も政府財政の狀態に於て未成豫定線尙且未定に屬せり於此輕便式鐵道敷設の議あり一般に於て其速成を望みつゝあるのみならず、本道は内地鐵道の如き乗客本位なるに異り主として貨物本位にあり、

一五



去れば本鐵道一哩に對して五哩を敷設し得べき輕便式を把るは經濟上及拓殖上寧ろ兩得の策なりとし已に其議に決せりとのことなるを以て近き將來に其輕便式鐵道を本道に於て見るに至るべし、其各線は(一)膽振國吉小牧より日高海岸を経て十勝に至り釧路線に接続する線(二)十勝帶廣より利別に至り網走線に接続する線(三)釧路線浦幌より分岐し釧路炭山に至る線(四)天鹽名寄より羽幌に至る線(五)室蘭の志文より分岐して幌石川上流炭山に至る線(六)室蘭線追分より分岐して白石驛に於て幹線に接続する線(七)海部、黒松内間の線(八)室蘭上磯を経て江差に至る線(九)國境利別の線(十)釧路美幌間線(十一)小澤岩内間線(十二)室蘭線輪西より分岐して函館線に接続する膽振線(十三)天鹽名寄より北見與部を経て網走に至る線(十四)天鹽萬華咲留より枝幸を経て與部に至る線(十五)十勝金山驛より室蘭線に接続する線

一六  
 (十六)上川線より分岐して石狩を経て幹線に接続する線(十七)留萌増毛間線等なりとす。

●内地 北海道聯絡船の設備

從來青森、函館間の(津輕海峽)連絡は郵船會社の定期航海ありて此間の航海に六時間を要したりしに、北海道の開發に伴ひ此間の連絡をして十分迅速の必要起り、鐵道廳に於て難に田村丸、比羅夫丸、姉妹船二隻を蘇格蘭グンパートのキリアム、デニー會社へ注文して製造せしめたるものにして從來函、青航路に六時間を要せしもの今や僅々四時間以内を以て内地と北海道とを連絡することとなり交通上至大の便益を與ふるに至れり、今試みに少しく兩船の設備上の事柄を記し旅行者の注意に資せむ。

TRADE MARK

健康は學士胃腸病の最新良劑

効能

胃腸の常に弱き人  
 胃腸の時々痛む人  
 胃腸に食物の障る人  
 胃腸の爲に食物の滞る人  
 胃腸の爲に腹脹する人

○此藥は中村醫學士が世上に胃腸の藥數あるも不完全のもの多きを憂ひ學說と實驗とに因りて考へ出されたる藥なれば其効の確なる云々

價藥  
 一日分金拾圓 錢十四日分金壹圓  
 三日分金叁拾圓 錢三十日分金壹圓  
 十日分金壹拾圓 錢五十日分金壹圓

發賣元 福井甚藏  
 東京神田橋本町二丁目角  
 總發行所 金口座二二三  
 (電話通電八二七番)

○取次所は市内は勿論各地  
 到る所の藥店にあり

○函館室蘭間郵便定期船



室蘭 函館  
洋丸 洋丸 洋丸

函館出帆 每日午後六時  
室蘭出帆 每日午前八時

貨船	客	壹	等	貳	等	參	等
貳圓五十錢	壹圓八十錢	壹圓貳十錢					

○室蘭西紋鼈 虹田辨邊間郵便定期船

いろは丸

但シ辨邊ニ限リ毎月三八ノ日同航天候不良順延  
外ニ振洋丸膽洋丸毎航寄港ス

室蘭より	西	紋	鼈	虹	田	辨	邊
船客賃金	五	十	七	十	八	十	錢

噴火灣汽船株式會社

贈振國有珠郡 伊達村西紋鼈 本社  
 函館代理店 函館船場町 金森合名會社  
 室蘭代理店 室蘭海岸町 栗林營業部  
 虹田代理店 虹田郡辨邊村 元岡回漕部  
 辨邊代理店 辨邊代理店 虹田郡虹田村 岡田回漕部

國備實業案內

次第不同

綿絲綿網製造販賣元



管業品目

綿絲綿網 岩絲口ツブ 麻網糸遊類 製造販賣

泰清八商店

(電話三百二十二番)

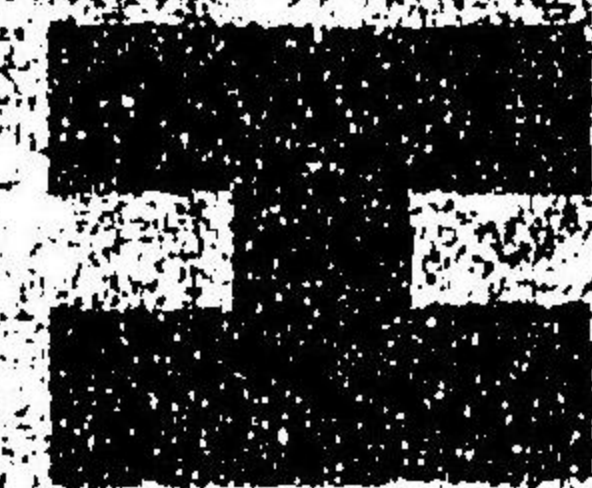
函館區末廣町十九番地



(大竹造船所の概観)

營業要目

汽機、漁機、新造船、建築、礦山用器、農具、製造、修繕一式



大竹宗政

電話 四〇三番

大竹造船所 函館區真砂町七番地  
函館鐵工所 同區船場町十番地







(其の質を認めしるべきは其の質を以てす)

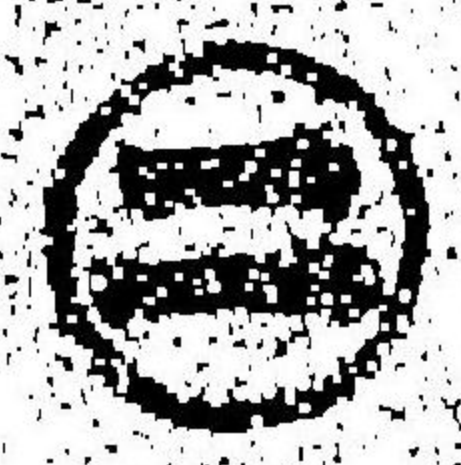
金銀美織細工所

新田梅吉

所館區此須町三番地

馬具製造卸小賣  
農馬具 乘用馬車用  
シラハ皮製造販賣  
其他附屬一式

所館區若松町三十一番地



山本久松

所館區若松町三十一番地

諸毛皮製革

所館區新門町二百七十三番地  
吉村文右衛門

諸機械製造

所館區冷止町四番地(藤井泰造工務所)

修繕 鑄 其他 一式

所館區冷止町四番地(藤井泰造工務所)  
稻葉房吉

内外農産種子  
各種苗木大販賣

所館區地蔵町卅九番地  
山録田商店

○最上生あん  
○<sup>改</sup> 晒 あん  
○東京水あめ



函館區旭町二百四拾番地  
根津製餅所  
函館分工場  
店主 本間菊次郎

鑄物諸機械製造

其他御註文に應ず

函館區榮町二百貳拾六番地

村瀨工場

場主 村瀨定次郎

電信略號(47)

諸機關製造



祖濱鐵工所

函館區真砂町貳番地

造船建築諸機器製造

其他總ての御註文に應ず

函館區鶴岡町廿五番地

村田鐵工場

場主 村田勇次郎

請毛皮製革



山下 文吉

函館區東川町二百四十五番地

トクシ引家根根



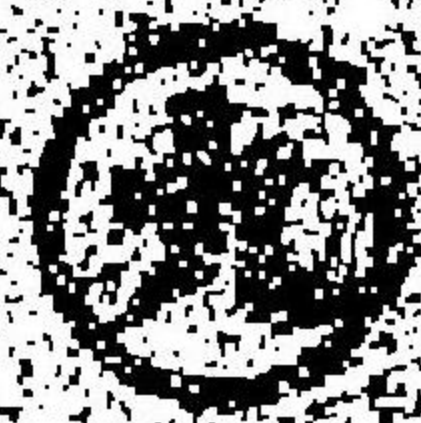
新城 權太郎

函館區東町五十二番地

其他銅匠

函館區末廣町九十二番地

和服物卸問屋



加藤 文五郎商店

函館區末廣町九十二番地  
電話五〇〇〇

美麗で

丈夫な靴

安く早く出来ます

吉田政八郎商店

函館區大町卅五番地

北御細切  
海士布昆  
名産子布茶  
元祖元



藤井清五郎

函館區地蔵町五番地

弊店特色



▲最新  
流行の  
魁

▲堅牢無比  
▲技術精密  
▲衛生用  
▲アミ上靴  
金三圓  
五十錢

函館區大町三十三番地



本堂  
靴店

船舶、建築用金物一式

其他御註文に應ず

函館區辨天町壹番地



佐藤鐵工場

場主 佐藤藏之助

美術紙箱製造所

●小學校  
手工料 小間紙販賣

候仕進調じ應に文註



北海道函館區  
相生町百〇番地

高橋周太郎

(カ) (タ) 略電

賜

第五回製産品博覽會褒賞  
北海道物産共進會有功賞

菓子種及  
製粉業



岡部多吉

函館區東川町二番地

電略(チカハ)又(ハ)マ

各國漆器建具  
疊諸漆問屋



眞壁仁太郎

函館區西川町六十六番地

電話七百四十壹番電略(マ)  
東京振替壹六貳貳壹番

函館區會所町五十三番地

和洋菓子卸商

東洋堂

和洋酒類諸雜貨商

尚區東濱町棧橋前

東洋堂支店

大漁具船具一式備極  
改良之海製造販賣



函館區會所町五十三番地

金山商店

(番四十番地)

各船乗  
切符渡  
積貨物  
取扱

### 巴港船客待合所 巴回漕部

兩解東濱  
町橋前  
(電話一  
三一番)

田村丸、比羅夫丸の二船は特に洋船海峽の連絡事  
用船として設計したる者なれば、其構造の特に本  
航路の連絡線に適し居る上に製造者は有名なデ  
ニー社にて其機械も亦たパーソンスタールを  
用ひ是れまたパーソンズ社を除けば最も多くの  
船用タービンを製造して経験と熟練とを有するデ  
ニー社に於て製造したれば、船體機関とも連絡  
船としても最新式のものなり、而して本船は亦た  
實に我邦に於て任務に就く最初のタービン船たる  
光榮を有し、連絡船として將又日本第一のタービ  
ン船として世の注意を惹くこと蓋し甚大なるもの  
あるべし。

本船の總噸數は一千五百噸にして船の垂線間の長  
さ三百八十呎、幅三十五呎、深さ二十一呎、六吋、  
吃水は平均十一呎、亦甲板の數はボート甲板、覆  
甲板、正甲板、下甲板の四あり、各甲板間の高さ何  
れも七呎六吋なり、また本船の構造は船體の重も

内地 北海道聯絡船の設備

なる部分は總て軟鋼を以て製造し、其材料は一々  
材料試験執行の上で使用せられしものなり、また  
保安装置としては五箇の防水隔壁あり、尚四隻の  
救命艇を始めとして萬一有事の場合に於ける設備  
も完備し居れり、亦本船の豫定最速力は十九節  
に達し普通航海にも優に十六七節を航走し得べ  
れば現在の青森、函館間通過の時間は非常に短縮  
せられつゝあるのみならず、タービン船なるを以  
て船の震動も少なく旅客に不快の感を感じしむる  
ことも少く、船に乗ることを好まざる人々も航海  
に苦しむ事なく、風波の烈しき時にも航走を妨げ  
らるゝ事少なく、豫定の時間より速るゝこと稀な  
るべければ、内地北海道聯絡の實を擧ぐる事を  
得べきなり。

各期間常に寒氣強き場所を航行するを以て蒸氣機  
房の設備の完備し居るのみならず、船内の點燈は  
電氣を用ひ和洋兩式の浴場、兩便所の如きも十分

火薬と三田銃砲店

函館の三田銃砲店は、函館の中心にあり、火薬の製造、銃砲の修理、各種の火薬品を扱っている。本館の火薬品は、北の海軍に於ける銃砲に要する火薬品は、直轄火薬庫より之れを供給す、亦た砲の直轄入庫なり本館の火薬品は、野を渡りて函館に於て製造する。火薬品を携へて旅行せらるるを慎む。

に設けしありて多数の乗客の一時に込合ふ時混雑を來さざるの用意あり、船室は最上のポト甲板には船長室特別ステートルーム、次ぎのポト甲板には一等客ステートルーム、二等客ステートルーム、二等客ステートルーム、二等客ステートルーム、其の次に正甲板には三等客室、船員室、船員食堂等あり、乗客定員は一等十五人、二等二十人、三等二十人、合計三十五人なり。此他従来の定期補助航海は毎日一回づつ航海するを以て旅客が得る所の交通上の便益は蓋し大なるべし。



魚肥昆海産物 油 布 料 穀 類

委託買賣商

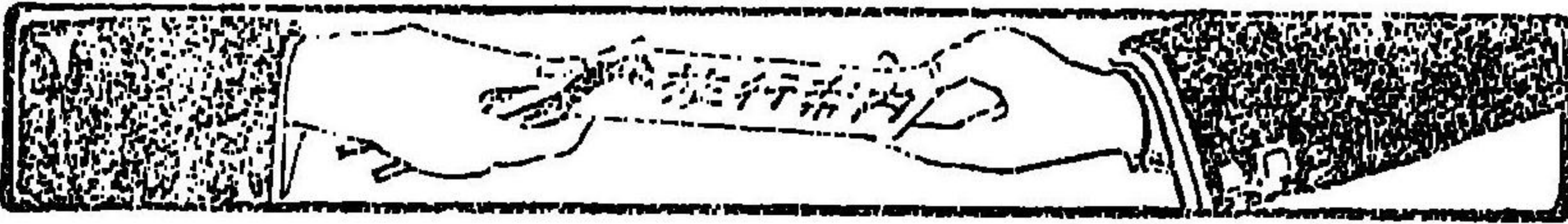
前田三郎商店

函館區仲濱二十番地

電話一三三番 電略(マ)又(ハ)



函館



函館は北海道に出入する關門にして北海道鐵道の起點たり、本道中の最大良港にして殷盛亦之に及ぶものなし、小樽の其開發未だ日深からざるに反し、函館は既に百有餘年前より市街地を形造り久しく全道の商權を掌握したるを以て萬般の秩序整然たるものあり。

位置 函館港は津輕海峡の北渡島灣の中心にあり、函館山(一に臥牛山と呼ぶ)其形恰かも牛の臥すに似たるより、額三郎の名けし所と云ふ。灣中に突出し、砂地を以て陸に連り、海水深く灣入して、巴字の形を爲す、因て又巴港の稱あり、港内波穏かにして碇泊甚だ安全なり。港城東西一里二十町五十間、南北一里二十四町三十三間、水深約八十九尺あり、港口は西南に向へり、海上の交通としては全道一周する航海の起點地たり、本

函館

一九

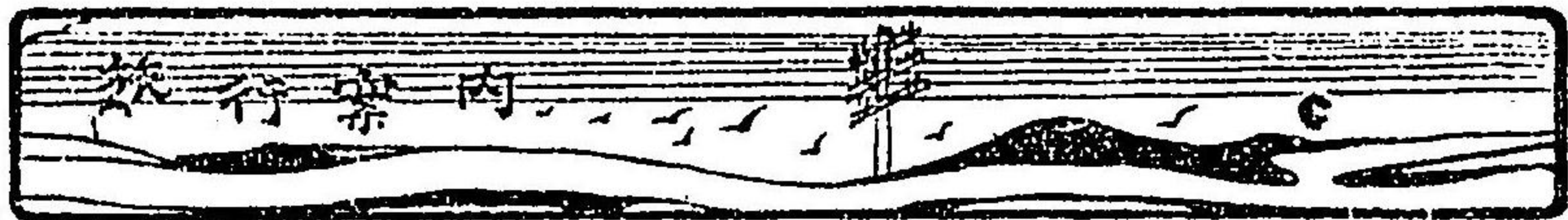
函館は北海道とを連絡する幹線道路たり、海産物、貿易の中央市場たり、支那朝鮮南印度に對する本道漁獲物供給の唯一の發點地たり、加ふるに近時亞米兩大陸間航行船舶の瀬戸内海を通過せしもの其航路を變じ津輕海峡を通過するもの漸く多きを以て兩大陸貿易の發達と共に前途の發達亦測るべからざるものあらんとす、陸上の交通は室蘭を經て東京に至る海上七十九哩鐵道百一十一哩、晝夜にして達すべく、青森を經て東京に至る海上六十哩、鐵道四百五十六哩、晝夜半にして達すべし、函にして北海道鐵道の全通は更に函館港に新生面を開かしたる所以のものにして、其小樽との距離百五十哩、除十時間内外にして札幌に達するを得べく、此間渡島、膽振、後志の農耕地及び漁場を控へ、商運日に月に旺盛に起きつゝあり。

沿革 函館は今方特別自治制の下にありて「函」と稱せらる函館とは同と蝦夷語にてツシコロケン







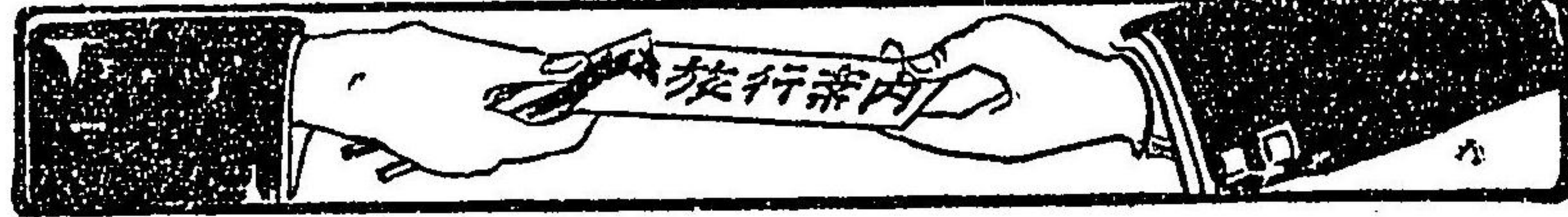


は土崎、酒田、新潟、伏木、敦賀等の各港に商業上の連絡を通ず、此間に於ける輸出入は頗る旺盛を極む、最近の調査に依れば管外のみにて其の輸出千八百六十二萬八千二百五十九圓、輸入千六百七十八萬七千六百五十三圓の多額に上り、而して外國貿易に至りては五港の一として早く安政年間の開港せられ、清、露、英、米其の他各國の貿易盛況を呈せり、對清、對露の貿易に至りては開港中屈指の觀あり、最近調査に依れば輸出額は二百〇〇五千五百二十四圓餘、輸入二百七十九萬五千二百一圓に達し尙ほ年々を逐ふて隆盛に赴きつゝあるを見る、商業上金融機關としては日本銀行出張所、百十三銀行、函館銀行、二十銀行支店、第三銀行支店、拓殖銀行支店、函館貯蓄銀行あり、會社には函館汽船、函館運送、物産商魚商の各株式會社あり、北海産業、新北物産、函館米商の各合資會社あり、工業に至りては未だ旺盛なりと云

遊覽案内

ふ能はずと雖も其重なるものを舉れば函館船渠會社資本百二十萬圓) 渡島水力電氣株式會社、大竹、國永、島野の各造船所、北海機械網株式會社、函館製瓦合資會社、其の他數多の精米所、昆布工場對岸上磯には北海道セメント株式會社(資本七十萬圓) 其他清酒釀造十四醬油釀造十三ありて何れも造石高は年々人口の増殖に伴ひ夥しく増加しつゝあり。

農業の概況 農業に至りては僅かに龜田村の一部に於て行はるゝに過ぎず漁業には柔魚、鰯、昆布、鰈等の産額最も多く、柔魚の如き年々十萬圓以上鰯の如きも四五萬圓を下らずと云へり。



市杵島神社 祭神市杵島姫命(創立年月日不詳明治六年兵燹に罹る)を見るべし進んで埋立地(沿革の部参照)に入り

船渠會社 を見るべし、構内廣濶にして汽船船渠、築港船渠、發電所、諸種の工場俱樂部等設備の大なる東北之に及ぶものなし、夫より遊覽地(東京淺草奥山の如き興行地)を経て葦町の遊廓を上れば大寺院あり。

高龍寺 云ふ曹洞宗法源寺末僧芳龍開基寛永十年五月龜田村に創設せるも後此處に移る、次で船見町には二寺一社あり。

釋名寺 淨土宗普光寺末僧順設開基正保元年龜田村に創立後今の地に移る堂宇壯麗の大伽藍にして京都本願寺大建築の棟梁たる東洋第一の美術建築士にして帝室技藝員たる伊藤烈齋翁の建築に係るものなりしも焼失後目下再築中なり。

寶行寺 日蓮宗僧日淨開基明暦元年創立に係る

山の上太神宮 天照皇大神、豐受大神を合祀せり應安の頃龜田郡赤川村に奉祀後天和二年函館に奉遷せるものなり、元町に入りては函館支廳、體育會支部、正教會、天主教會、商業學校以下の各學校の外

船魂神社(祭神鹽樺神大綿海建波夜須佐之男神延保年中創建)あり。

大谷派本願寺別院 舊稱淨安寺真宗僧淨玄開基寛永十八年木古内村に創立、元祿三年泉澤村に移り寛永六年當地富岡町に移り尙ほ明治十二年今の地に移る)等を見上りて沙見町に入れば

水道配水池 あり(沿革の部参照)横濱市に亞き全國第二次に成る。池は高低の二區に分たれ、周壁及び底面とも混泥土に粗石を雜へて築造し、底面に煉瓦石を敷きたる二萬八千四百九十五平方尺の貯水池にして、其位置高燥にして函館市街の一半を眺むるを得べし、尙ほ行くこと數十歩にして

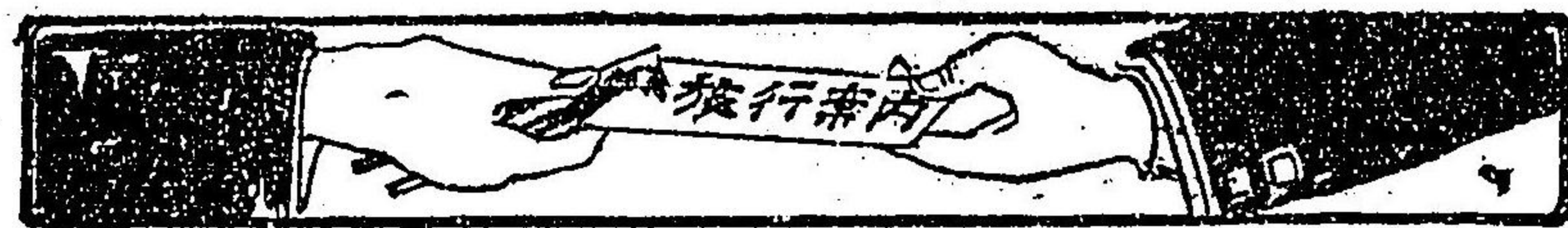
# 町岡鶴館函 館旅今

招魂社 あり明治二年勤王戦死者の靈を祀る同年九月創建、同十年七月松前修廣等金を獻じ拜殿を建て有地行古和田義弘前田棟淨等碑を建つ高さ九尺後總督清水公考文を選し、其勤勞除漲を記す、例年六月十日を以て大祭を行ふ、境内芝生廣ふして松を植ゆ、堤上に立つて遠く望めば外洋港内双眸に入り來る、常に人の賽するもの稀なるも亦た一遊の價値あり夫れより轉じて

公園地 に入るべし、公園は青柳町より谷地頭町に接す、明治七年の開闢にして地積凡一萬四千六百坪、十一年以來宜民協同假山を築き花樹を植へ風致大いに整ふ、公園の北方なる摺鉢山に登りて南方を眺むれば右は立待岬、左は潮首の崎、前方は乃ち煙波漂渺の間、黒煙を吐て馳る飛脚船、白帆を孕みて來る大和船、漁舟其間に點綴して一幅の活畫なり、北方の内海は帆檣林立遠く對岸の七里ヶ濱、乃ち戊辰の亂に奮發巨中島三郎助父子が

血戦して馳名を輝したる古戰場を見るべく、前後とも宛然パノラマ館なり園中には博物館、水産陳列場あり、共に商業學校の附屬なるも函館縣時代建設せるもの、陳列品は重に本道の物産なれば以て本道の富源を見るべし、其中に各種の漁業方法を一々模型によつて示し或は漁撈の器具に一々説明を附して列ねればまた漁業地を視察するに及ばずして其多くを知るを得べし、園を出れば谷地頭 に至る同所は閑雅幽邃の仙境にして紳士紳商の別墅多し、温泉場には勝田温泉、金鱗温泉あり、割烹店には百花園、常盤木、勝田樓、柳川等何れも庭園の美を以て鳴る、夫より臥牛山の山腹に

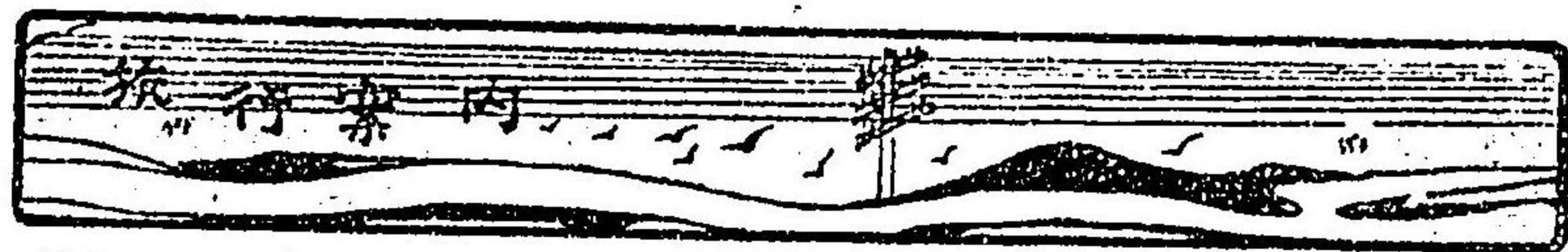
八幡神社 あり同社は國幣中社函館總鎮守祭神、應仁天皇合祀住吉大神金比羅大神諏訪大神田村神慶安年間巫伊知女奉仕す、函館第一の大社たり、同社を一拜して路を上れば要塞司令部、土人學校



あり尙上ること久ふして

碧血の碑 あり緑樹翁畫尙は暗きの處に一大碑石あり之れ戊辰の役幕府の爲めに斃れたるもの、曲魂を弔せんが爲め建立せるもゆ、毎年有志者施餓鬼を行ふ。

七面山 臥牛山の中腹港内に接したる方にあり、上に一小旗亭あり、就て全港内を俯瞰すべし、臥牛山は更に十數丁を上らば其山嶺に達すべし、日蓮上人の高弟日持上人滿洲布教の大願を起し、今を距る六百有餘年の昔鎌倉を出で、遙に蝦夷ヶ島根に渡り此山に上りて遠く西比利亞地方を望み結縁の爲めに一大石に七字の題目を彫りたるものあり(推齒參照)之を經石と稱す、されど今日要塞砲兵の屯するありて七面山以上に登るを許さず、經石亦た好事の人の見舞ふもの稀なり、谷地頭の散策を了らば青柳町に入り高野山、秋葉山等を見夫より春日町に至り



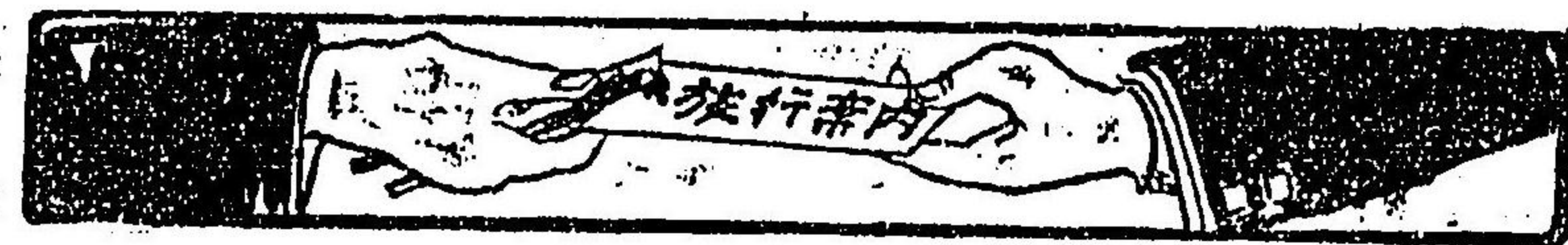
**新注連寺** (眞言宗應永四年創立)、新善光寺(淨土宗安政四年創立)、天祐寺(天臺宗嘉永年間創立)等相生町に入りては常住寺(日蓮宗明治十二年創立)高野寺を見下りて蓬萊町に至れば、東照宮あり、東に道を執れば

**大森濱の海濱** に出づ一に赤石の浦と名く、白砂十里波は太平洋より寄來れども高からずして夏時は海水浴に適し浴客常に群集し且つ眺望快湖にして實に避暑の好適地として有名なり、夜間は露店の陣を列ねて雑沓を極むる新藏前町は其左方にありこゝを離るゝ一丁餘にして劇場あり巴塵池田座、大和座と稱す。

**湯の川温泉** は市街を距る一里二十丁の東方の地にあり、松倉川の河口にして、北は丘陵を負ひ南は海に臨み眺望甚佳なり、函館よりは鐵道馬車の便あり白銅二筒を費さば至るを得べし、温泉は數ヶ所に湧出し湯元を石川と云ふ、泉質は硫化水

素にして温度九十五度無色透明味稍や苦澁を帶ぶ鯨泉の噴出する所、林長館、洗心館、保養園等にして何れも旅宿と割烹を兼ね四時遊客絶へず一日の清遊約金壹圓にて足る故に就中夏季の如き内外人の涼を此所に納るゝもの頗る多し、地海濱に近接するを以て鮮魚に富み、秋季は幾條の小川に鮎釣を試むるも亦一興の價値あり。

**五稜廓** 龜田郡龜田村にあり、函館を距る東北一里餘、安政二年函館奉行竹内保徳、堀利等築く諸術師龜田慶三郎經營し、三年大ひに土工を興し元治元年に至つて成る、六月函館奉行小田秀賢移つて此に居る、明治元年五月一日函館奉行松浦誠効を官軍參謀井上石見に致し、十月徳川脱走の徒陥れて此に據る乃ち榎本武揚氏の占領したる所なるを以て其名高し、冬時其外壕の水を氷結せしめ、伐出するものを函館氷と稱し海内に其名聲を馳せしす。



**共榮倉庫** は真砂町にありて停車場を距る僅に三丁にして船舶汽車共に貨物の運搬至便加ふるに、總建坪二千二百六十餘坪、總煉瓦造にして極めて堅牢なり、海岸接續地には専用船渠を設ければ貨物の揚卸には頗る便利尙同倉庫發行の預金證券質入證券は各銀行に信用あり其他倉庫入貨物には「コンマーシアル、ユニオン」保險株式會社外三社資本金合計七千五百萬圓代理店大倉組及「ヨーク、シャー」保險會社資本金一千萬圓代理店「ドットツエル」商會と特約あるを以て低歩にて火災保險を付するの便ありと云ふ、共榮倉庫回漕部は仲濱町にありて舊棧橋及び税關を距る僅々二丁にして且つ店前に堀割あるを以て貨物の揚卸には便利此上なし。

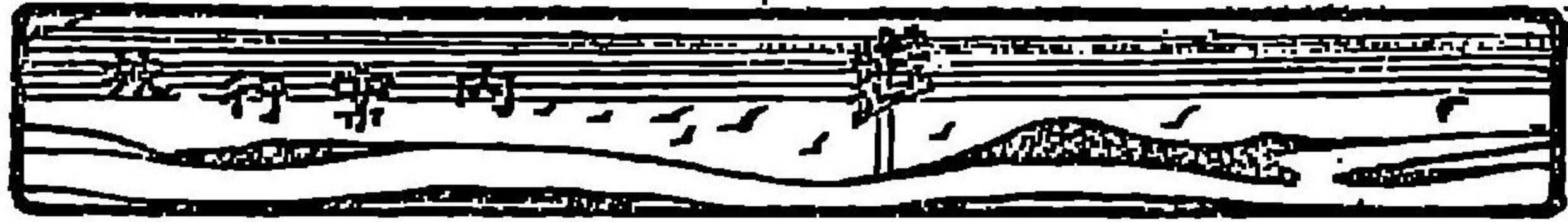
**安田倉庫** は明治三十二年七月の創立にして倉庫は五棟(二千七百坪)より成り煉瓦倉庫は防火に耐

る堅固の建築なれば貨物保管上最も安全なり、又構内には貨物の手入に充つる爲め乾燥場の設けあるを以て貨主の便利なり、尙消防の設備として構内に専用消火栓の設けありて萬一に備ふ其他船入漆の設けありて貨物揚卸を自由ならしめ海陸連絡に遺憾なき設備完全し居れりと云ふ。

**旅館** 宗澤、勝田、納代等其他停車場前には富士屋旅館ありて汽車汽船の乗降に便利なり、

**龜田驛** 本驛は函館驛を距る僅に數丁にして元函館停車場のありし所にして函館驛の新設に依て龜田驛と改稱せるものなり。

**北海道セメント株式會社** は上磯郡上磯村にあり同社は明治廿三年四月の創立にして資本金廿萬圓



なりしが同三十年二月資本金を三十六萬圓に増加し、工場を増設し職役後の國運の發展に伴ひ新に獨逸最新式機械大形複式回轉窯二基及び之に適合する新式機械を新設し、一ヶ年間に四十萬樽以上の製出方針を定め、尙資本金を倍加して七十二萬圓となし四十二年三月要部の竣工を告げ磁骨煉瓦造の一大宏壯なる工場は上磯港頭に聳立するの壯觀を呈せり、尙副業として三十二年以來九萬圓を投じて煉瓦製造工場を起すあり、而して同社の製品は何れも優良にして好評噴々たり、販賣部は上磯の本社の外函館、小樽、東京等に各出張所あり、特約販賣店は本道、樺太、奥羽方面及信越地方に亘りて數十ヶ所あり、亦製品原料採取地は工場を距る五哩のガロー澤より原料の石灰石を採掘し、釜足澤よりは原料粘土を採掘し何れも磁路を敷設し馬力を以て搬出し居れり、現今使用せる職工は四百餘名其他に日雇受負人夫等八百餘名なりと云

ふ、尙鐵道は上磯支線を敷設の計畫あるを以て近き將來は搬出の便を得以て同合社が工業界に向つて尙一層の一大飛躍を試むる蓋し遠きにあらずるべし。(口給同合社の寫眞版参照)

● 桔 梗 驛

桔梗驛 は渡島國釧田郡釧田村大字桔梗村字桔梗野二十八番地にあり、村の名は往昔此邊桔梗草叢生せるより起れりと、東方字神山村に隣し南方字石川村に接す、戸數百三十一戸、人口七百二十八近傍皆平原にして地味宜しく道路の左右は多く私有地にして田圃遠く開け、農耕の盛なる尙も内地に比して遜色なし、産する所の農産物は米麥其他の雜穀、果物、蔬菜等にして就中大根其他の蔬菜の如き兩節區の需要に應ずる者頗る多く村民經濟の大部分を占むるの概あり、漁業は兩節區に接せ

ト  
ラ  
ホ  
ー  
ム  
明  
輝  
水

函館區海岸町

本舖 竹原善太郎

電略(タケハラ)又ハ(メキ)

船釘建築用金物  
其他製鐵一式

函館區旭町二百四十番地

高橋仁作

函館區鶴岡町三十五番地

白取醫院

院長 白取貞齋

胃腸病科  
婦人病科  
脚氣病  
宅診 午前 往診 午後

菓子種製造  
井 打物製造  
商

豊

函館區鶴岡町卅一番地

倉内豊吉

電略(クラウチ)又ハ(ク)

馬車道具并二  
 乘用馬具一式  
 製造卸販賣所



岡本幸吉

函館區若松町七番地

電話(チカ又八〇〇)

鮮魚  
 いか鹽かゝ商  
 鯉網一手販賣

七式場忠吉

函館區西川町六十番地

電話(ヤマセ又八七七)



油 釀 造 元  
 清水外次郎

函館區旭町二百四十番地

和洋製靴  
 附馬具原料

伊多波商店

函館區西川町五十九番地

製靴一等賞牌  
 會進共産畜道海北回  
 領受牌賞等壹  
 會進共産水道海北於  
 領受牌賞等壹

諸毛皮製工革  
 諸毛皮製工革  
 諸獸皮製造場  
 依類ニ應ジ可申候

伊多波製革所

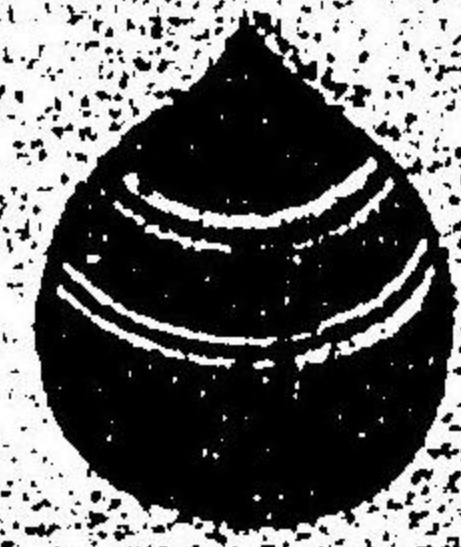
營業品目  
 和洋製靴用革  
 和洋馬具用革  
 和洋帽子用革  
 和洋椅子用革  
 和洋製道用革  
 諸製道器具類  
 其他附屬品類  
 馬具類製靴類  
 毛皮防寒物類  
 定價表ハ御申  
 込次第進呈

賣 販 大 價 廉

創業明治十六年〇〇

北海道名産

有 功 銀 牌  
 改良 曬 箔  
 片 栗 粉



函館區東雲町三四二

製元 造祖  
 盛 箔 舍

小菅彦次郎



靴馬具靴  
毛皮賣買  
製革毛判  
製造販賣

小川店

函館區末廣町三十四番地

(電話四七二)

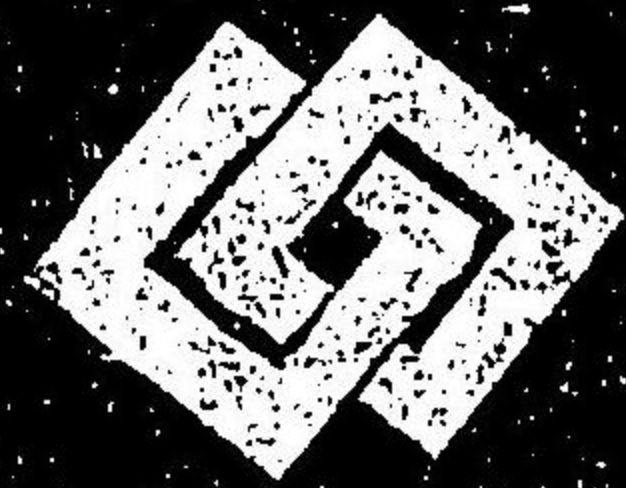


王冠印  
一ダイサンピンヤシ

製造元  
函館區鶴岡町  
玲泉舎  
近藤豊  
(電話一三番)

馬

馬車修理



美和利

デシワ  
六五八

材木商  
社 渡邊 貞業

函館區東川町百七番地

渡邊 増太郎

電話九五五番

函館區百六番地

渡邊 本工部

函館區高砂町十五番地

同 薪炭部

渡邊 勤 奉節 郡 上 瀬川

同 製材部出張所

同 山越 郡 湯 岩 村

同 製材部出張所

室蘭 港 母 船

同 家貨 商支店

品と匂ひの良いのが

自慢です

東京 平尾製

二石炭

御試みの上御批評を願います

函館區地蔵町

一手 販賣 本下二八堂

酒 問 屋

松

小 山 富 藏

函館區末廣町七十八番地

電話二二七番

製 作 品 目

醫療器械 去勢術器械  
獸醫器械 畜牛器械  
牛乳試験器械 結核検査器械  
藥局用具 産業用器械  
理化學器械 電気鍍一般  
其他器械調製修繕一切

函館區蓬萊町百卅四番地

資 生 堂

樋 渡 誠

花大黒天印  
福神漬

ブリキ印刷罐乙號

製造發賣元

内田勇太郎商店

特約店 林 豊三郎

函館末廣町

同 小瀧彌五郎

小樽色内町



寶珠大黒天印福神漬

ブリキ印刷罐甲號

特約店 梅津福次郎

函館末廣町

小樽色内町

壽原合名會社

札幌南二條

古谷辰四郎

助正銘

天王寺鋸  
大工鋸  
ヤスエリ

製造販賣

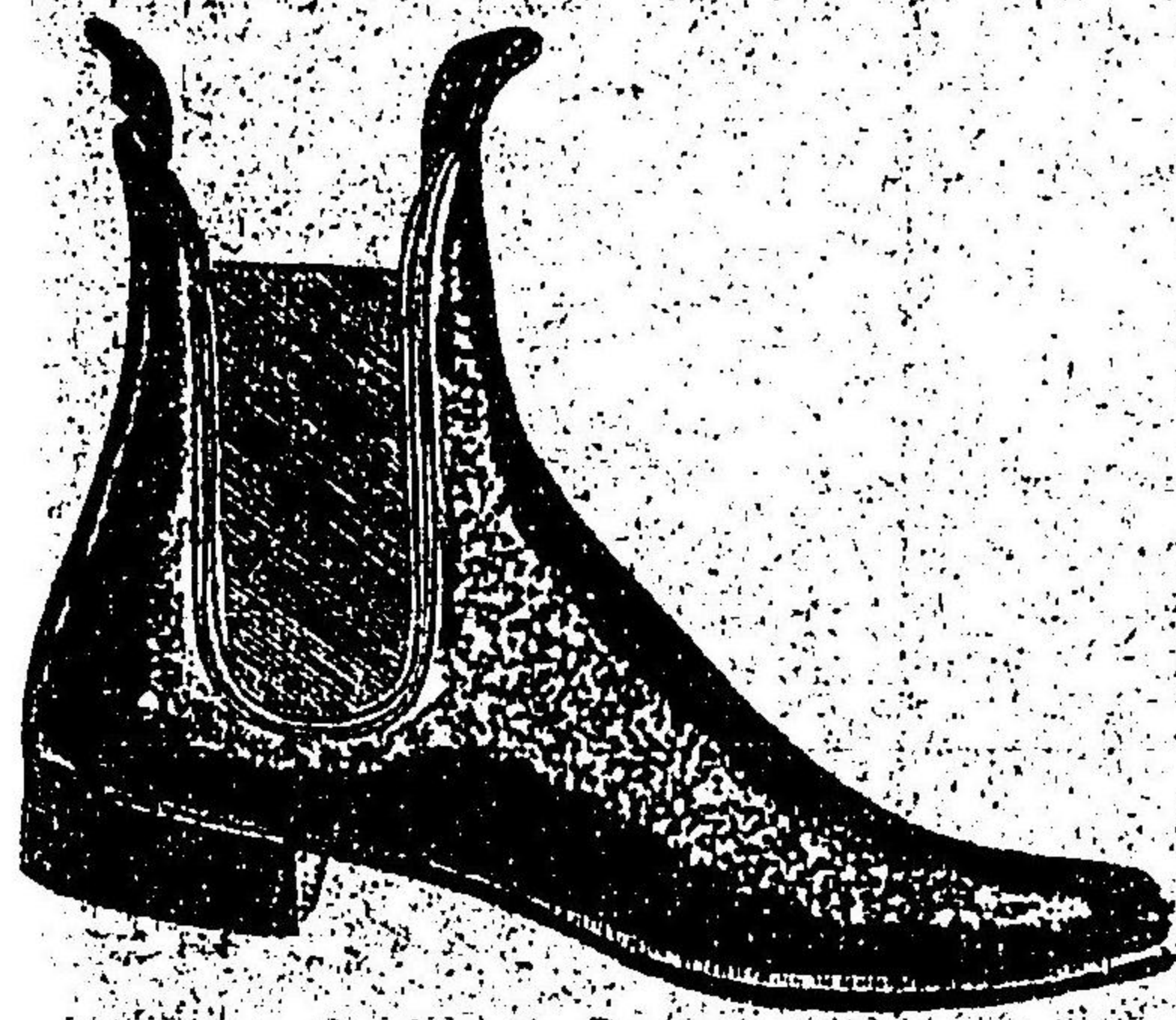
助中屋

函館區西川町六十三番地

店主 中屋助二

靴各種

耐久堅  
牢無比



函館地區藏町七番地  
高村由藏製靴所

松

藥品、衛生材料

(管)理化學醫療器械

業工業用藥品並染料

種內外著名賣藥

(目線香沈香薰物類

流行化粧品各種

藥學士 藤本理先生發明

生毛液ピロージェン

藥學士 藤本理先生發明

除毛劑 デピラ

同 橋本先生配劑

美顏料 オテロ

秋田、荒川吉五郎製劑

官許馬 脾風之藥

酒田、小澤寛丸氏謹製

骨繼大妙藥 撲傷散

函館區末廣町九番地

天森 回生堂藥舖

三井倉庫會社藥部 函館分店

一般海上保險業

函館區西濱町二〇番地

元帝國帆船海上保險株式會社改名

東洋海上保險株式會社函館出張所

電話(四)〇八番

本社東京市京橋區本湊町三番地

特長電話新橋 二六五〇番  
二六五七番  
二六五八番



汽船、帆船、遠洋漁業船、川崎船其ノ他各種船舶及ビ

機關汽罐ノ製造修繕

陸上工事迅速割安ニ勉強可仕候

木材海具板販賣

函館區西濱町西村造船所

西村 岩吉

工學士 吉浦林太郎

N

温泉  
旅館

下湯の川温泉元祖

平東洋館  
赤澤のふ

温泉旅館

豊田  
原湯  
萬の  
吉川

刻昆布袋詰  
青板昆布卸小賣商  
沃度製造

函館區榮町番外地

列阿木政吉

# 蟹罐詰業

函館區高砂町拾六番地



佐藤罐詰所

函館驛船車連絡待合所

○電話賣買 ○便利貸金

土地建物  
地価証券  
買取借當  
金貸借

企  
業立仲

函館區壽町十二番地坂通り

加賀屋慶輔

電話(九五九番)

○眺望絶佳にして

壽

會所町二十一番地

御料理

見晴亭

○浴室の設備あり

旅館

泉

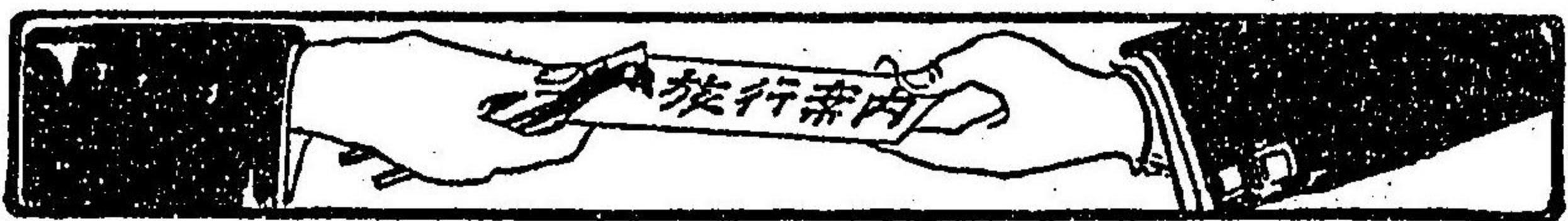
ふいぢ

日本郵船會社乘客切符取次所  
函館停車場真向七

館主

伊藤辰四郎

電話番号  
五三三二



る一大部分に於て行はれ産する所を最とす、然も年々の産額百四五十石を出す。

園田牧場は停車場の東方にあり、東北は障子山横津岳、七飯嶽等の山脈を繞らし南西は平野に連なる地質一般土にして可なり、周囲は築堤及松杉、栲、栗、落葉松等の樹林を以てし北方よりは蕨澤及タ、ラ澤の溪流を分派して場内の中央を貫流し水利を便にせり其創立は明治二十年三月にして園田實徳氏の所有に屬し實弟彦七氏之を管す、其面積百八十五萬四千八百五十七坪内四十一萬坪は牧草地、百十四萬四千八百五十七坪は牛馬其他の放牧地、二十九萬坪は普通畑地にして其他一萬坪の餘地あり、飼養の畜類は洋牛五十六頭、馬匹洋種四十頭、雜種十頭、豚數十頭にして例年十一月月中旬より翌年五月中旬迄は舍飼し五月中旬より十一月中旬までは野牧し、年々青森、岩手、鳥取諸縣に搬出賣却するもの其頭數十頭以上を下ら

す、創立以來今日までの販賣数は既に六百五十頭に上れりと又交尾の依頼者漸次増加し一昨年の如きは其數馬百十七頭、牛五十頭に上れりと。

煉瓦場 函館停車場を離る、少許大字龜田村に製瓦合資會社の工場あり、煉瓦、屋根瓦、土管網足、壘等を製造し、販賣價格は概略五萬八千圓以上にして毎日使役の職工勞役者は五十人内外なり。  
温泉場 大字神山村字笹流にあり、室本健太郎の經營に係るものにして源泉質を有す、毎年函館より入浴するもの其數平均七十人内外、停車場より距離約四里なりとす。  
風景 函館停車場より本郷驛に至るの間一帯の平野にして菜園麥地遠く連なり、鶏犬の聲相交はる如き國道の兩側には松並木の緑滴るあり、後には臥牛の山登え、山麓淡雲の浮ぶ處函館の市街を包擁み、前面は巴灣に對して恰も一大島嶼に似たるものあり、前には横津島、障子山、七飯嶽、





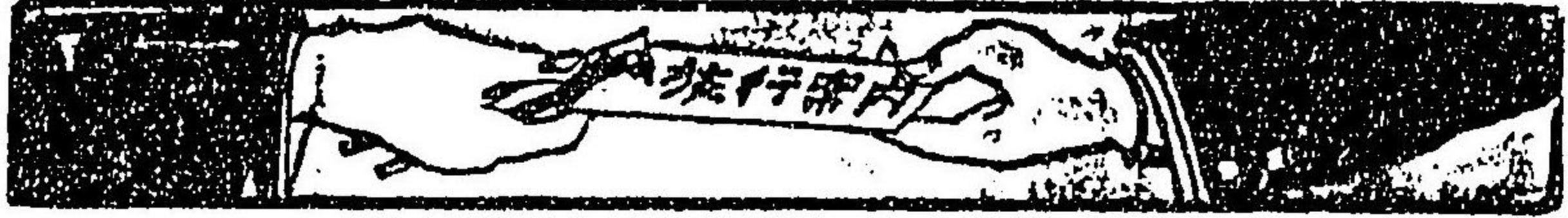
卸酒類、醬油  
小賣商  
函館區大町廿九番地  
菊泉堂

奥山音吉商店  
電話(七百五十番)

駒ヶ嶽の諸山峰巒連亘して笑ふて北遊の人を迎ふるが如し、明治十四年、陛下北巡の際、龍を石川野に停めさせられ暫らく此間の風景を御覽せられたるに徴するも其佳景の一斑を知るに足らんか爾來此附近を稱して御野立場と唱ふ。  
神社佛閣 村比連里神社は聖德太子を祭り安政五年の創建に係る、寶皇寺は舊廣大寺と稱し、萬延元年改稱、眞宗大谷派本願寺僧光勝開基、安政六年の創立に係る。



### ●七飯驛



七飯停車場は渡島國七飯村大字七飯村字狐穴五十三番地にあり、本村は元龜田支廳所在地にして文化年間より既に農民の移住を見たりと雖も、其村をなせるは近く明治の初年にあり、之より先き開拓使は此地に勸業試験場を置き、又専ら農民の移殖に勉めたるを以て漸次戸口増加し目下の戸數二百八十戸餘、人口一千五百三十九を有し龜田郡中屈指の大邑たり、其七飯村と稱するは明治十二年七飯飯田の二村を合したるによると、方言「ナアナイ」と呼ぶは數所澤あるの義なり。  
農業 本村の農事を叙するに際し、最も深き關係を有するは勸業試験場の事蹟なりとす、初め文化年間七重村の民地を官に借入れ、圃を開きて杉苗を植ゑ、箱館奉行も亦墾して朝鮮人參を植ゑしむ安政年間に至り藥圃を開き傍ら松、杉、菜、楮等を

七飯驛

養ふ、明治元年箱館裁判所生産方に屬し、學國人賀見吐補留をして農事を試ましめ、後之を止むるに及んで七重開墾場と稱す更に試験場となして盛んに米國産動植物を移し其適否を試みて民間に及ぼさしむ、之等の施設は開拓使が力を札幌方面に注ぐに及んで悉く廢せられたりと雖も當時の遺影今尚ほ存し松、杉、菜樹の類皆之れ文化以來の遺物なるのみならず、農業の他に比して一段の進歩をなしつゝあるが如き何れも其餘惠ならざるなし、農産物は米、大小豆、蕎麥、馬鈴薯、大麥、粟等なり林産物としては此附近一圓木炭を重なるものとす七飯、大野兩村の官林及び御料林内に炭竈約六十餘あり一箇年の産額約八千餘圓にして有民林及び貸付地の炭竈數及び其製産額も畧ほ同數と見て大差なかるべし、薪材は民有林及び貸付地に於て伐採するもののみなるを以て其詳細を知るに由なしと雖も當局者の見込にては一箇年三千棚内外

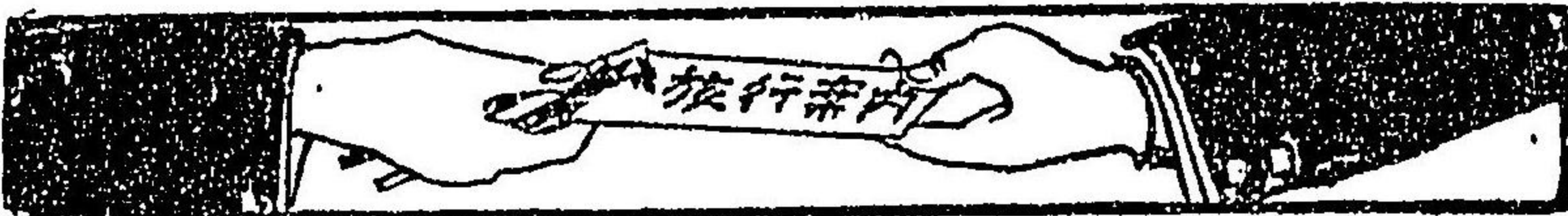
三三



### ●本郷驛

なるべしと云へり  
 風土 此地土地清操深流四方を環旋し氣候爽快最も人意に適す、脚氣患者の如き茲に轉地療養するもの多く治せざるはなし。  
 官公衙其他 村内、七飯警察署、七飯郵便局、七飯村役場、北海道廳林務課派出所、七飯病院、七飯重商産株式會社等あり。  
 神社佛閣 郷社三島神社は大山祇命を祭る、寶杉寺は護國山と號す、曹洞宗高龍寺末僧祖雲開基文化十二年八月創立す。  
 温泉 大字峠下村字ム澤に熊の湯あり、七飯停車場を距ること二里十町餘なり。  
 舊跡 大字藤城村に相原周防守の城址あり、字城岱と公認す、七飯停車場を距る約一里の所にあり。

本郷驛は渡島國龜田郡大野村大字市の渡村にあり江差町に至るの要驛なるを以て車馬常に輻輳す、大字大野本郷、文月、千代田、一本木等と共に大野村に屬す、當地方は七飯地方と共に最も早く開拓されたる地にして字文月村の如きは寛政年間早く既に農民の開墾を試みたるものあり明治初年の頃より農耕の業大に進歩し渺々たる平野一粟田圃ならざるはなし殊に近來水田を開くもの多く今後四五年を経過せば僅に二千町歩に上るべしと、現今産する農産物は米、大小豆其の他豆類、馬鈴薯等其重なるものにして産額の多き此附近に匹敵するものなし、主村大野村は停車場を距る三十町大野村役場、函館地方裁判所出張所、大野郵便局等皆此地に備はり宛然小市街地をなせり、  
 神社佛閣 郷社意富比神社は大野にあり天照大神を祭り創祀年月未詳なるも享保年間重修の事ありしを以て其古社なるを知るに足る、大悲庵(曹洞



### ●江差町

宗延享二年創立)は市の渡に光明庵(曹洞宗明和四年創立)法龜寺(日蓮宗明治二年創立)は大野に大郷寺(真宗文化二年創立)は本郷にあり。  
 本郷驛より鶴山道を経、行くこと十四里にして江差町あり、乗合馬車の便あり、同町は檜山郡の西海岸にある一市街にして舊と蝦夷館の在りし所なり、前は日本海に臨み、後は岡嶺を負ひ、市街は海濱に起り山腹に連り、南北に長くして東西に狹し海濱一帯を除くの外は概ね傾斜をなす、北は一條の街路によりて隣村に接し、南は北村に通ず港は鷗島の南津花町の西北に在り、港口右五百八十一間、左六百十六間、横五百十四間、水深七間五尺七寸にして港内に遠礁、伊丹礁と稱する二箇の暗礁あり。

同町の開創は最も古きに互り、今一々考査すべからずと雖も、其漸く繁榮するに至りしは松前氏の治をなせし以後よりとす、降つて松前の版圖を極むるに當り松前の人其殷富を誇るに城下三千戸、函館江差千戸を以てせりと、當時商業漸く盛に船舶の出入又繁頻を加ふるに及び、沖の口番所を設けて出入船舶に課税す、要するに江差は和船の出入に便あるに加へ、人為の制度を以て商業地と爲せしにより外は内地に對し交易をなし、内は近傍各地より藩都、岩内、小樽等に至る貨物を集散し以て大に勝利を占め現時の繁榮に達せしを知る、今や人為の利復た在らず船舶出入の便、古の如くならざるを以て其繁榮舊時の如くあらざるも尙本道西海岸の要港として本道有数の都市たるを失はず、輸入品の重なる者は米穀其他衣服太物類及酒類等の日需品にして輸出品の重なるものは鱈、鰯、鮫等の海産物なりとす。

本郷驛



漁業は鮭漁を以て最とす、毎年春季に至れば近傍の漁村漁夫腐集販紙に盡すべからず、近年稍や不漁の傾あり、従て市況に著るしき影響を及ぼしたるは頗る遺憾とす。

農業は地海に瀕し山を負ひ平地少きを以て田圃多からずと雖も、近傍各部廣原沃野に富み拓けて田圃たるもの多きを以て逐次耕耘の業進み農産夥しきに至らば江差の商業を振興する所必ず大なるべし、養蠶は年を逐て盛にして製絲會社の設けあり。

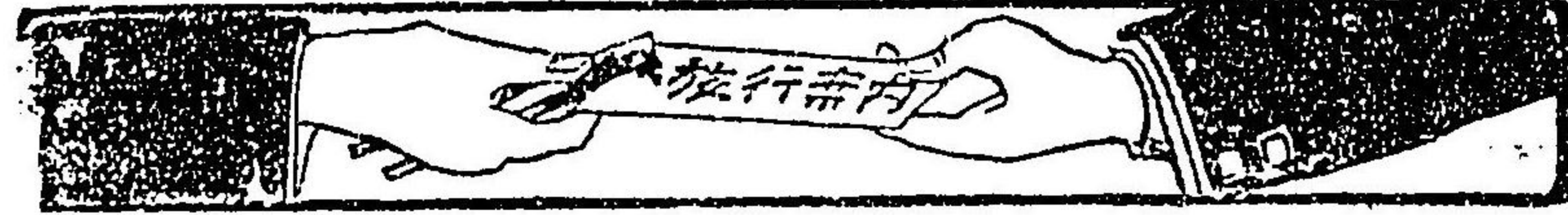
市街の状況 市街の内最も繁華なるは姥神町、中歌町等にして官公衙及商店の大なるもの皆此兩町にあり其重なるものを擧ぐれば中歌町には江差貯蓄銀行、北海道銀行支店、江差病院、警察署、町役場等、姥神町には諸銀行を始め大商店櫛比す其他區裁判所は法華寺町に郵便局は切石町にあり全町總戸數二千三百三十九、人口一萬八千六百九

十。

温泉 江差より熊石に至るの間柳崎村宇五厘澤に温泉あり旅店浴場を設く温泉は九十八度より百七度に至る酸性亞爾加里泉なり又泊川村宇見市に見市の湯あり温度百六十度沃度浦魯母泉なり。

名勝 としては島あり陸地を距る二百三十四町除に一の小島あり、周囲二十四丁餘にして巖上に嚴島神社と三等燈臺あり、又皇太子殿下御婚禮の記念林あり、陸上より之を臨めば小築山の池中に沿するが如し、此山は江差町の東北館村との境にあり、此嶺に遠山神社あり、法華寺の上に位せる山上に招魂社あり、眺望甚だ佳し。

姥神神社 姥神町にあり天照皇太神、天兒屋根尊住吉三柱太神を祭る、境内八百六十六坪市街に臨み懸崖にかゝり、神氣人に迫るの感あり傳へ曰ふ昔時一老婦あり一夜間に一條の閃光、島より至ると夢み、覺めて島に至れば一老翁の柴を焚



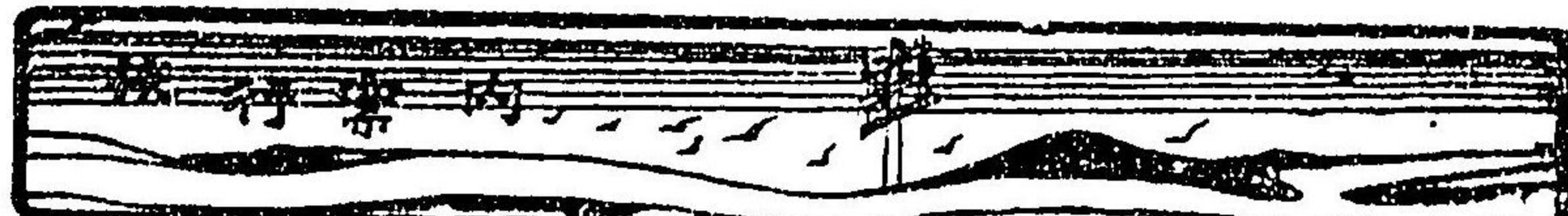
くあり、願みて一小瓶を老婦に授け且つ告げて曰く、瓶中の水を海中に投せば、鮭夥しく海濱に群集せん、毎春之れを網して民其業となすべしと、忽焉として消失ぬ、老婦欣怪歸りて其言の如くせば果せるかな蒼海白色を呈し鮭集り來る、老婦人に教へて網を投せしむるに一網にして魚船に滿つ曰く毎春之れに網して民業と爲さば長く飢餓の患なかるべしと、終りて老婦も亦行く處を知らず、蓋し姥神は此老婦を祀れる神社にして鮭漁業の祖神として崇敬せらる、手洗石は中歌町の海濱にありこれ老女の瓶子を投せんとするに當り盥嗽せし處なりと又瓶子石は津花の沖島島の濱にあり、老女の海に投せし瓶子の化石せしものなりと傳ふ、其他神社には招魂社、賢光稻荷(新地町)檜山神社(樺町)愛宕神社(北新町)其他無格社多し。

寺院 には日蓮宗法華寺(法華寺町)淨土宗阿彌陀寺(澤茂尻町)眞宗大谷派本願寺別院(九艘川町)眞

宗本願寺派別院(中歌町)等あり。

江差織物工場 江差町には工業に屬する創設一もあるなく且つ從來漁業を以て唯一の利源なりとのみ夢みたるも、比年不漁の結果は遂に世人をして興業の發達を促すに至りたるは實に喜ぶべきの現象なりとす、於是江差町の有力者にして新進の氣鋭に富める田口伊右衛門氏自から進んで數千金を投じ江差織物工場を明治四十一年九月に始めて創設し數十臺の織物機械を据付け工女四十人を以て目下盛んに織出に従事せり、而して其種類は愛宕縞、鷗縞、江差縞の三種にして其一箇年の織出反數一萬反餘に達し尙ほ往々は北海全道の需用に應ずるに止めず且く内地諸府縣へも輸出するの目的なりと云ふ、當地の特産物として此種の事業の勃興を見るは獨り江差の利益のみならず實に本道殖産界に裨益を與ふる尠少にあらざるなり。

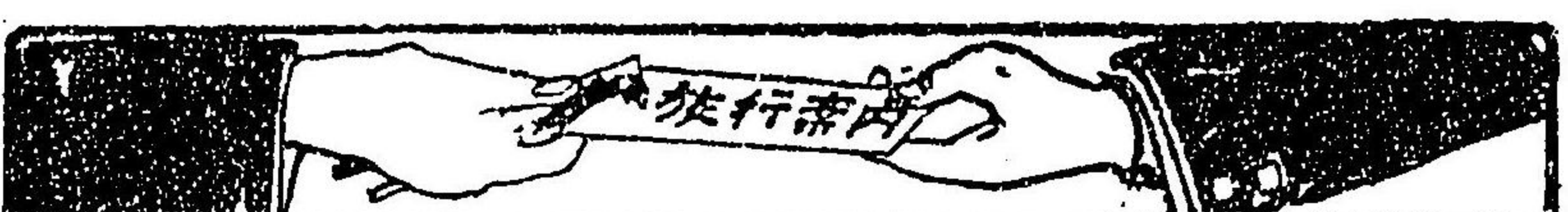
旅館 南谷旅館(中歌町)角エ旅館(姥神町)金田旅



館(法華寺町)三上旅館(九艘川町)等あり遊廓は新地町にあり追分節の出所を以て有名なり。

### 大沼驛

本郷驛より漸昂して進むこと約十分間にして一聲の汽笛、音高く響くや列車は俄然暗黒界に入る、乗客は不意を打たれて俄に車窓を閉ぢて煤煙の襲來に鼻邊を蔽ふもあるべくまた身邊の鞆を抱きて盜難を警戒するもあるべし、かくて汽車は二千四百九呎の暗黒界を驀進して稍々車窓に光明を映するや、目を窓外に放てば見渡す限り一碧鏡の如き一大湖沼を見る、無数の島嶼羅列し、小舟其間を縫ひ、藍碧澄徹して對岸の高峰、倒に其影を寫し風來れば徐ろに銀波を揺し、飛雁の波上に泛ぶなど其景色真に絶佳、若し夫れ櫻花笑ふの時に至つ



ては周圍の諸山雲かど計り疑はれ、輕風一たび梢を揺せば、落葩點々恰も花毯を布くが如く、花落ち鳥老いて、胡蝶羽重きの節には、燕子花の艶を競ふあり、柳の風に舞ふもあり、峯の若葉に時鳥八千八聲を名のあり、暑氣退き涼風梢にぞよめくの時、滿島の楓、紅葉して水上處々に錦を布きたるに異ならず、千草にすだく蟲の音、轉た人の心を動かし、波に映する明月は蘇子赤壁の思ひあり、嗚呼盡なる乎、まさに盡ならず、真に景色の幽邃なる如何なる名匠の筆にても描き出す能はざるの妙趣ある一大樂園は是れ渡島國の一大湖大沼なりとす。

**大沼驛** は渡島國七飯村大字軍川村字長井川小沼の沿岸にあり、軍川村一帶兩沿の附近は久しく茅葺荊棘の埋るゝ所と成しも固と茫々の平野永く無

大沼驛

○風味の美、形容の美、色彩の美等を具體的に完備して滋養豐富なるは弊店製菓の特色なり

各博覽會 褒賞 受領

北海名産

昆布 菓子

○弊店は昆布製菓界の鼻祖にして幾多の信用とを有せり

○弊店製菓の秀抜せるは幾多の時日を経るも變敗せざるにあり近來類似の粗製品頗る多く貴商の際に巴印商標及び松尾軒義勝の名義に寫し注目あれ

○弊店は坊間昆布製菓の不完全なるを矯正の爲め希望の向へは真正の秘傳を公にして實験上研平不動の製法を實地又は通信教授す

昆布菓子製造元祖

巴堂

松尾軒義勝

函館港惠比須町(十字街東へ入)

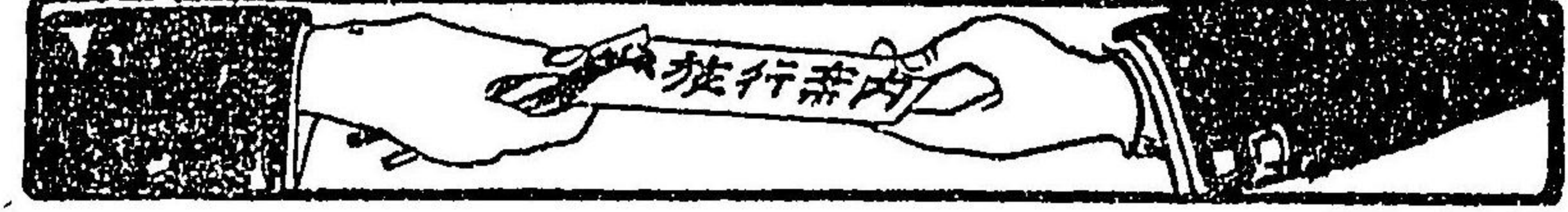
人の境たりしむる能はず、維新前早く既に華族相馬氏の開墾に従事せるありしも中途にして廢絶し後ち開進會社なるもの起りて再び開墾に従事したるも遂に成功するに至らずして止みぬ、明治三十年に至り、香川縣人宇喜多秀夫氏等相率ひて來り大沼の南金比羅山及吉野山の麓、大沼の湖畔廣源の地を卜して農場を創設し、幾多の困難を排し幾多の苦辛を累ねて着々として其經營を進めつゝあるに方り、偶ま北海道鐵道敷設の事あり、宇喜多氏乃ち農場の中央數萬坪を寄附して停車場を置かしむ、大沼驛停車場是なり、經歷既に斯の如くなるを以て市街地の如きも未だ民家の櫛比を見る能はずと雖も既に得難き天然の風景絶佳、加ふるに開墾の業日に月々進捗しつゝあるのみならず、鹿部村方面との連絡圓滿なるに至らば大沼將來の繁

三九



榮や期して待つべきなり。  
沼の風景 大沼、小沼は龜田、茅部兩郡に跨る、  
一大湖水にして函館を距る約七里、海拔四百餘尺  
の所にあり、大沼は幅南北約二十五丁、小沼は幅  
約二十丁、全沼の長さ東西約二里二十丁、周圍八里  
二十四丁、其形恰かも飽瓜形をなし、其最も狭き  
所を「せばつ」と云ふ、其西にあるを小沼と云ひ  
東にあるを大沼と云ひしも今は全沼を總稱して大  
沼とす大沼は蝦夷語にて「ポロトウ」と云ふ「ポロ  
」は大にして「トウ」は湖なり故に大湖と譯するを適  
當なりとす何人が大沼と譯せしにや、其性質上沼  
と稱すべきものにあらざるは一見して明かなり、  
兩沼の地峽相迫り將さに盡きんとして盡きざる所  
延長僅かに三十丁、鐵橋はこゝに架せられ汽車其  
上を奔る、沼の深さ最深十尋、淺きも二三尋乃至

一尋を下ること多からず、水質清澄亦た掬するに  
たり、大小の鱗族潑辣として躍る、沼中大小一百  
四十餘の島嶼あり、島は悉な奇巖怪石より成り錯  
然時立、蹲するが如く、亦た踞するが如く、仙姿  
鬼態殆んど名状すべからず、島上には樹木蕪鬱と  
して茂り、綠翠相映じて宛然小松島的美觀あり沼  
の沿岸は屈曲極りなく、相錯綜して大小の灣を  
なす、今著名のものを記せば、子の松灣、釜の下  
灣、堀の澤灣、春子の灣、山一灣、二つ石灣、小  
船灣、深灣、せばつと灣、精進灣、釜の灣、船付  
灣、川尻灣、大八灣、鞍掛灣、三つ口灣、芥間川  
灣、隅灣、がま原灣、銚子口灣、ユグイ溜る、地  
獄灣、ゴシン灣、赤瀧灣、赤灣、高橋小屋の下、  
山二灣等の諸灣あり、四周より長井川、軍川、刈  
河川、界川、古小沼川等の諸川湖内に注ぐ、東端



北海道風景繪葉書數百種發行

●新刊書は廣く取揃へ陳列致置  
き候間御立寄り御一覽願上候  
●雜誌は發行當日までに著の特  
約有之最も迅速に配本申上候

書籍文具  
樂器運動具  
繪葉書一式

★ 西堀弘文社書店 ★

函館區末廣町電話二六〇番

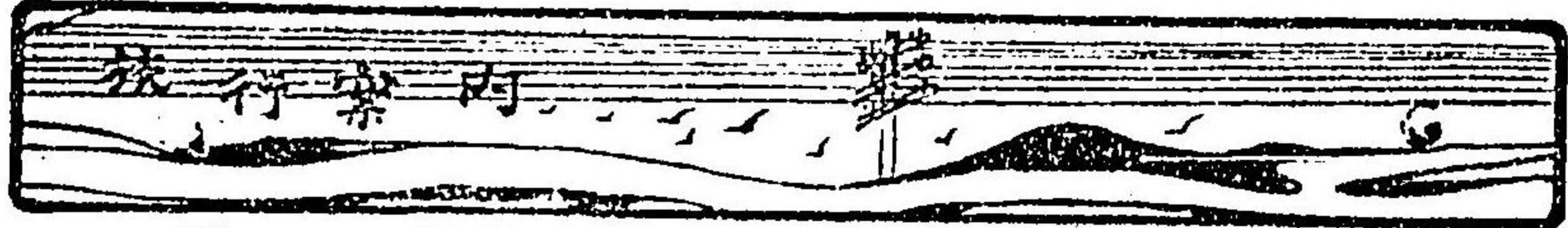
繪葉書印刷安價迅速引受申候

大沼

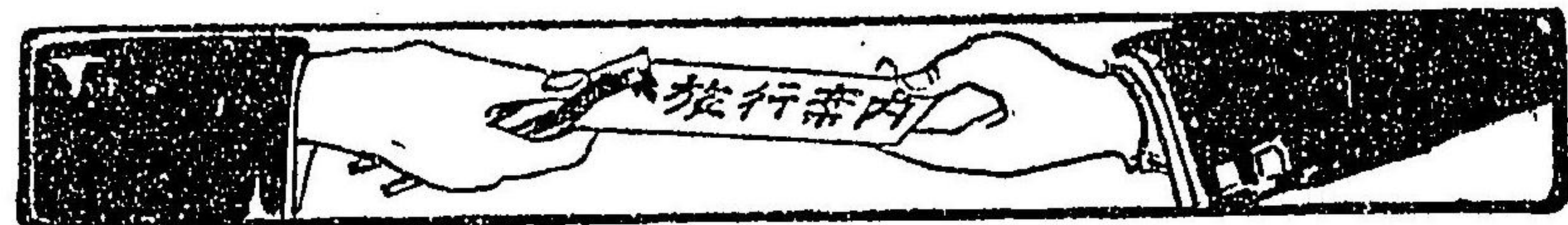
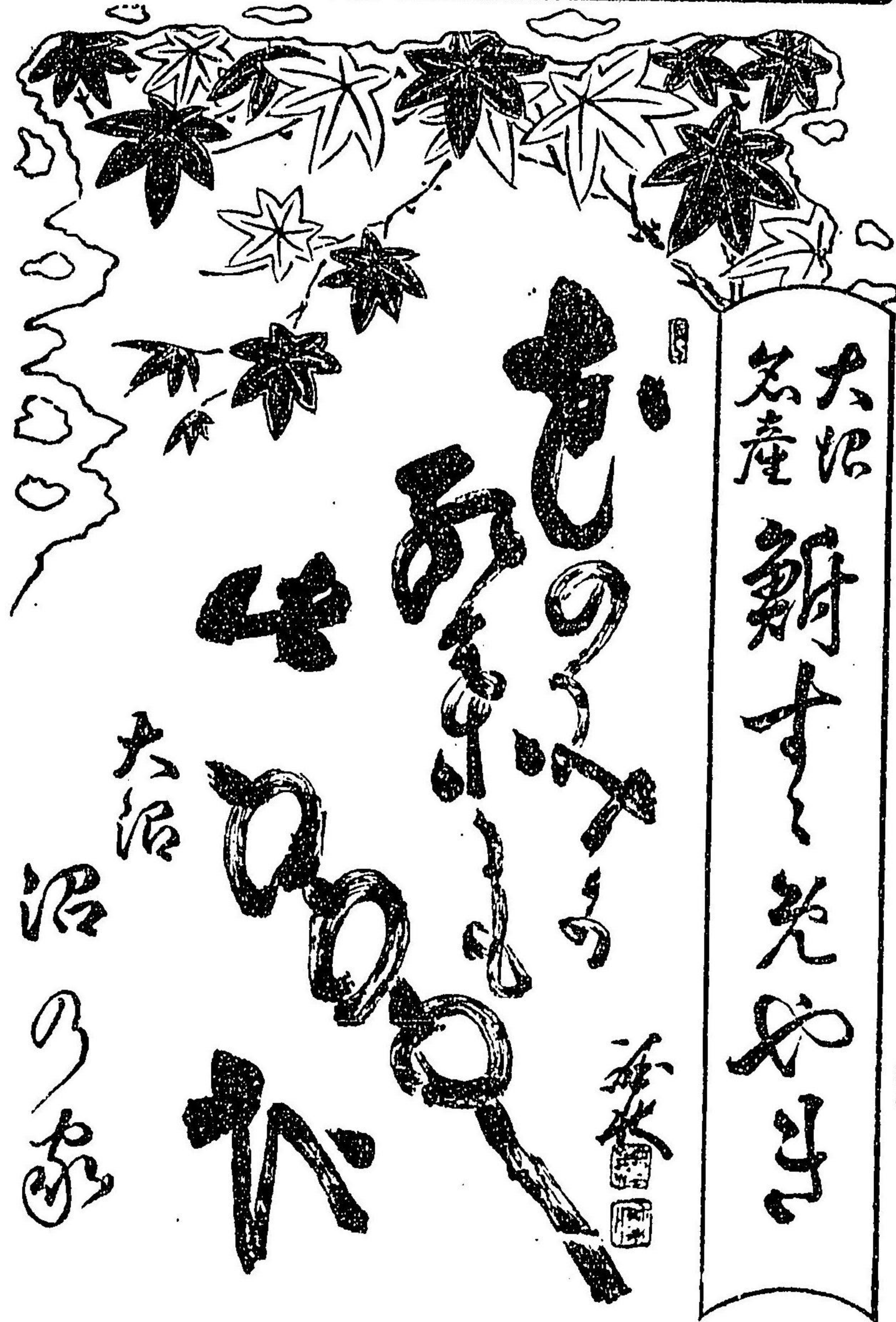
四一

の銚子口より湖水奔下して一河となり、噴火灣に  
入る、名けて折戸川と云ふ、湖の東北隅より駒ヶ  
嶽は巖然として聳え、常に白烟を噴出し其眺望亦  
甚佳なり、また沼岸には金比羅山、小沼山、其  
他大小の丘陵起伏し、登臨すれば沼中の勝悉く  
眼畔に集る、實に本道第一の奇勝名地たり、北海  
道鐵道の一環開通するや内外遊賞の人陸續とし  
て此地に集る蓋し故なきにあらず、殊に遊船者の  
爲めに小汽船の設備あり、快駟艇船を曳き、瞬間  
にして沼中の奇勝を探検せしむることを得、また  
悠々閑を樂まんとせば片舟孤棹淡月を愛する亦最  
も妙ならむ。

大沼と水力電氣 阿部與人、園田實徳兩氏の計畫  
に係る大沼水力電氣事業も淺野總一郎、前島密其  
他有力者の贊成を得て資本金壹百萬圓を以て愈々



大沼 新すゝ光やま

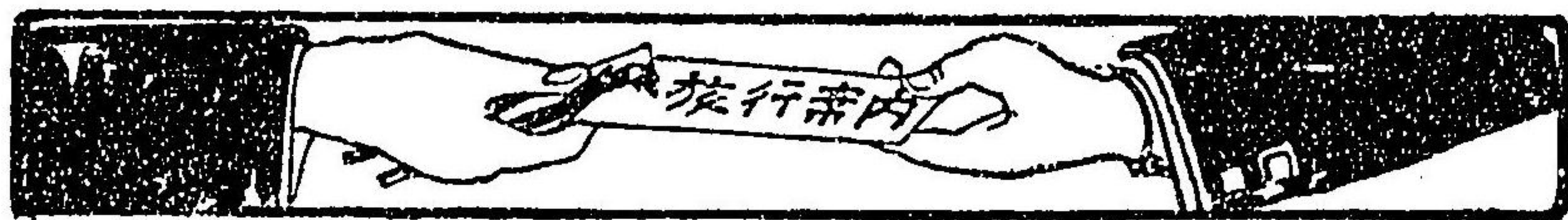


成立することとなりたれば本道工業界の振興上一  
大進歩の動機となり、近き将来に於て斯界の一發  
展を見るに至るべし。  
二將軍の銅像 日露戦捷の紀念として永く二將軍  
の武威を公示し永久に尙武の氣象を養成するの目  
的を以て、今回大沼の清原に建設されたる大山東  
郷二武將の銅像選文は前園田長官が起稿し、又忠  
魂碑の篆額は大迫前師團長の揮毫にて愈々竣成  
し、大沼の勝蹟に一の光彩を添へつゝあり。  
遊覽の名所 地獄灣は沼の北岸にあり、幾條の岸  
水中に長く斗出し巴狀となり、鳥首形となり其奇  
形恰も古木の倒れて枝左右に延ぶるに似たり地峽  
僅かに數歩に過ぎざるあり、入江屈曲數百間右往  
左往に屈入し千態萬象 人造の得て及ぶ所にあら  
ず、灣底白くして水色の青きに映じ、一種異様の  
趣きあり、水深幾尋なるを知らず、灣内に入るも  
の出づる者途を失ふ、四時水中温氣を帯び、冬間

大沼 四

と雖も凍ることなし、蓋し水底温泉の噴出するに  
依るべし名けて地獄灣と云ふ、大岩は地獄灣より  
上陸して行くこと數丁、怪巖高く、直立するを見  
る、是れ大岩なり、高さ凡そ五十呎、頂上に至り  
試みに足下を見よ、斷崖絶壁削るが如く眞に一異  
景とす斯の如く大岩は地獄灣と相對して雙美の奇  
觀をなせり、鞍掛岩は地獄灣の沖、南方の沼中に  
數個の怪巖突出し、水は愈々清く崖は益々高く巖  
巖參差して或は起き、或は抱き、或は走り、或は  
舞ひ千狀萬態夏雲の翔けるが如く迷ひに其妙を競  
ふもの、如し、口碑傳ふる所によれば相原周防守  
が乗馬の鞍を乾かせし岩なりと、近時周防守の爲  
めに沼中の一島に小祠を建立せり。  
葦菜沼 大沼の西小沼山を距て、稍々高所にある  
湖水にして、大沼と葦菜沼の間捷徑僅かに五丁の  
處にあり、周回凡そ一里餘東西に長く南北に短く  
して、西北隅より湖水奔下し、其流水、彎曲して

四三



留の瀧は折戸川の中流、留の瀧の上にある、水質酸性亜留加里なり。

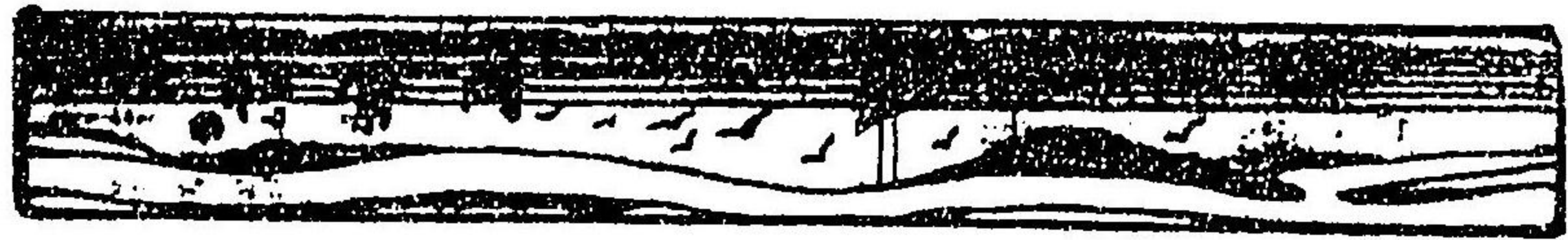
軍川村は湖の南岸一里の處にあり、戸數二百餘相原周防守時代の古戰場なるが故此名あり、南西の二面は山嶽を負ひ、北は大沼小沼の湖水に沿ひ、東の一方は平坦にして遠く鹿部に連なる住民多く農を業とし木炭の製造亦盛なり。

鹿部村大沼停車場を距る二里十八丁の地にあり戸數三百餘戸農業俱に盛なり、宇アメマス川に硫黄山あり、兩館の漁業家山本巳之助氏の所有にして現今一ヶ月の製煉高千石以上にして將來好望なる生産事業なり。

宿蹟大沼に於ける相原周防守の古蹟に就ては種々の口碑あり或は周防守松前氏と戦ひ利あらずして乗馬と俱に大沼に投じたりと云ひ、或は城山は周防守の屍を葬る地なりと云ひ、或は其姫君姉妹の大沼に身を投じたるなりと(編者は果して其何

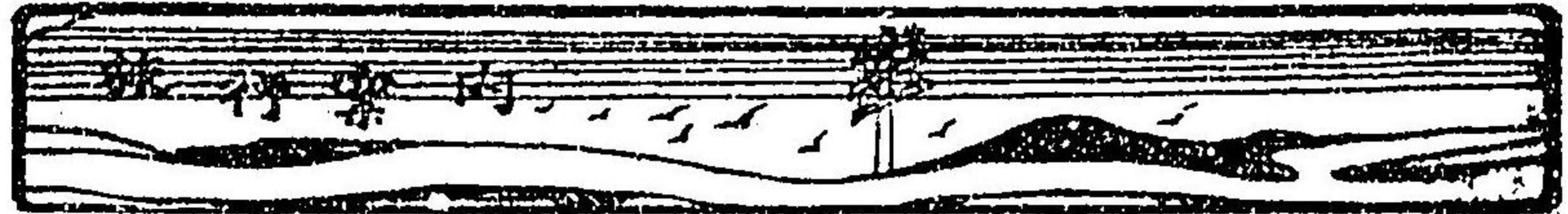
大沼

四五



大沼に灌ぐ、此水流を以て時下の宿野邊の村界とせり、名けて堀川云ふ、駒ヶ嶽は東北に嶮崎として天に聳し、白雲を帯とし、彩霞を衣とし、天然の畫圖滿目に映す、湖中の怪巖奇石は集りて斷崖となり、斷崖相累りて島嶼となる、地高燥閑住明月の夜一葉を浮べて血に啼く子規の聲を聞くも幽なり、此地元來兩館森間の國道に當れるを以て鐵道開通以前にありては馬車の往來晝夜絶ゆることなく、宮崎旅館及び數個の商店あり、去れと今は大沼の爲めに其大部分を奪はる、蕪菜沼と大沼とは兄弟の如し、大沼に遊んで蕪菜沼の佳景を探されば、日光に詣で、華嚴の瀧を知らざるに同じ蕪菜沼は蕪菜を産する富饒なるを以て其名あり、大沼になくして此沼にあるものは菱なり(俗に水栗とも云ふ)味ひ栗に似たり、元來大沼の鯉鮒は初め此沼にて生育せるもの堀川を下りて大沼に入り遂に今日の繁殖を見るに至れり。

四五



れを以て信なりとするを知らず須く記して考古家の海を乞ふ)

駒ヶ嶽 沼の東北端の尖峰剣戟を植しが如く嶮然として諸山を抜くもの之を駒ヶ嶽とす、高さ三千二百二十尺、一名佐原嶽と云ふ、別に渡島富士の稱あり、渡島國第一の高山なり、寛永十七年六月噴火し安政三年八月二十六日再び噴火す、近時内外人の登山を試むるもの多し、登山には大沼の北岸よりす、道路峻嶮なりと雖も、頂上に至れば近く大沼、蕪菜沼、盆池の如く廣漠たる龜田一帶の原野轄如として眼に映じ、兩館山は盆石の如く其間に横はる、其他洋々たる噴火灣を隔て、磨振後志の諸山を望み、又津輕海峽を隔て陸奥の諸山を眺め、其風光真に一幅の畫圖を展るに似たり。

名産 大沼の鮎、鮎は其名最も高し、年々の産額三千圓を下す近來カバチエツポ魚を移植しつゝあり旅館にして旗亭を兼ねるもの大盛館、紅葉館、

武藏屋、山月亭、盛むさしや、龜の湯等あり。

名物鮎の湯々女やき 停車場前沼の家にて販賣して居る鮎の湯々めやきは風味頗る宜くまた名物大沼だんごも土産品として評判よく大沼に遊ぶ人は必ず之を求むと云ふ。

●赤井川驛

本驛に就ては特に記すべきものなし後版を待つて叙述する所あるべし。

●駒ヶ嶽驛

本村は舊と鷺木村の支郷にして今は森村の管轄に屬せり、龜田郡境に接す、方言「シユノソツヘ」と呼ぶ、鮎の生ずる川の義なり、松前藩の時家屋一字を建て行旅の憩宿に便せるのみにて、維新前は茫々たる草野の間僅に二戸の居住者ありしに過ぎず、明治五年函館より當村を経て森村に通ずる道路の開通せし以來、漸次移住するものあり、稍々



營業  
科目

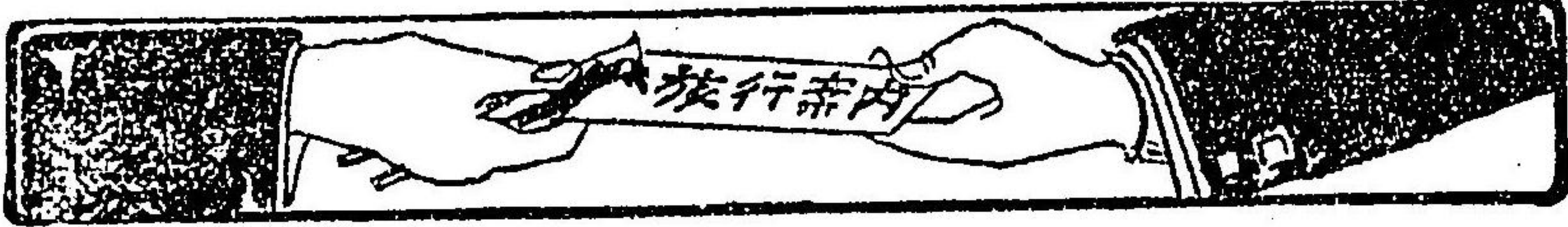
汽船 帆船 解船 曳船 漁船  
通船及附屬器具一式  
製作修繕並ニ設計圖案調製

函館區若松町百拾五番地

造船業  
佐々木房吉



館	萬	振
函	隆	替
話	舍	八
電	町	七
五	藏	
千	地	
八		
番		



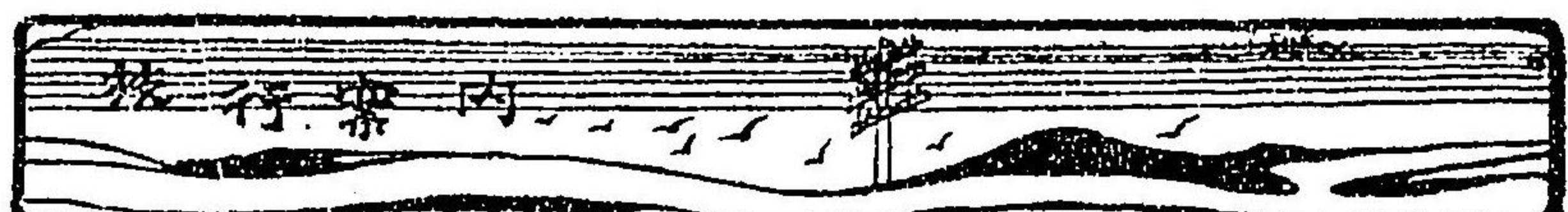
村落の形状を呈せしは明治十年より二十年の間に  
して、其全盛を極むるに至りしは明治二十七八年  
頃なるが、現時の戸數二百六十戸、人口千六百五  
十八人、小學校、巡査駐在所等此處に備はる。  
主産物 本村は往時駒ヶ嶽噴火の結果、地表一般  
に火山灰を以て堆積せられ居るを以て、偶々農業  
を經營するも收支償ふに足らず、僅に自家用の根  
菜類を少量に收穫するに止まるのみなれば居民は  
鋸を抛ちて鋸を取り、一意専心製炭事業に従事す  
るに至れり、而して本村居民の製炭事業に着手せ  
し年月は、詳に知るを得ざるも古老の語る所によ  
れば、明治四年頃よりの創始にして、漸次人家の  
増加するに従ひ同業に従事する者も漸く増加し明  
治二十七八年頃に至り最も隆盛を極め其釜數實に  
三百、毎歲函館港に供給する者のみにても無慮六  
萬駄以上なりと、以て其製産額の如何に大なるか  
を知るに足らむ、之れ畢竟駒ヶ岳山麓に於ける美

森 驛

林の賜なりと雖も、現今は附近濫伐甚だしく森林荒廢  
の結果として、漸次衰境に瀕するに至れるは惜む  
べし、又本宿野邊官林は古來白揚樹に富み、明治  
十七年頃檜寸軸木製造所各所に在りて、盛に軸木  
製造業を營みつゝありしも、是亦伐盡の慘毒に遭  
遇し、今や一樹を求むるだも容易からざること、  
なれり、只昔時製造所の舊跡に於て、木片の散在  
せるを見るのみ。

森 驛

森驛車場は同村役場前の國道筋にあり、本村との  
交通極めて利便にして、對岸に室蘭港あり、距離  
僅かに二十四海里、地勢南方は激昂して高丘とな  
り、南東は駒ヶ岳の山麓に接し、北は一帶内浦灣  
に臨み、紋甕、有珠、禮文華の對岸、有珠、昆布  
の諸峰雲烟の間に望むを得べし、且下の戸數六百

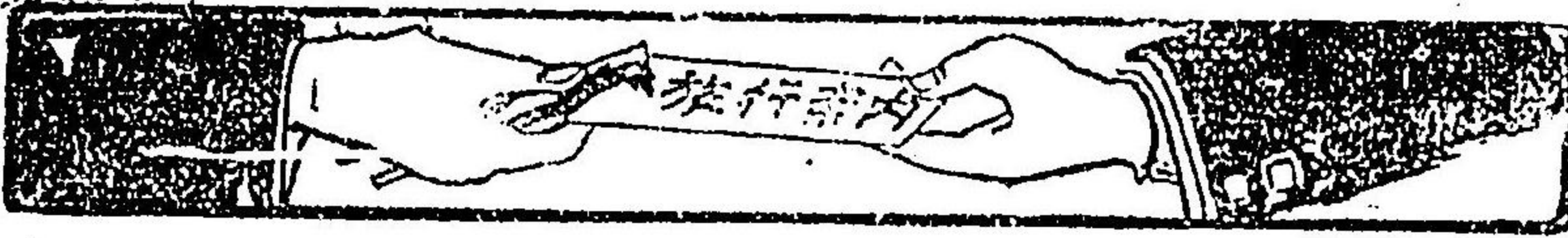


四十七、人口二千九百八十、宿野邊、尾白内、鷺木、姥谷、石倉の諸村を管す、七飯警察署森分署北海道廳 殖民部林務課森出張所、函館區裁判所森出張所、御料局札幌支廳森分區區員事務所、森村役場、公立森病院等あり、又森尋常高等小學校は最近の建築に係り、規模宏壯函館支廳管内屈指の校舎なり、其他龍光寺は未だ入佛式を営まざるも其建築稍や見るに足るべし。

沿革の一斑 本村は往時オニウシ(樹木の繁りたる所の義なり)と呼ばしが、天明の頃官吏某之を義譯して森と稱せり、昔時は舟を以て砂原より室蘭に渡航し、且つ鷺木村の支郷に過ぎざりしを以て、海濱僅かに土人の點々散居するを見るのみなりしが、明治五年開拓使此地を相し、灣頭に約百間の棧橋を架設し、六十噸乃至百五十噸の小汽船數艘を以て森、室蘭間の航路を開通せし以來戸數俄に加はり、宛然市街の觀をなすに至り、港内

亦船舶の幅濶を見、頗る繁盛を極めしが、明治二十八年前記の航路を廢止したりしが同四十一年六月に至り再び此航路を復し毎日森出帆午前十一時室蘭出帆午前五時三十分一日一回づ、此の間僅かに二時間を以て航海することを得るを以つて森、室蘭間の交通上頗る旅客に便を與たへつ、あり。

農業漁業の概況 農業は極めて幼稚なるも近時漁民も亦漸く農業の忽にすべからざるを覺り、大字尾白内村の漁民の如きは、農漁兼業の目的を以て昨年來姫川の疏水を企つるに至れり、斯の如き有様なれば大農場の如きは殆んど見るべきものなし、(大字石倉の農場及び牧場の概況は石倉の部を見るべし) 又漁業は未だ改良の實舉らざるも目今漸く進歩の道に上れるもの、如し、卅六年に於ける鱈漁業の空前の豐漁にして其漁獲高一萬石之が價額七萬圓を超過せり然れ共三十七年度は大不漁



優効

目藥

幾多なる配劑に成る本劑獨特の効力は無限にして又結核性諸症○血目○たれ目○かすみ目○かさ目○つかれ目○等に偉大なる効を奏すべし

ラトホム根治劑

瞬明水

東 東 市 京 東  
東 市 京 東  
東 市 京 東

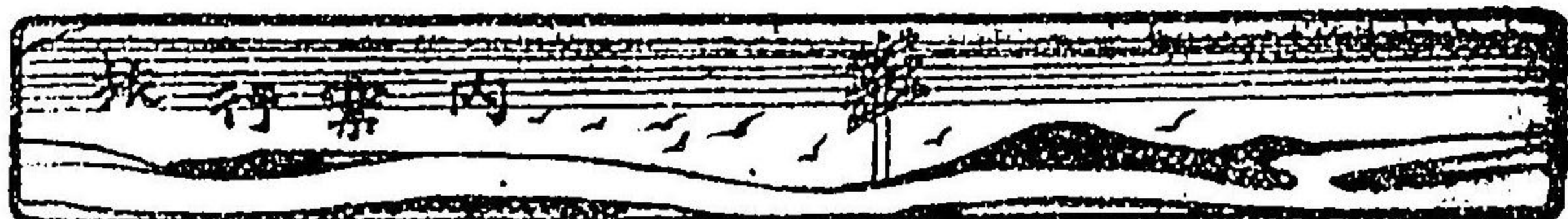
發行所 東京市銀座十丁目森字吉

定價 ○特製器械瓶入金壹圓 ○五拾錢  
○點眼器附大瓶金貳拾錢 ○小瓶拾錢  
○送料特製金壹圓、四錢大小瓶各貳錢

附々掛野赤井川

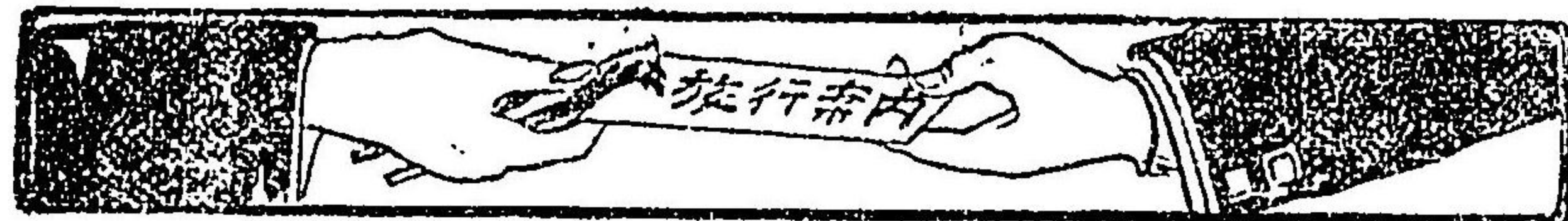
にして僅に生魚の小輸出ありしに過ぎず、將來に於て本驛の特産物たるべきものは林産物にして現に函館附近に於て消費する所の木炭の大部分は重にも當地に於て其供給を爲すものにして、最近の調査に依れば當地の御料林及び官林内の炭産は百〇五にして函館支廳管内に於ける同總數百五十餘に對し實に其全部を占むるの姿なり而して新開墾の大地積は小字鯨川、同オノノ木太等を以て重なるものとす。

鐵道の開通に伴ひ勢ひ産業獎勵の必要に迫られ當地の有志者は競ふて蠶業及び水産製造業に熱中し養蠶業は村の共有地五十餘萬坪に桑園を設け種蠶飼育所なるものを設置し村内各戸に就て殆んど強制的之を獎勵するの設備あり、水産製造業に鱒粕を重なるものとし最近鱒を附近市場に輸出しつつあり然れども漸次水産の漸進の趨勢なるを以て此際沖合漁業獎勵の必要あるも未だ其企畫を見ず



五〇

これ本驛の爲めに遺憾とする所なり。  
鳥崎川上流の飛瀑 森驛に下るの旅客山河を跋涉するの勞を厭ふなくば、鳥崎川(森驛の傍を流るゝもの)を遡るべし、行くこと四里にして一大飛瀑あり、瀑布の高さ二丈許中七八間、飛沫十間餘に及び、盛夏肌膚粟を生ずるの感あり、實に近郷無比の異觀なり。  
兩ヤベツの懸崖 鳥崎川を遡るの途、懸崖百尺俯瞰足腰目眩するが如きあり、稱して上ヤベツ、下ヤベツと唱ふ(ヤベツとは土人語にして險阻を意味す)紅葉の候沿道の楓樹錦繡を織出すの時に至らば、兩ヤベツの美觀更に大に其美を加ふべく、旅客若し一竿を携へ行々溪間に繪を垂るゝあらんか鮮麗激瀾忽ちにして籠に滿つるの快あらん。  
旅人宿 命、△、等を本村の二旅店とし、紳士、紳商の旅館に適しました、普通商人の旅館にも可なり。



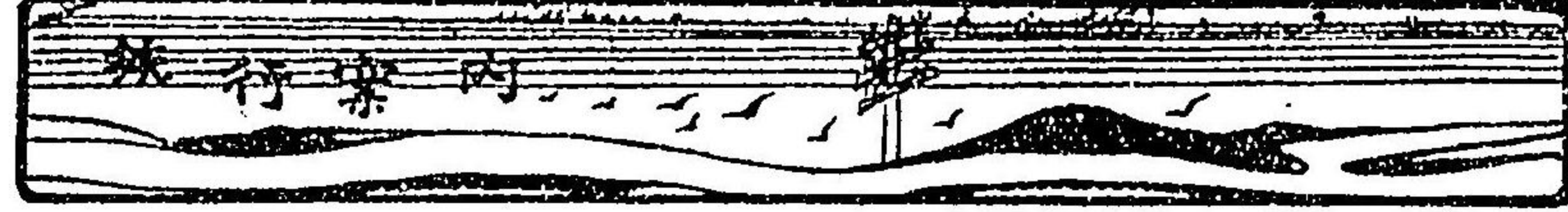
### ●石倉驛

石倉驛 是渡島國茅部郡森村大字石倉字ボンナイにあり、本村は蛇谷村の西にあり北は海に面す、明治九年一月本茅部石倉を併せて此村を置く、現時の戸數百九十八戸、人口千五百五十人あり。農場牧場の概況 農漁等大體の状況は森驛の部に記したるを以て略す、而して森村管内中大農場とも稱すべきは石倉村字上濁川地方に存するのみ即ち土居農場、日野西農場(日野西子爵の經營に係る)吉田農場、藤井農場、後藤農場、(美濃團體)北農場(越中團體)等にして目下何れも開墾中にして未だ著しき農産物の見るべきものなきが如し牧場は落合牧場、淺木牧場、上條牧場等あるも未だ計畫中に屬するものゝみ、然れども該地方は極めて牧畜に適するを以て將來望を屬するに足るものあり。

石倉驛

上濁川温泉 當驛を距る一里二十町上濁川に温泉湧出す、泉質硫化水素にして温度は百二十度より百三十四度なり、此間の道路山道より三十町下り二十町なるも去る明治三十四年新道を開墾したるを以て車馬の便あり、途上駒ヶ嶽を右に、羊蹄山を左に眺め、風景凡ならざるを以て、徒歩また疲勞を感せず、温泉宿は二三あるも菊の湯最も清潔にして浴客の便を謀り望に任せて室を借りて自炊を爲すべく亦賄をも爲すことを得べきを以て浴客の爲めには最も至便なり。  
犬主温泉及ポロ温泉は共に隣村落部村管内にあり當驛よりはポロに二哩、犬主に三哩餘を距つ、何れも落部村より楡山郡に通ずる山道に沿ひ昨夏夏季以前は通行不便なりしも、爾來御料林山道開墾せらるゝに至て人馬は勿論、人力車の如きも通行安全なり、唯だ惜むべきは山間の僻處にあり、菊の湯を除く其他は温泉場としての何等の設備も

五一



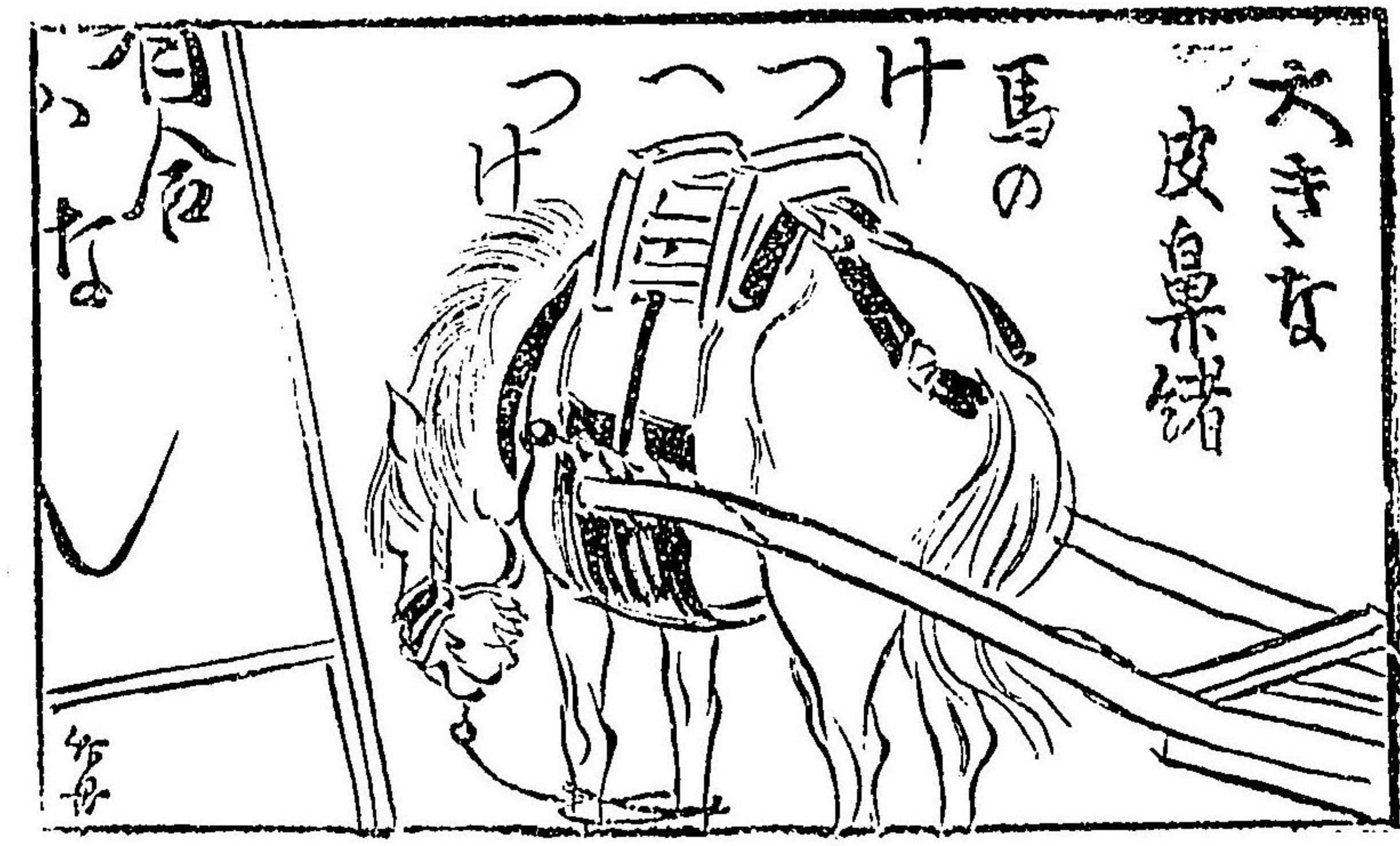
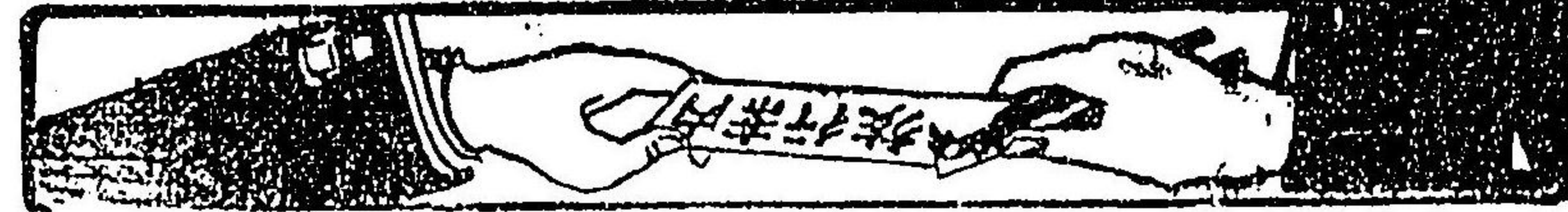
なく、宿泊所の如きも僅かに湯守りの住宅あるに過ぎざれば、浴容の如きも極めて渺なく一年概数各二百人位なるべしと、然れども鐵道の便開くと共に漸次繁盛に趣くことあらむ。

### 野田追驛

石倉驛より石倉隧道(長さ二百三十六呎)を経て、野田追川を渡り、山越内に至るの間に一小驛あり、之れ野田追驛なり、附近は茫漠たる原野にして民家を見ず、該驛を距る東方里餘にして落部村あり、同村の戸數三百五十戸、人口千八百人今を距る十二年前までは漁業一途の一小村落に過ぎざりしも、明治二十二年頃より愛知、徳島其他各府縣より移住民續いて渡來し、農業に従事するもの漸次増加し目下同村の三分の二は農民にして、其一部は農漁兼業なり、其作付總反別は七百三十町餘歩、

其收穫高連年二萬石を下らず、漁業は前年平均高にて鱈鱈箱千石以上、鱈油五百石内外、鱈は連年漁獲なきも昨年の收穫は五百石以上、同油箱百石に上り、鮭は生、鹽共百石以上、煎海鼠二千斤内外、昆布五百石内外を産す、年々の輸出一萬六千餘石に上る、字野田追に徳川義禮公の農場(二百町歩)字赤野及字物備に玉本末吉の農場(百四十町歩)字黒野に齋藤三郎の農場(百四十町歩)あり、何れも小作制度にして愛知縣の移住者最も多し)字臺の上に徳川義禮公の牧場(百四十八町歩)あり、元と牛牧をなせしも今畑地に變更せり、澱粉の製造所七個所あり、一年の産額二十萬斤に及び工夫百五十人を使役す、村内に戸長役場、郵便局、御料局員駐在所、尋常小學校二、八幡社東流寺等あり。

旅店は早川勝藏、角谷秀太郎等重なるものとす、温泉はポーロ温泉に二十五町、犬主温泉に二里餘



山越内驛

### 山越内驛

山越内停車場は波島國山越郡八雲村大字山越内にあり山越内は波島勝振の兩國境にして東は海に面す、昔此に關門あり且會所勤番所制札旅宿所米原武庫雜庫鎮倉漁舍等あり、方言ヤマクシナイは栗の澤を通路と爲すの義なりと、一説には冷水の流るゝ谿の義なりと、現時の戸數三百六十二戸人口千六百五十三、住民は農漁相半ばす、(八雲驛を参照すべし)

神社佛閣 神社には諏訪神社あり佛閣には圓融寺あり淨土寺善光寺末にして文政五年の創立に屬せり。

舊跡 字シンゴベに穴居の跡多く存す、字チャシ



旅行案内

澱粉製造の季節にして村内到る處車馬の往復頻繁  
 薯を運ぶあり、澱粉を積出すあり、製造場は夜を  
 徹して就業するの狀態なり、之と同時に村内一般  
 の營業は非常に多忙を極め農家は原料供給に大工  
 或は鍛冶は水車及機械修繕又は箱製造に忙殺せら  
 れ、商家は澱粉の買収賣出に東奔西馳日夜其席暖  
 ならず男子は製造場の雇人となり女子は薯掘りに  
 従事す、此薯掘りの勞務の盛況なるは女子小兒に  
 至る迄五人十人團體をなして就業し一俵の掘賃五  
 六錢にして熟練者にありては一日能く四五拾錢を  
 得以て凌冬の資を貯ふるに至る、運送業は當村の  
 營業者を以て不足するが故に毎年龜田、上磯及び  
 其他の地方より入稼する者駄馬數百の多きに達す  
 實に當村一年中最繁昌の時季なり。  
 將來の殖民開墾地 殖民地としては前記の利別山  
 道(夏路驛の在る處)は明治三十五年解除せられた  
 るを以て戸數約三十戸を入るゝに足るべく、既に

着手せるを以て其開墾も近きにあらん、又字館川  
 附近にも殖民地として目下調査中の土地あるやに  
 聞けり。  
 鮭魚人工孵化場 宇建岩には鮭魚人工孵化場あり  
 土人部落の概況 宇遊樂部の海濱には一の土人部  
 落あり、昔此地にも番屋旅宿休憩所倉庫等ありき、  
 土人は其五邊(山越内の部參照)より移れる者なり  
 と、目下の戸數三十戸内外車窓より之を望めば矮  
 小の茅屋相連なるを見る即ち是なり、民族魯鈍に  
 して毫も進化に伴はず多くは漁業によりて生活す。  
 官公衙 函館區裁判所八雲出張所、警察分署、森  
 林駐在所、八雲郵便局、八雲村役場等あり。  
 神社 宇砂岡部に八雲神社あり。  
 旅店 豊印武田勇吉、九一印熊谷金次郎、④印坂  
 本九助、豊、豊印、山印、嘉印等あり待合所には  
 車印にて停車場より僅に數十歩至便の所にあ  
 り。

近御來同類名同來近  
 與兵衛の名義に御注意を乞ふ  
 高木と標商の魚人は義名に御注意を乞ふ

**清心丹**

清心丹は四季にわたる  
 懐中要薬として心身の  
 不潔を清くし、食物の  
 消化を補助し、風土  
 不潔を水あらし、車  
 の不潔等に卓効あり

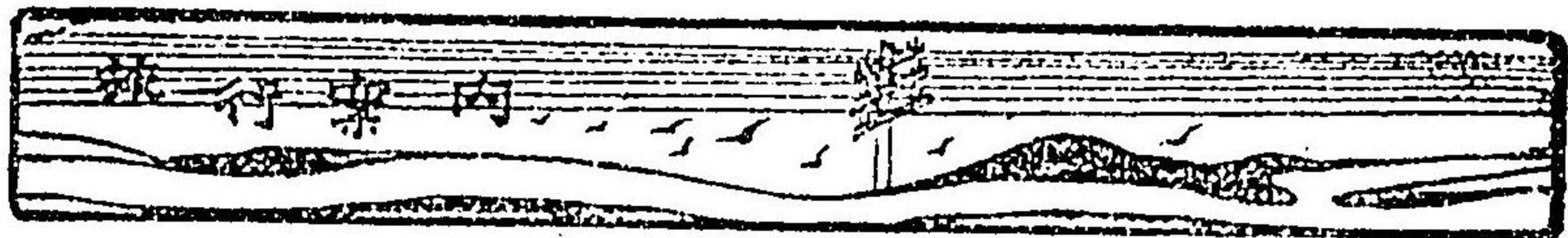


高木與兵衛

價 定

千	貳	百	粒	(入箱)	金	壹
五	百	五	粒	(同)	金	五
十	百	十	粒	(ニケツト用)	金	三
同	貳	百	粒	(同)	金	十
貳	百	貳	粒	(包紙)	金	廿
九	十	五	粒	(同)	金	十
四	十	五	粒	(同)	金	五

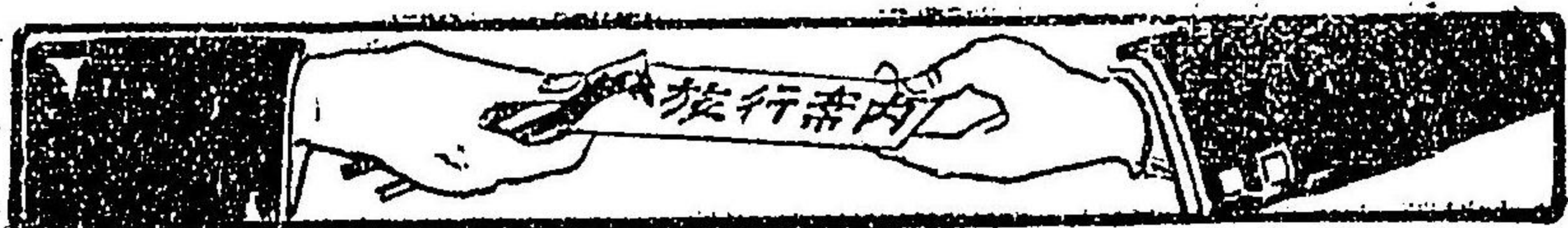




● 黒岩 驛

五八

黒岩は八雲へ三里、國縫へ二里の中間驛にして、海岸の小部落なり、戸數約九十其多くは漁業を以て業とす、海産は鱒、鮭、北寄貝、鰯、カシカ等にして、鐵道の便により生魚のまゝ輸出するもの多し、又木材薪炭等の輸出少なからず、村内に黒岩尋常小學校あり、黒岩は土人語クンテツユマと云ひ、本村の海岸に突出せる一巨岸にして、村名の由て起る所(挿書参看)なり、クンテツユマを距ること數十歩にして、神岩と稱するものあり、土人等頗る之を神聖視し、往てエナヲを捧げて祈禱する所あり、人若し之に不淨を加ふれば必ず風雨波濤の大荒れありと傳ふ、松浦武四郎の東陸夷日誌に曰く、曾てクンテツユマ(大岩)黒岩と云ふ是に白き玉石附きたり、其小粒あるは透明弄ふべきなり「旅人の手をはな觸れを岩床に神在せりと



エナを立たりし、之に據れば黒岩即ち神岩なるかの如く思はるれど實際は黒岩、神岩各其位置を異にし所謂神在せりとエナヲ立たるは神岩なること疑ひなければ、日誌に記せる白き玉石なるもの何れに附着するや、好奇の人須らく實地に就て實驗を試むるべし。

● 國縫 驛

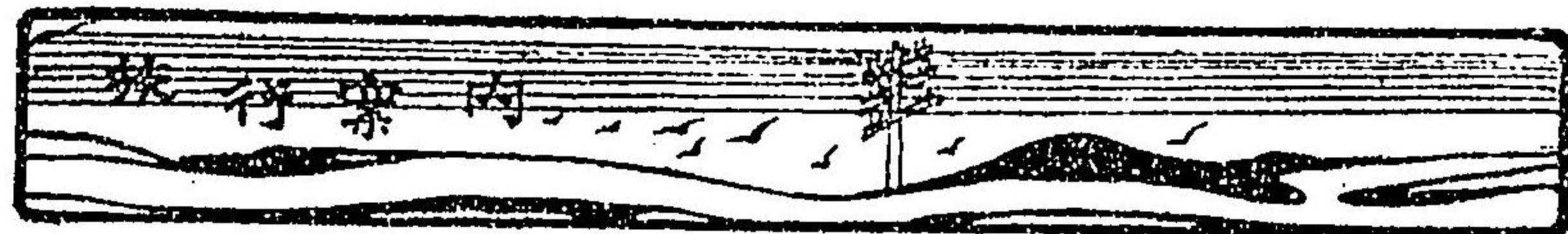
國縫停車場は膽振國山越郡長萬部村大字國縫にあり、國縫村は茂訓縫と共に戸數約百二十戸、此地滿庵を産するを以て有名なり。  
 滿庵山 元國縫滿庵山は今美利加滿庵山と稱す  
 國縫村と後志國潮郡利別村とに跨り利別川の北一里に潮棚の市街地あり、北は梅花都に隣り東南に丘陵を受く、漁業頗る盛んなり、戸數は二百戸餘東南丘陵を隔て、潮棚新開懸地に連る市街のあ

黒岩、國縫

る所を合津町と稱し、旅亭三四海岸に枕して建つ海抜凡そ七百五十尺四面連山懸々たる山間に於て彼の舊時の砂金地を以て著名なる利別川の上流に位し、鐵道區間數百四拾萬八千餘坪四鐵區たり、鐵區の名稱にニセウソベツ、チユウソベツ、稻穂山と云ふ、國縫海岸を距ること四里、即ち國縫より潮棚に通ずる縣道の傍なるを以て運輸交通極めて便なり、且つ鐵物運輸の爲め鐵山より國縫海岸まで軌條の敷設あり鐵物は以て入れ假り荷造りをなし、臺車に積載馬匹を以て牽曳せしめ國縫倉庫にバラ積とし、同倉庫より汽船積みとし横濱或は函館に搬出す、函館間の海路は凡そ八十五海里なりとす、該鐵山は最初函館區の田中正右衛門氏の所有なりしが、後明治三十一年に至り、之を函館區の村田駒吉氏に譲與せり、年々の産出額は三千餘噸なりと。

五九

舊蹟 國縫川には往古沙金を産せり、松前藩の時



盛に採収に従事せしも今は見るべきものなし、又同所は寛文年間華夷の古戰場たり、同九年日高染退の酋長シヤクシヤエン部下二千人を率ゐて來襲し、松前藩家臣頼崎作左衛門、佐藤權左衛門等討て之を退く、事蹟は蝦夷興廢記其他に明なり。

### ●紋別驛

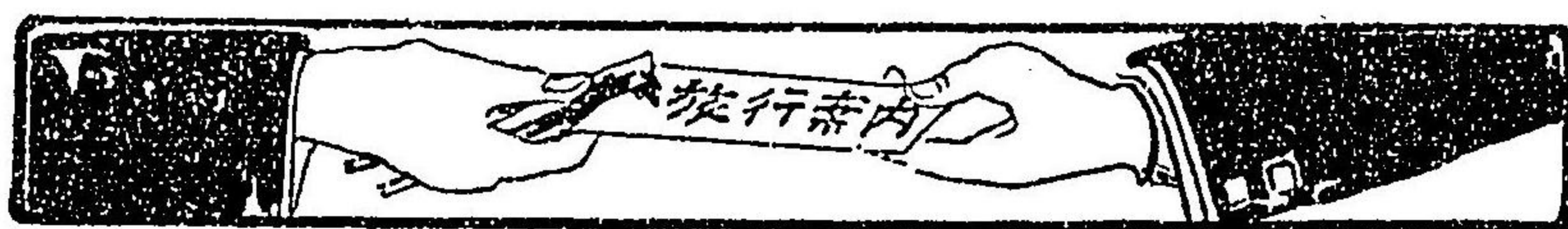
本驛に就て別に記すべきことなし後版を須つて記述する所あるべし。

### ●長萬部驛

長萬部停車場は膽振國山越郡長萬部村の大字長萬部の南西二町餘の處にあり、一面噴火灣に面し西北は坊主山に接し、風景頗る佳なり、長萬部はアイヌの名蹟にして二百餘年前の開創に係るも、百

二三十年間は舊土人のみの部落なりしが安政四年乙巳より白田を娶し客舎茶肆等を設け農夫を移し宅を與ふる數十戸遂に街區を成し衛門を改むと云ふ、方言オシヤマンベは鯨の在る所の義也と一説には古名ウアシヤマンベはウアシは雪、シヤマンベは比目魚なりと松前藩の時青山作左衛門の支配地たり、現時の戸數字長萬部二百戸、其他字紋別中の澤、ヒヨウナ、ワルイ、訓縫、茂訓縫、ホロナイ、ロク、茶ヤ川、パンケ、カヤノ、ホクサタナイ、栗の木岱、二股、知來、ワレビダイ、追込川向等の各大字等戸數四百餘に及ぶ。

農業漁業の概況 長萬部管内約六百戸の内農業に従事するもの四百餘戸に及ぶ、水田養蠶等は久しき以前より着手したるもの多きも多くは失敗に終り、今尚ほ盛んなるに至らず、農産の重なるものは蕎麥、藍、馬鈴薯、燕麥等にして、水田も近來漸く開かれつゝあるものゝ如し、又管内一帯海に



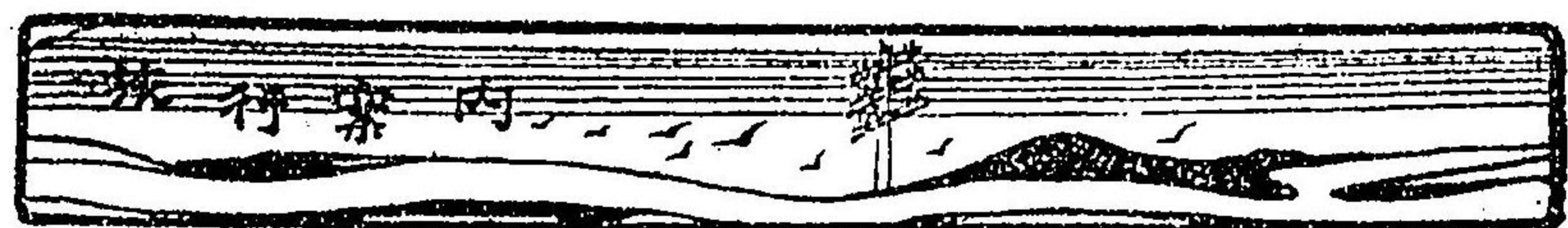
面するを以て漁業も亦盛大なり、海産物の重なるものは鱈、北寄貝、鱧等にして鱧は最も産額多く此地方の本場と稱せらる、聞く松前藩の時幕府へ献上せし臘臍は重に長萬部の海濱に於て捕獲したるものなりと、近來に至りては、漁獵大に衰へ漁場空しく存するのみ。

農場と工場 農場には字ボクサタナイには股野農場(三百五十萬坪)、字知來には西農場(百五十萬坪)松原農場(五百萬坪)、牧場には松原牧場(三十八萬坪)、工場には澱粉製造所五個所、バタ製造所一個所(松原農場内)あり。

將來の開墾殖民地 現在の開墾地は千三百町歩餘未墾地は二千町歩餘、但し殖民區畫地の個所は千七百萬坪餘に及べり。

名勝舊蹟 停車場より三町北西に當り、南部陣屋の趾あり、米國水師提督ペルリ渡來の際、幕府南部藩をして守備せしめたる所にして、今尚ほ呼ぶ

紋別驛、長萬部驛



に齟齬として語らるゝのみ文化の賜もの亦偉なりと云ふべし。

土人部落の状況 長萬部より約八町長萬部川の沿岸、海岸に至る間に土人部落あり、戸數二十戸土人としては大に進歩し、壯年者は一日普通人と異なるなく、能く自活の道を立て、生業に従事せり、又少年は多くは通學し、學課の成績も頗る見るべきものあり。

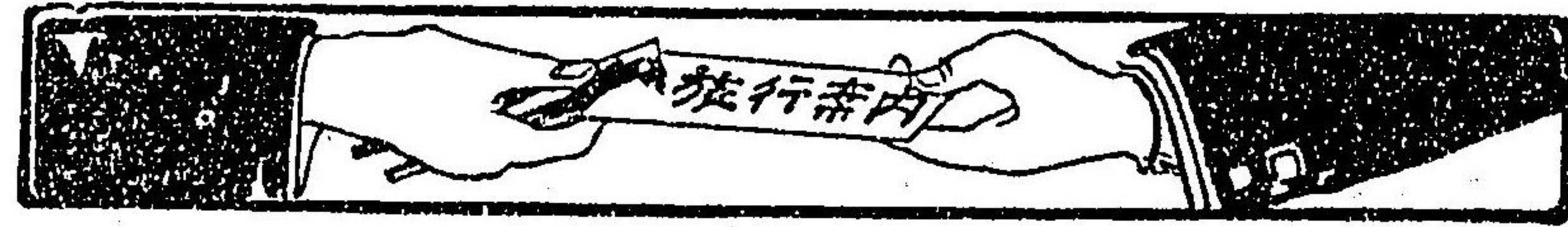
官公衙と神社佛閣 長萬部村戸長役場、山越水産税區役場、郵便電信局、警察分署、佛閣六、神社七あり。

旅店 崇山崎榮松、崇山崎紋之助、雙石川丈作、半七尾忠吉、幸長澤民之助、崇鈴木満五郎等あり。

### ●二股驛

當驛は膽振國山越郡長萬部村大字二股にあり、戸數僅に五十戸寥々として見るべきものなし所謂黒松内山道の一小村にして後志、膽振の國境たり、北鐵開通後日尙淺きを以て特に記すべきものなしと雖も農場開墾の進歩は驛で當驛をして面目を革めしむる蓋し遠きにあらざるべし。

熊の温泉 停車場を去ること一里二十五町二股川を遊れば熊の温泉あり、該温泉は農事改良を以て名ある秋田縣の人嵯峨重良氏の發見したる者にして幾多の經營と苦心とを以て今日に至り稍完全なる設備を成すに至れり、此熊の温泉は北鐵沿道中其道路交通の至便なると効驗の顯著なるとに依て冬季中と雖も浴客絶へずと云へり將來の繁榮亦知るべきなり。



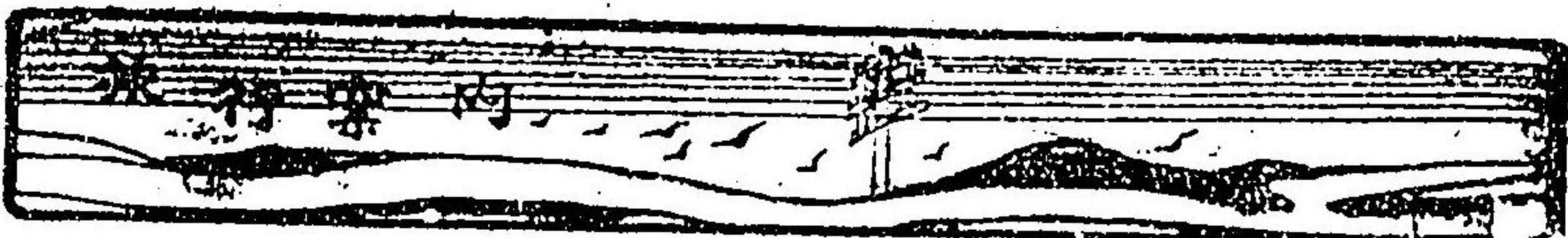
### ●蕨岱驛

當驛は二股、黒松内間に介在し何等吸收すべき物資なきものゝ如くなるも二股間の交通至難なるは偶々當驛を利するの干係あり、即ち此地は噴火灣、壽都灣を兩側に控ふる中間の鞍部にして二股及び黒松内に達すべき道程長からずと雖も交通の便殆んど具備せざるものなし、故に二股附近一帯の生産物は勢ひ當驛に集注せらるべくウタナイ原野の生産物の一部の如き何れも吸收するに至るべし、去れば現状こそ砂たる一小驛に過ぎずと雖も近き將來に於ける發達亦測るべからざるものあらむ。

### ●黒松内驛

黒松内停車場は後志國壽都郡黒松内村にありて函館間の中央驛たり、壽都に四里九町四十八間、歌

二股驛、蕨岱驛、黒松内驛



### 目品業營

- 製靴用、底革、甲革類、製靴
- 及製甲類、馬具、椅子、製本
- 用革類、
- 夏用(白茶ズック申)ズック底靴
- 冬用(茶褐黒羅紗甲)防寒靴、
- 其他製靴、馬具用附屬品及諸
- 道具類

東京市淺草區聖天町六十四番地

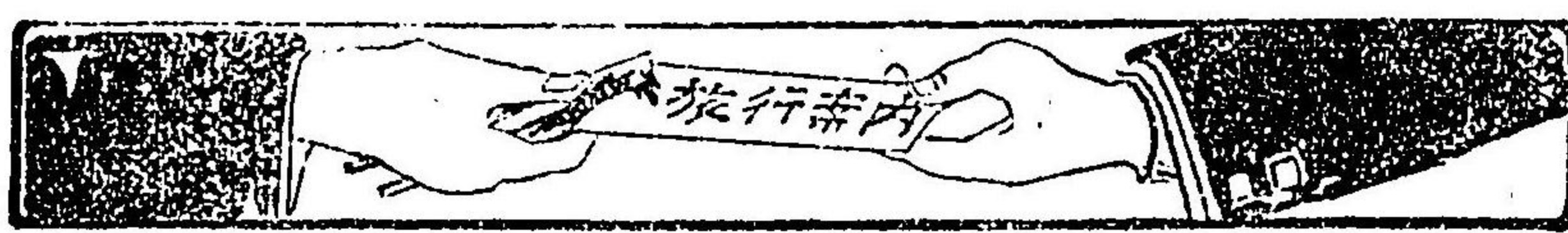
## 森本新左衛門

電話 下谷千三百九十五番  
振替貯金口座第一四五八一番

六四

萬坪、福西善五郎氏の七十萬坪等其重なる者に  
して多くは成懇濟となり地味も中等に位せり、其  
地當驛を距る三里餘サルスベツにて安藤某の企圖  
に係る北海道秋蠶製造所あり蠶種製造を目的とせ  
るものにして將來此地方の生産上侮るべからざ  
る事業なりとす。

將來の開墾殖民地 字ナイ川字重別に凡百萬坪の  
地質良好なるものあり、既に區畫地の測量を爲せ  
り、本驛を距る約二里にして湯の澤礦泉に至るべ  
し、此間車馬の便あり泉質は硫化水素冷泉なり、  
また黒松内川の上流停車場より約一里の所に湧出  
せるの説あるも未だ着手せる人あるを聞かず編者  
もまた之を探索せざりしも思ふに本驛の發達する  
と共に之れ等は一顧の料とするに足らんか。  
官公衛、神社佛閣其他 重なる建築物としては  
停車場、倉庫、社宅等十一棟、黒松内尋常小學  
校、觀内尋常小學校、戸長役場、郵便局、巡查



駐在所、米太川農務所、安藤養蠶所、黒松内神  
社、大谷派本願寺説教所二ヶ所、曹洞宗説教所等  
あり。

旅館 重なる旅館は、奥千葉新藏、幸及川初吉、  
花岡利吉等にして奥旅館は潮路に本店を有し當驛  
の奥は其支店にして其位置は停車場の真向ひにし  
て旅客の爲には最も便利なる旅館なり、取扱ひの  
如き町噺にして且つ都會的なり同館には乗合馬車  
の構内特許しあれば壽都、潮路、島牧方面の旅客  
には同館にて昇降するを以て便なりとす。  
●馬車賃 當驛より壽都港までの乗合馬車賃金五十  
錢、磯谷へ同六十錢、歌葉へ同四十錢人馬賃金壽  
都へ金九十錢、歌葉へ六十錢、荷馬賃金壽都へ四  
十五錢、歌葉へ二十七錢なり、而して壽都へは二  
時間磯谷へは二時半にして何れも送することを得  
べし、一日數回の往復發着あるを以て旅客には最  
も便利なり、



株式 會社

## 拓殖貯金銀行

岩内支店

電話百五十番

- 貯蓄預金 ● 當座預金
- 据置貯金 ● 小口當座預金
- 切手貯金 ● 擔保付諸貸出
- 定期預金 ● 爲替荷爲替

六五

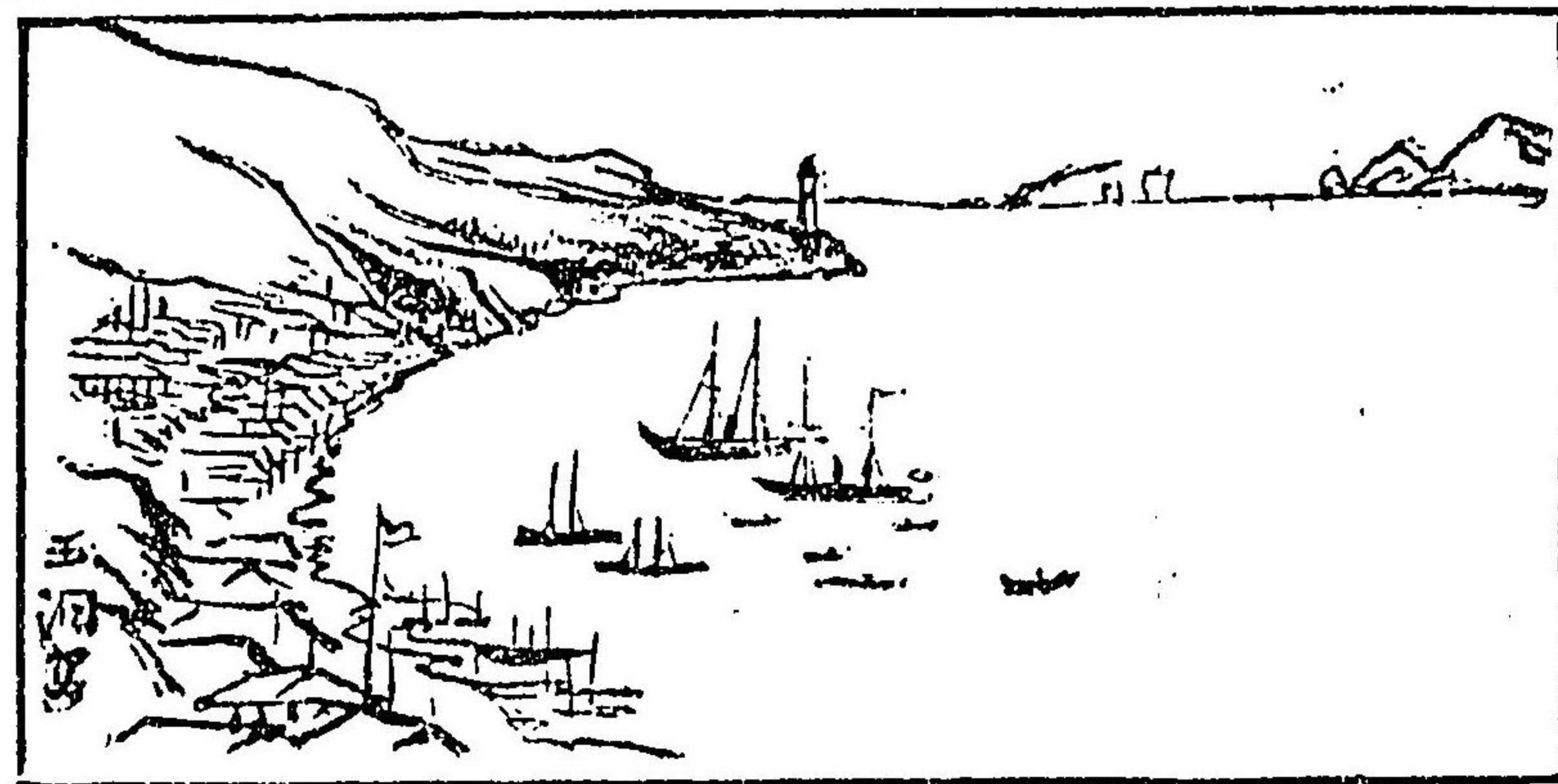
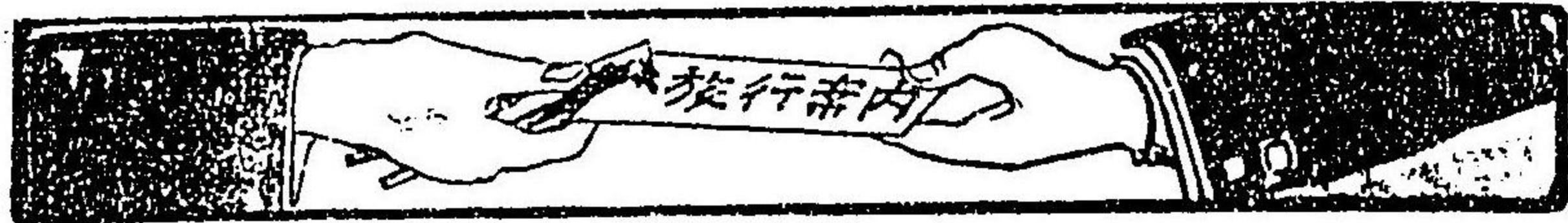


### ● 壽 都 町

壽都町は舊鐵線黒松内停車場を去る四里九丁餘にして後志國壽都郡にあり戸數千二百五十、人口八千六百五十八を有せる本道中屈指の都會たり島牧歌樂、磯谷、壽都四郡の貨物集散地にして本道西岸の一重要港たり、灣内東西二里十七丁四十五間南北一里二十八丁三十五間、深百八十六尺港口北に向ふ、維新以前は壽都場所運上屋のありし所、今は巨商大買鱈次し其繁榮亦觀るべきものあり、兩館を距ること陸路四十一里、小樽をさること同二十九里十丁、福山まで六十八里二十丁、岩内まで海上十一里餘、此間汽船の往復絶ゆることなく、遠洋航海の大汽船又寄港をなす、沿岸漁利多く附近の開墾又生産に伴ひ、人口日を選ふて繁殖せり一年間の出入船舶千に達せり亦以て其盛況を知るに足るべし。

六六  
農業、漁業の概況 農業に至りては見るべき者なしと雖も漁業に至りては例年收穫高平均せる好望地たり、而して其重要なる水産種類は鮭、鱈、鱈等にして雜魚の如きは一ヶ年中絶ゆる事なし、然れども年々漁獲減退の現象を呈せるを以て當業者は大に視る所あり、遂に道廳より補助金千三百圓を受け房州より斯業に熟練の漁夫を教師として雇聘し茲に沖合漁業試験組合なる者を設立し大に沖合漁業の發達を奨励するの策を實行しつゝあり故に數年を出でずして壽都方面に於ける水産額上に著しき變態を見るに至るべきは蓋し明かなり。

市街の状況 壽都町は六條町、岩崎町、大磯町、矢追町、渡島町、新築町、開進町の六ヶ町より成り官衙としては壽都支廳、壽都區裁判所、壽都稅務所、壽都町役場、壽都警察署及壽都病院第一第二壽都高等及び尋常小學校は何れも渡島町に壽都三等郵便局は大磯町にあり金融機關としては江差

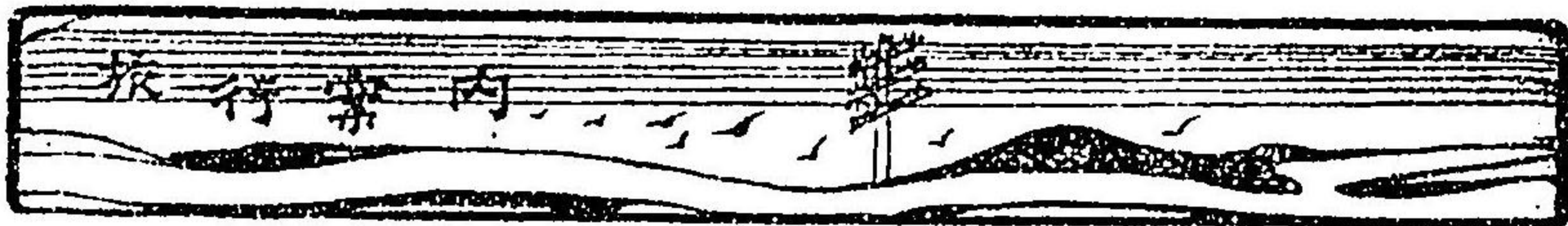


壽 都 港

貯蓄銀行支店、壽都銀行等にして其他倉庫會社、壽都汽船株式會社、共同運輸組、水産組合、精米所、壽都新報等は何れも大磯町にあり、六條町、岩崎町、大磯町、矢追町の各街は海岸通り

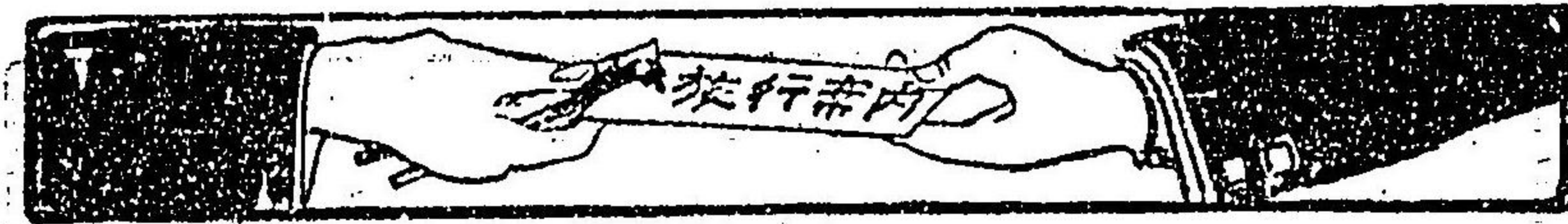
にして、大磯町には大買家商軒を列ね、内山呉服店、中田呉服店、松井及九善呉服店等最も著名なり、上町なる新築町に妓樓料理店等皆此附近に散在せり劇場としては壽都座あり、此他壽都二等測候所は開進町に、燈臺は辨慶岬乃ち政治の西北端にあり。

神社、佛閣 神社は郷社として、嚴島神社(祭神市杵島比賣命)村社としては稻荷神社(祭神保食神)外二社あり寺院は龍洞院、法華寺、善龍寺、法界寺、葉提院の四社五寺あり郷社嚴島神社は崎昔筑紫の住人にして辨天丸と稱せし和船の船頭某或日颶風に逢ひ難破して岩崎の海濱へ漂着したる時其守護神として携帶せる辨財天の立像を拜して小祠を其海濱に建立せり、後ち松前の藩士鈴木某更に岩崎村に奉祀せるを後ち今の渡島町の山上に堂宇壯嚴の一社を新築して此所に奉移し壽都第一



の鏡守社たり。  
 舊蹟 壽都の西端に斗出せる岬角にして岬端悉く奇巖燈臺あり以て航海の針路を示す、之れ辨慶岬なりとす、傳へ云ふ昔判官義経此地より異邦に渡れりと、背部に土壘あり、辨慶の角力場と云ふ周圍十餘間形土俵の如し、辨慶が甲冑を晒せし處なりと荒誕信するは足らず、岬頭近く岩内の雷電岬と相對し眺望甚だ風致に富む横瀨美谷オソコドマリ等の岬端参差として數點の漁家溪谷の間に隠見し香渺たる洋上白帆を孕みて遠く水天の間を縫ひ、朱太川兩岸の田疇山隈に延び、幌別山、天狗嶽、觀音山等其後に迫り神氣人を襲ふの觀あり。  
 交通 磯谷(島古丹)黒松内へは日々午前午後の兩度乗合馬車の便あり磯谷へは六十錢黒松内へは五十錢にして約二時間にて達すべし、壽都岩内間の海路は汽船の便あり毎日午前午後の兩度小蒸汽船北球丸、壽都丸、古宇丸の航海するあり、其他各

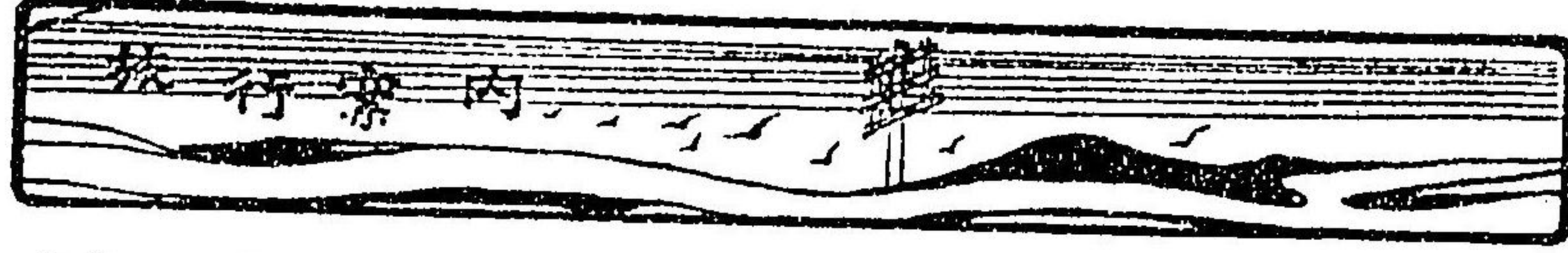
社外船航路の汽船便あり、壽都岩内間の汽船賃金八十錢なり、乗降の兩解舟賃二十五錢なり而して二時間乃至二時半にして岩内に着すべし、然れども冬季乃ち毎年十二、一、二、三、四の五ヶ月間は壽都の四方及津多岬北東雷電岬の附近波高く風荒み小蒸汽船の航海甚だ危険なるを以て冬季間空しく航海を停止するの已むなきに至る、故に壽都の發達を圖り壽都の商業を振作するには陸上運輸の連絡を必要とす而して陸上運輸の連絡を爲さんには黒松内に出で舊北鐵線に接続するの外なし、乃ち壽都、黒松内間八哩の運輸交通を便ならしむるを以て急務とす、然るに此沿道中二の嶮坂あり之を平坦に開鑿するに非ざれば鐵道の支線及び鐵馬、電車何れも之を施設する能はず、然るに其開鑿費二萬圓の内六千七百圓は壽都町より寄付するとなりて遂に道會に於て可決したるを以て己に三十八年に於て工事に着手するの運びに達せり、



今其の設計の一斑を記さんには壽都黒松内間の舊道を捨て、海岸に沿ひ四間道路を開鑿し先づ橋岸村黒松内間三里を開鑿するにありて已に先年全部其工を竣へたれば道路平坦車馬の交通頗る安全にして且至便となれり尙近き將來輕便式鐵道の敷設の曉に至れば壽都、黒松内間の交通連絡上完全を得るの日は乃ち壽都の實業上一新面目を發輝するの日なり。  
 旅館 當港中屈指の一等旅館は大磯町の梅鶯館梅本吉三郎曲ア石井二作等にして何れも取扱ひ親切にして且つ確實なり。

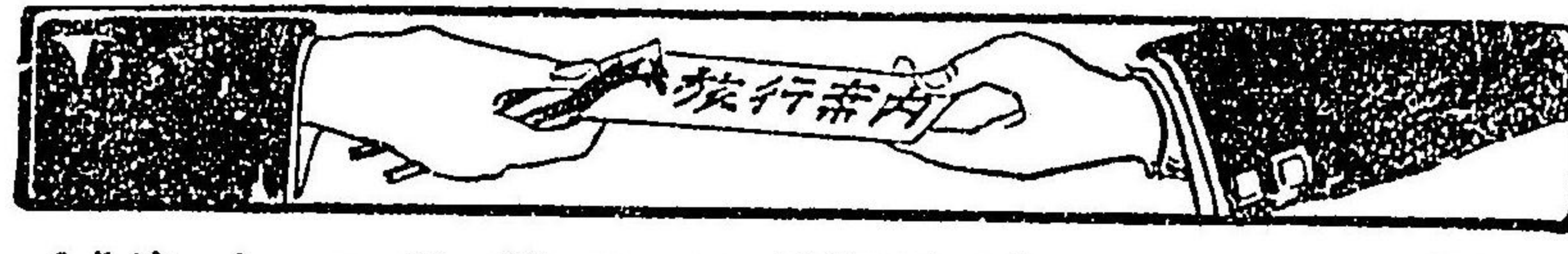
●熱 郭 驛

歌奏停車場は後志國歌奏郡字白井川にあり、停車場より壽都町まで其距離六里餘一條の假縣道より殖民道に接続し、車馬の交通盛にして何等不便を感ずることなし、熱郭村は函館壽都間縣道沿と、



長萬部より遠く、俱知安に通ずる連絡道路沿との二原野より成り字熱野、白井川、婆澤、大谷地、白炭、チヨボシナイ等を管し戸數二百四十七、人口千百十六村役場、尋常小學校、官設驛遞等備はる村民は専ら農業に従事し傍ら小商を爲すもの數戸あり、又農民十中の七八は小作者にして、耕作法の如き舊慣を墨守するも幸に土地肥沃なるにより相應の收穫あり、産物としては大小豆、莖苳、燕麥等あり、年々の輸出額二千石を下らず、農場には中田農場（耕地百五十八町歩餘外に貸付中のもの十五萬坪餘）歌乘同盟農場（耕地三十町餘、貸付中のもの二十萬坪餘）、後志興農株式會社耕地百四十二町餘）等あり、何れも農場事務所を置き、小作者の管理を爲さしめ、自ら耕作に従事するものなし、將來殖民の望ある土地は三百二十萬坪餘にして、内二百萬坪内外は開墾地となすべし、其他白炭川に於て砂金の採收を願したる者あり、

未だ詳細の成績を聞かざるも將來有望なりと云ふ、元來當驛の地域は餘り廣しと云ふにあらざるも所謂熱野原野の外前記後志興農株式會社外二大農場の他に佐藤、横村等の大農場もあり、尙ホロナイ殖民道路にして完成の曉はウタナイ原野の物資を始めサルスベツ原野、ナイ原野等の農産物は滔々として此驛に注入するに至るべし、而して尙禮文華道路の開鑿竣成後に至らんか從來僅かに舟楫の便によつて長萬部若くは室蘭港に輸送し來りたる所の當附近一帶の貨物は勢ひ當驛に集注するの機あるべし、當驛の將來亦決して忽諾に看過すべからざるの價値あるべし。

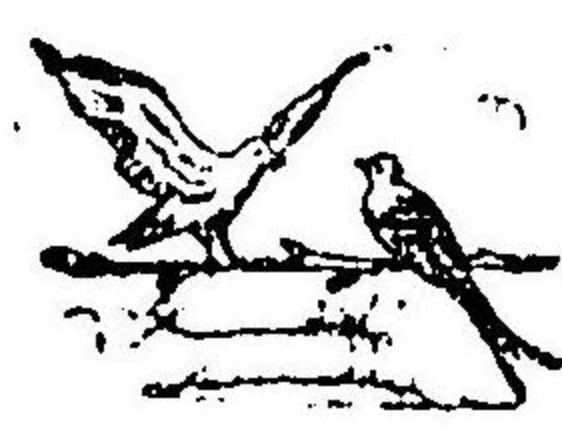


の如くついに一の情歌となりたるなり、旅客若し汽車の此所を通過のとき此の追分節を輕吟し少婦一滴の涙を偲は、其情味亦一層ならむ。

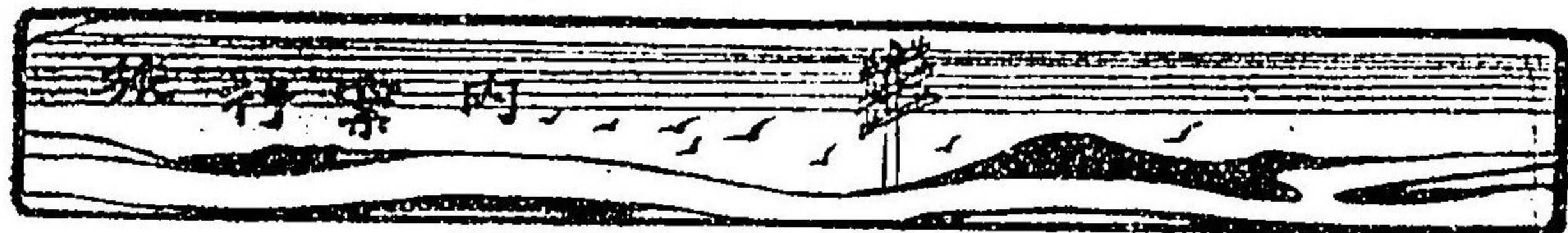
### ●目名驛

本驛は後志國磯谷郡南尻別村字中目名にあり海を距る五里餘目名本村は二里の西にあり、乃ち停車場は中目名原野區畫地の中央にあり停車場に接して市街豫定地の設けあり、本村との距離近からざるを以て不便云ふべからず、然れども近時村政移轉の儀村内に起り當局官廳に於ても其必要を認め居れるを以て近き將來事實に於て其不便を除かるべし、而して當驛は山岳連亘し開墾地域狹隘なるも亦純然たる農村と云ふを得べくして停車場所在地の河瀬秀治外三大農場三百萬坪は已に七八分以上の成效をなせり、然れども地勢上農業地と云ふ

目名驛

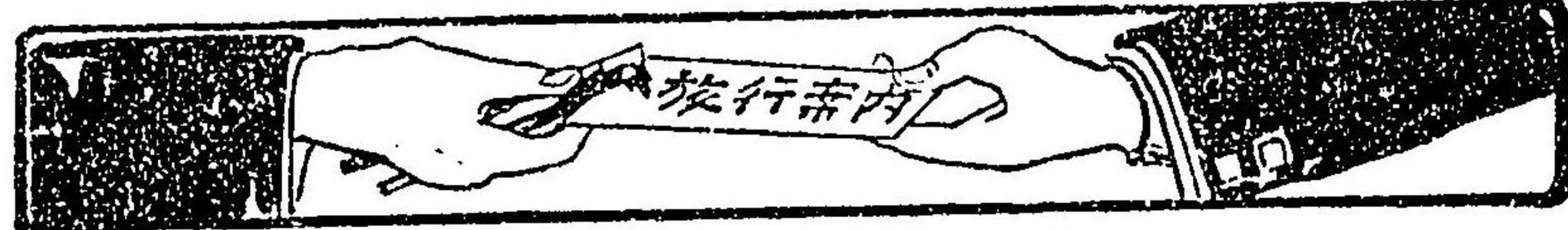


七一



### ●蘭越驛

當驛は後志國磯谷郡南尻別村の一部にあり後方は一面に山脈を以て包圍せられ開墾の餘地なきも左右に各一里の大地積を有し前方尻別川を隔て、クンナイ大原野を控へ、舊北鐵沿道中最も見込ある所なり、木戸、田中、齋藤、田中館、田村、森田、原田、遠藤、小田、川瀬等を以て重なる農場とす、戸数は僅に七百戸に過ぎざるも其開墾地積は頗る廣大なるものなり、而して大谷地地積の如き其總面積三百萬坪の内已に七割は既墾となれり、尙メクンナイ原野の農産物は從來尻別川の水利によつて磯谷へ吐出し來りしも鐵道開通後に至りては悉く當驛より輸送するの狀態に變化せり、而して開通と同時に停車場附近の人口の増加頗る著しく一二年を出でずして一市街をなすに至るべし。



### ●昆布驛

本驛は後志國磯谷郡南尻別村と膽振國虻田郡狩太村との境にあり、後、膽兩國の國境たり、昆布、尻別の兩川の會流する所にして鐵道開通前は人煙稀少の地なりしを以て山河の形態太古の趣を存し、嶺嶽は巍峨として高く幽谷は窈窕として深く、古木秀蔚風氣霏々走翠片々昆布、尻別兩岸の峰巒中間の流水相待つて奇を盡し妙を極む、之れ當驛附近の獨占せる風光なり、鐵道開通前は戸數僅々四五を有する山間の僻邑たりしもの今は昆布川に沿ふて口々新造家屋の殖ること著しく已に二百戸に滿たんとせり。

當驛は地區極めて狭小なるも其關係區域の廣大なること附近各驛に冠たり、又農場に至りては岩野南川、渡邊等の大地積あるのみならず昆布川上流三里の所に大地積あり、尙將來蘭越附近及び眞狩

蘭越驛、昆布驛

## 第五回國內勸業博覽會褒賞領

此名題洗粉は皆々様の御引立に依り益々盛大に相成難有仕合に奉存候然るに近來諸方に名題洗粉の模造品澤山顯はれ候に付弊廠製造品には袋の裏面に芝居櫓形の登録商標を相印し御座候間何卒御求の節は篇と御覧の上多少に不限り御用向の程偏に奉希上候也

東京淺草區黑船町 海素亭謹製

此名題洗粉は皆々様の御引立に依り益々盛大に相成難有仕合に奉存候然るに近來諸方に名題洗粉の模造品澤山顯はれ候に付弊廠製造品には袋の裏面に芝居櫓形の登録商標を相印し御座候間何卒御求の節は篇と御覧の上多少に不限り御用向の程偏に奉希上候也

東京淺草區黑船町 海素亭謹製

全到處の小間物化粧品店にあり

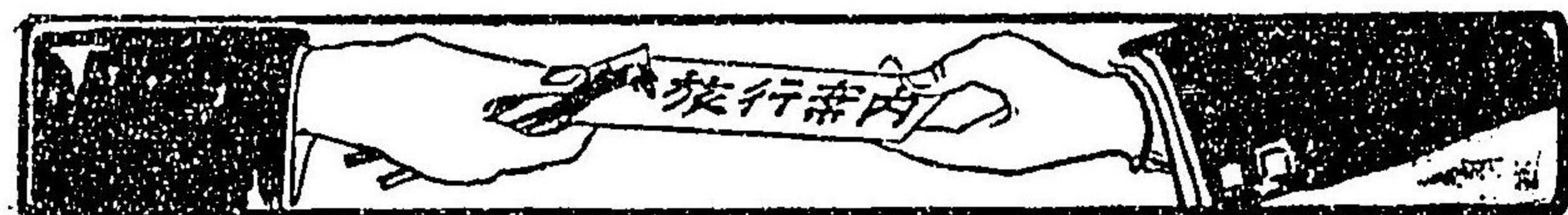
原野虻田郡一部の生産物は漸次當驛に吸收するの趨勢を示しつゝあり、尙當驛は目名、狩太間七里の中央に位置するを以て近き將來郵便局其他の行政設備の實行を見るに至るべく、尙道廳に於ても官林を解除し區畫割殖民地を設くるの議あれば日ならずして事實の上に出出すべく當驛の發達期年ならずして其面目を革むるものあらむ。

温泉 停車場を距る一里内外に二三の温泉あり乃ちメクンナイ温泉、ユサレベツ温泉、ニセコアンベツ温泉等之なり、泉質は何れも含鐵鹽類泉にして未だ浴舎の完備なきを遺憾とするも鐵道開通後の今日漸次其設備を完全にせば蓋し浴客の來遊亦隨て踵を接するに至るべし。



七三





### ● 狩太驛

● 狩太停車場 ● は膽振國虻田郡狩太村字真狩太なる尻別真狩兩川の落合にあり道路は狩太村字真狩太を基點として六線に分岐し、一線は真狩村を貫通し定山谿を経て札幌に、一線は辨邊虻田を経て室蘭に、一線は南尻別村を経て磯谷に、一線は倶知安村を経て岩内、一線は倶知安村字仁勢古安に通ずるものにして、且つ尻別川には渡船場の設あり、殊に四通八達の地にして車馬の交通甚だ便なり、狩太村は戸數四百七戸、人口千六百十六人、戸長役場、郵便局、學校、説教所、旅店(養老館)車山田貞二及吉岡國平の二戸)等此地にあり、村民は専ら農業に従事し、其戸數三百三十二戸、人口千三百二十三、作付反別千二百町歩、收穫價額七萬二千圓、附近大農場頗る多し。停車場より倶知安村字仁勢古安温泉に至る僅かに

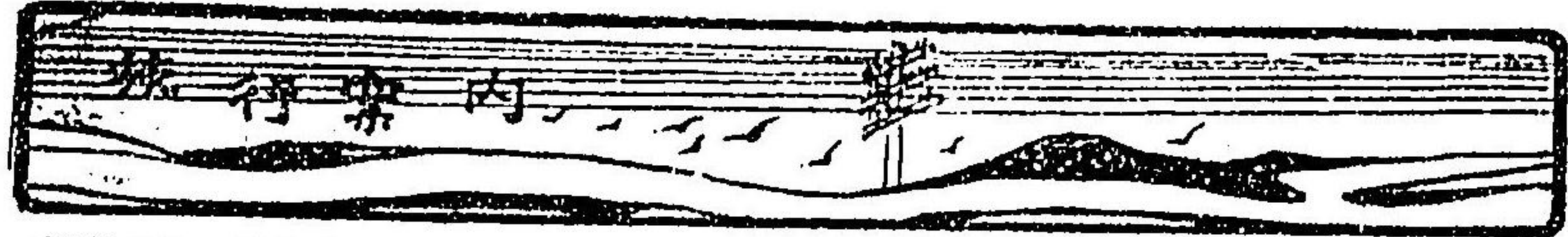
一里半のみ、未だ道路の通ずるものなきを以て交通不便なり、詳細は倶知安驛に就て見るべし。遊覽 有名なる洞爺湖へは四五時間、本道寺院の開基たる有球の新善光寺へは半日にして到ることを得べし、此兩地は本道中有數の名所にして一遊を試むるの價値あるものなり。旅館 停車場前には明ほの本村には上唐津等あり。

### ● 比羅夫驛

本驛は尻別川沿岸、虻田郡狩太村倶知安村との境界にあり、附近一帯の地は茫々たる原野なるも近來停車場より約百間の地に市街地を設け、同所は東西二百四十間南北八十間を約九十戸に區劃したるものにして豊澤川と稱する小流中央を貫通せり、中央道路を大通りと名け之と併行して丸山



福原衛生齒磨石繪本舖  
東京銀座  
福原資生堂



通りと稱する一條の道路を設けたり、此地は阿部比羅夫に歴史的關係を有するを以て其山絡によりて驛名をも比羅夫と命名したるものなり。

農場 元來地區狹少なるを以て農産物に多く望を屬するを得ずと雖も、廣瀬、對馬、樺山、竹我の各大農場ありて、仁勢古安原野の開拓を進むるに従ひ此地に集注する所の物資も亦侮るべからざるものあるべし、新市街地は廣瀬農場主の寄附に係るものにして鐵道を前に河流を後ろにし南方に延び二條の道路あり、約八十戸を容るゝの見込なれば前途の好望期して待つべし、又林野の面積廣くしてノースケ、ニセコアン等の大地積より産出せらるゝ木材薪炭の鐵道によりて輸出せらるべき積量實に饒多なるを以て本驛も亦舊北鐵道中重要地として將來股賑なる市街地たるに至るべし。

温泉 停車場を距る一里若雄別に山田温泉あり諸船の設備未だ備らざるも亦一遊を試むるに足るべし

し泉質硫黄にして皮膚病に特效ありしと傳ふ。羊蹄山へは(一名蝦夷富士)廣瀬農場より新道あり半日にして登臨することを得べし(羊蹄山に就ては俱知安驛の記事に詳し)

因曰日本書紀卷十二齊明天皇紀四年四月阿倍臣率船師一百八十艘伐蝦夷、船田淳代二郡、蝦夷望怖乞降。於是勅軍陳於船田浦。船田、蝦夷恩荷進而誓曰。不爲官軍、故持弓矢、伯奴等性食肉、故持。若爲官軍、以備弓矢、船田浦神知矣。將清、白心、仕官朝矣。仍授恩荷、以三小乙上、定津輕二郡、々領。遂於有間、濱、召聚渡島、蝦夷等、大饗而歸。

同紀五年正月是月遣阿部臣率船師一百八十艘討蝦夷國阿部臣簡集他田淳代二郡蝦夷二百四十一人其虜三十一人津輕郡蝦夷一百二十二人其虜四人膽振郡、蝦夷二十八人一所而大饗賜祿、即以

第五回博覽會賜名譽銀牌



資本金壹百貳拾五萬圓

諸積立金五拾八萬圓

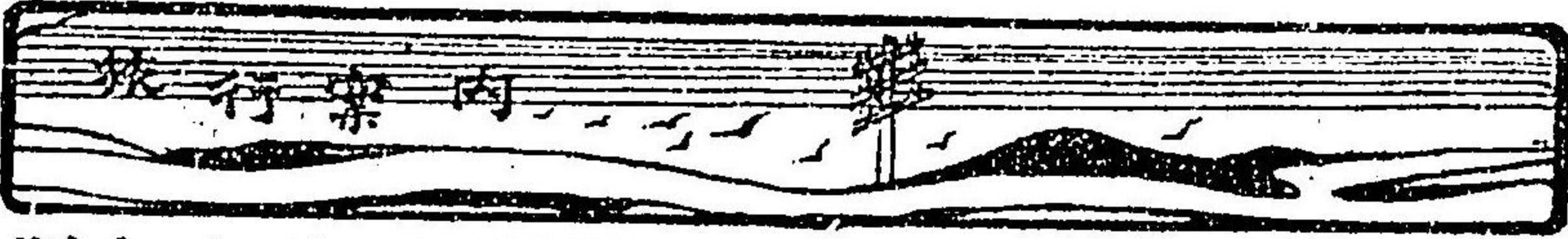
營業種類

- 貨物運送
- 危險擔保
- 付運送
- 川汽船旅支店出張所 八十三ヶ所
- 客運送 取引所 千九百七十七ヶ所

内國通運株式會社

東京市日本橋區佐内町三番地

- 函館大町廿四番地 函館支店 電話二〇番
- 同 若松町派出所 電話八二六番
- 札幌區北四條西三丁目 札幌支店 電話七番
- 小樽區手宮町十七番地 小樽出張所 電話五〇九番
- 同 小樽區稻穂町中央停車場前 同 稻穂派出所 電話八六六番
- 小樽區開運町 開運町派出所 電話三二五番
- 旭川町停車場 旭川支店 電話三三五番



船雙與五色綵帛祭彼地神。至内入龍時。問菟蝦夷膽鹿島菟種名。二人進曰。可。以。後。方羊蹄爲政所。隨膽鹿島等語。遂置郡領。而歸云々。

依之考證するに阿部比羅夫の當驛附近に由緒あるを知るべし、尙齊明天皇紀本朝經緯傳等に詳悉しあり。

### ● 俱知安驛

悠々たる歲月茲に千二百餘年阿部將軍の偉圖を追想して比羅夫驛を發し大曲隘道を(八百廿五尺)出づれば、兩岸の風光夏は蒼翠綠滴らんとし、秋は紅將さに燃えんとする紅楓の下一道の流清翠々として疑るものは淵となり奔る者は岩を啣んで花を吐き雪を散する尻別川を沿ふて遡ること里餘、仰げば亭々として雄偉なる蝦夷富士と面々相對す

の時忽焉として一望快濶の高原に出づ正にこれ北海の新京都俱知安にして俱知安驛は不等邊四角形の其一角に位す。

地理 試みに卷頭第一の北海道地圖を繰れば北海道は鳳鳥翼を張て將さに舞下らんとするの形に非ずや、渡島半島に頭嘴を捧げ天鹽、日高に兩翼を張り根室に尾先を振はんとする鳳鳥は脊梁骨を上川に寄せ頭骨を羊蹄山に擡げ而して命脈の咽喉を俱知安に托せんとす、咽喉なる哉。俱知安は東西兩海岸の最も迫る所に位して北海の三港函館小樽室蘭の中心を占めつゝあるにあらずや、然り函館を玄關とし小樽を勝手口とし室蘭を庭口とするの形勝に位し更に虻田、西紋、釧路、帯部、磯谷、岩内、余市の各都會各港灣に道路を有して其小門戸を開かんとす地利の至便形勢の非凡は早晚俱知安をして活躍せしめざれば已まざらんとするものありべし、加ふるに蕞爾たる一村と云ふとも尙三十

室等好睡心子前幕司了了記備也  
推備好却總心縣假多習了了海具以空

壽都  
岩內  
俱知安

實業案内  
次第不同

第一編 第一章 總論 第一節 實業の意義

陸 弊館は位置中央商業并に  
諸官衙に便利の地にあり

海

# 梅鷺館

壽都港天磯町

梅本吉三郎

電話一三十一番  
電略(ムノモト)又ハ(ムノ)

旅 用 等 館  
名 弊館は取扱の親切を旨とし寢具及客  
室等は極めて清潔にして完備せり

## 營業品目

吳服 本物  
海陸物産委託販賣  
佐渡荒物  
⑤ 醬油味噌酒醸造販賣  
北海道機械類  
株式會社製 綿絲類

壽都港大字天磯町

⑤ 松井源内商店

電話一三五番  
電略(ムノモト)又ハ(ムノ)

同上

⑤ 松井回漕部

各國  
汽船回漕業  
**三**  
西岡回漕店  
北海道壽都港  
電話二十四番

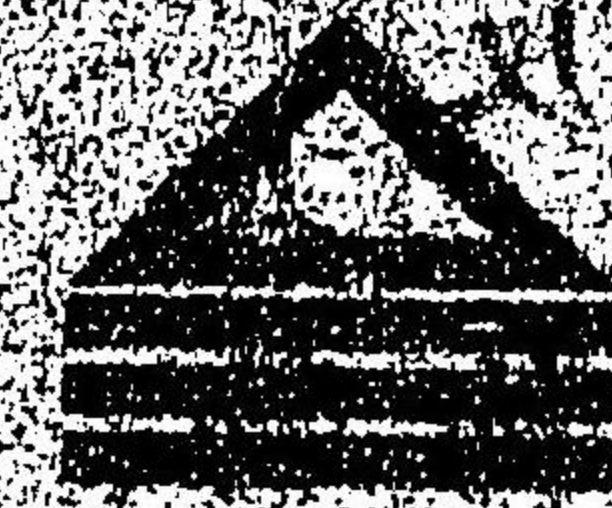
營業  
日本郵船株式會社 荷客取扱  
各汽船 船主 船元 取扱  
帝國海上運送株式會社 代理店  
共濟生命保險株式會社 代理店  
北海通運株式會社 代理店  
壽都町大字大磯町八番地  
佐藤出張店  
同回漕部  
電話略號(サトウ)又ハ(ヲ)  
電話番號 拾番

吳服太物  
米穀荒物  
商  
吉  
全  
池田商店  
壽都郡

吳服太物  
洋反物  
商  
善  
佐々木善四郎  
後志國壽都港大磯町五番地  
電話略号又ハ(サ、キ)

內國通運株式會社 取引店  
旅館  
ア  
吳石井旅館  
後志國壽都町大磯町内  
電話(九番)

旅館



花岡旅館

花岡利吉

電話 〇三三三

米穀雜貨

吳服太物商

澤田支店

寫真攝影

加賀谷寫真館

電話 〇三三三

電話 〇三三三

電話 〇三三三

白米 雜穀 荒物 委託 賣買 業  
農 産 商

俱 知 安



伊井億右衛門商店

電話 十五番  
電略(イ)又ハ(イキ)

原料を撰み  
風味を慢  
名物手打そば

俱知安停車場構内  
プラットフォーム内

御 辨  
壽 司 當



青 山 豊 吉



旅館 **小喜樂屋**

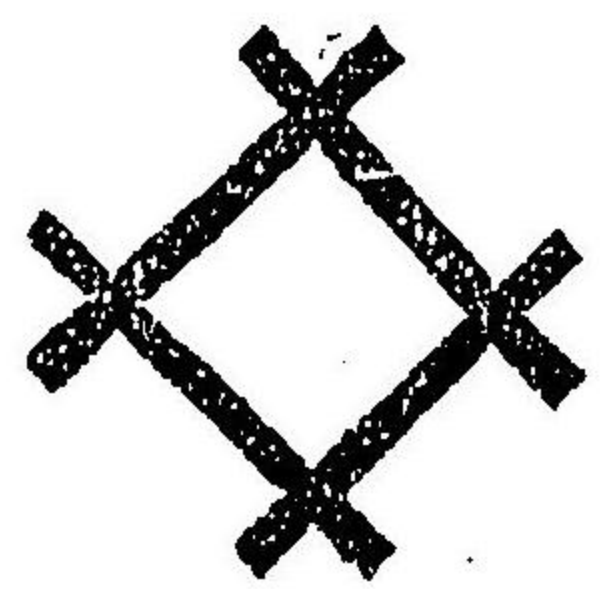
黒松内村大通リ

本店 **小間菊太郎**

停車場構内

支店 **小待合所**

壽都、歌棄、潮路、磯谷、行馬車便取扱致候

等  高

館旅河南

町内銚御港内岩

(コナ) 略電 | (番七) 話電

内國通運株式会社  
東京九本三立社  
合資會社○栗山組  
北海道通送株式会社  
札幌共同通送組  
函館丸和田組  
小樽九二西谷組

店引取各

**十三富運送店**

北海道岩内郡小澤驛前

電信略號(サ)又ハ(〇ツ)

名と代

ねるもあ

北海道岩内郡小澤驛構内  
呼賣待合所

函館屋

勉御旅館



加賀屋旅館

川畑りを

俱知安九號線

小澤停車場前

旅館 御待合



荒井屋

○岩内行御旅館には鐵道馬車の便あつて特に丁寧に御取扱ひ申上候

○蝦夷富士の壯大なる山容を一眸の下に蒐む

後志國俱知安

和御料理



望羊樓  
尾上儀三郎

○設備を完全し御客様をして遺憾なからしむ

(電話四十番)

運送業  
鐵道貨物  
取扱所



大久保省三郎

俱知安停車場前

電略(オク)又(ハ)オ

小樽因布川運送店代理部  
余市キ野口運送店代理部  
函館齋運送店代理部

海陸貨物運送業  
丸米印米林運送部取引店



北川運送店

俱知安停車場通

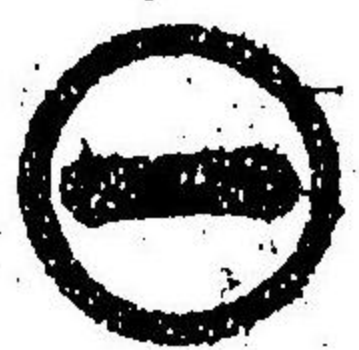
電話(〇二ノ)又ハ(キ)

名引まらんちう  
物蝦夷富士館

新聞雜誌類

御待合所

俱知安驛前



小林金吾

函館和 和田組取引店

小樽〇 栗山組取引店

東京● 三立社取引店

俱知安驛



奥村運送問屋

電話二十九番

店主 奥村健吉

和洋

御料理

仕出し

俱知安停車場前



札幌屋

和洋菓子製造卸小賣并  
新聞雜誌、和洋小間物類一式

俱知安停車場構内賣店



上 幸福堂

上 杉幸三郎

店主 西谷庄八

# 西谷回漕店

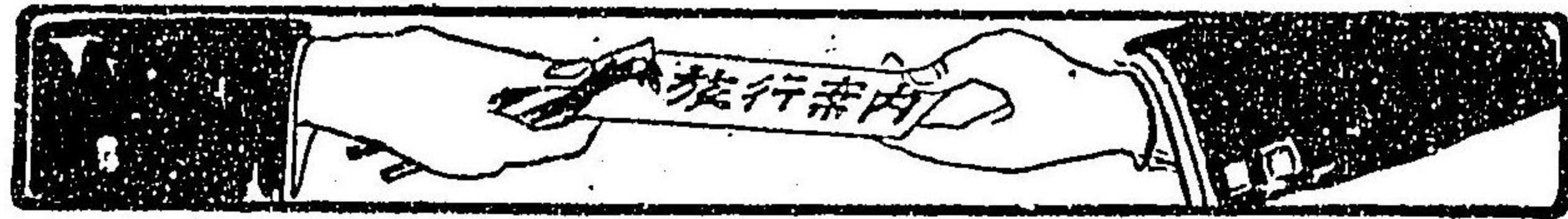
電話百〇七番 百〇八番

小樽區南濱町三丁目

以北航路  
輸出部 西谷濱店

電話四五六番、八四九番

支店 大泊、真岡  
出張所 泊、王老

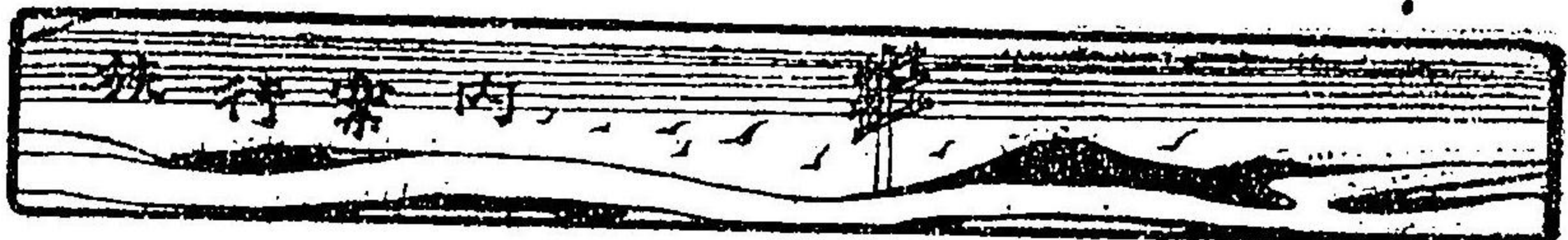


八方里淡路國より稍大なる面積を有して西には峻巖奇抜なる岩雄登、西高安登(西高山)(アイヌ語にセコアンヌプリ)の立てるあり、稜巒なる稻穂、餘市の連脈は北方の障屏として西比利亞風を防がんとするあり無意年、喜茂別の秀峰峻嶺翠を擡めて聳え翠嶺、岩雄別(ヌツプリカンベツ)(ペーベナイ)(ワツカカタツツ)の諸水は此等諸山の溪流を集め混々として原野を涵養しつづつ蜿蜒長蛇の如く中央を貫流する尻別川に集合す、誠に之れ山河襟帯天府の地にして北海の新京都と稱せらるゝも亦宜ならずや。

沿革 俱知安はアイヌ語「のクツチャン」にして隠場避所を意味す舊京都の平安城と形勢相似たるのみならず名稱も亦相類すとせば名實共に適ふものと云ふべし、比羅夫將軍の遺蹟は遼焉として考へ難きものあるも昔時尻別川の蛙、鱒漁に従事せし蚯田、岩内のアイヌ等は屢々利を争ひて衝突せし

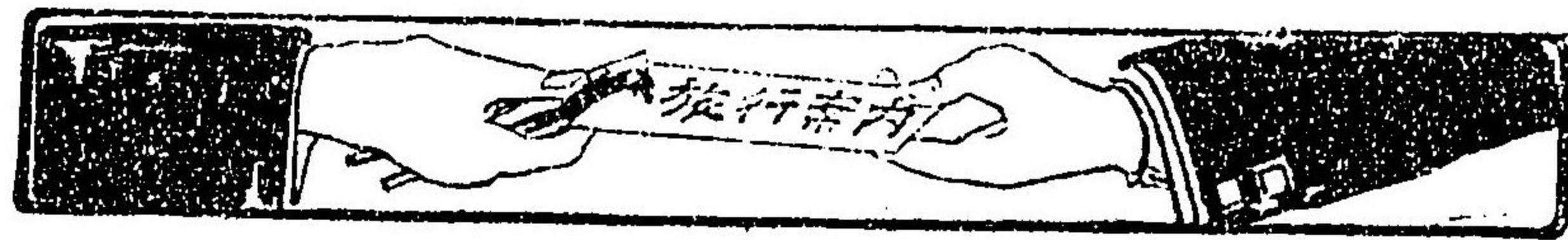
俱知安郡

際兒女等は常に此樹林に入りて其鋒鋦を避けしめ此名あるに至れりと云ふ、固とこれ山中の山林の林に過ぎざりしが故に一旦御料林に編入せられしが明治二十五年の春阿波の人山田和雄等辛先無願開墾をなし幾多苦辛經營の後二十七年七月御料林の解除となり隨て殖民地の編入となり測量區劃制となり廿八年十一月貸付済となるや現住せしもの無慮五百戸を數ふるに至れり、爾來年々感々道廳は増區劃をなして新に貸付せしもの二千餘に及びしかば單獨移住と團體移住は比々相接し、幾作の大農場は規定の小作人を移來りて開拓の氣運次第に舉りしも惜哉交通機關の不備岩内に通ずる一條道路の險惡は遼遠踴路の中に大勢を沮害するの概なきに非ざりしが、三十七年十月に方り舊北鐵線の流筋一たび武陵桃源の夢を破りしより俄然として氣運勃興し茲に開發の一大新紀元を開くに至れり。



市街部落の發達 明治二十九年四月室蘭支廳は此田村を割て俱知安村を置き戸長役場を基線西三號に設けしや巡查駐在所と與に二三の商店は點綴して本村第一回の中央市街たりしが明治三十年九月郵便局を基線西六號に設置せらるゝに及び三十二年五月行政管轄變更の爲め室蘭支廳所管は岩内支廳所管に移り岩内警察署は先づ俱知安分署を置く爲め地を六號に卜するや商賈の來往するもの漸く多くして六號線は本村第二回の中央市街たるに至り越えて三十四年北海道廳は其豫定市街地を測定區劃し三十五年三月其貸付を了すと與に家屋の建築をなすもの次第に相接して市街地の體裁を爲すに至り、三十六年十一月戸長役場を基線西三號より市街地に移轉するに至れり、然るに市街地としては位置少しく偏するの嫌あるが上に琴譜尻別の二川往々氾濫して其一部に浸水する爲にや旗運漸く移動せんとするの時舊北鐵線の開通となり

停車場附近の人氣は自然昇騰すると同時に、官設市街六號及停車場附近地との中心に在る基線西九號は中央市街なる名實の下に勃然として頭角を現し來り茲に第三回の本村中央市街を形成するに至り、茲に三十八年日本製鐵會社は其俱知安製鐵所を北一線西七號に設置し大規模を以て事業を經營するに至れり、嘗て水火の難の爲め悲運の大打撃を蒙りし六號市街も再び氣勢を挽回し香昔時に優る勢力を以て九號線に連絡せんとするの旗運を現せり、以上四箇の集團を合算して市街と稱すべきもの今や僅に六百戸に過ぎずと雖ども俱知安の面積は三十八方里なり、耕地は二萬餘町歩なり、森林は四萬町歩餘、其の他續々起るべき工業、鑛山業の盛んなるに至り、地勢が將さに喚起したる後志、支廳の設置と云い、今後人口増加の趨勢と云ひ、尙ほ將來駁々として發達進歩すべき餘地ありと云ふべし、良し仁勢古安地方の貨物は狩夫驛



若くは昆布驛に廣瀬農場、加賀團體、樺山農場方面は比羅夫驛に集散すべきものなりとするも、俱知安、喜茂別間の道路完成し尻別川の峻深工事終了するに至らば豊富潤澤なる森林、鑛山、耕地を有する喜茂別「ノースケオマベツ」「オロエンシリベツ」より長流川上流原野に至るまで無量の貨物と無数の乗客とは垣々たる一條の基線道路と尻別川の舟筏とによりて俱知安の中央市街及俱知安停車場に蟄集するに至るべし、是又市街の將來に希望を有する一大勢力たらずんばあるべからざるなり。

農業 地勢は既に曠漠たる大原野なり其地味に差異あるは固より免るべからざることにして概して言へば肥瘠相半するものゝ如し、耕耘の方は新開地を除けば洋式農具を以て馬耕をするもの多く馬匹已に六百頭に上り農具も亦之に副ふ、肥料の如きも漸次使用するの傾向ありて百事進歩的農村たり。

俱知安驛

つるは一見尙ほ説するに餘りあり、畢竟するに村農會が農事改良の中心となりて刺激鼓舞する賜に外ならずと雖ども抑も亦開發の口淺く他の長を採り己の短を補ひ易き爲ならん、主要の農産物は大豆、小豆、大福豆、中福豆、鶏豆、姉子豆、大角豆、豌豆、大麥、小麥、燕麥、玉蜀黍、蕎麥、粟、若、亞麻、馬鈴薯の類にして就中比較的産額の多きは大福豆なりとす、大福豆は本道の主産地としては余市、俱知安を推さる余市は質に於て優り俱知安は量に於て優る現に三十七年度の如き俱知安に於ては殆ど一萬石(十五萬圓)の産額を見るに至れり今後若し改良に改良を施さば其品質に於ては更に一步を進め余市を凌駕し全道唯一の主産地となるべきは蓋し遠き將來に非ざるべし、特に大福豆は其名の如く頗る多福にして一段歩の産額一反歩二石二三斗に達するあり、故に明治三十六七兩年年度の如く一石能く十五六圓の價格を保ときは

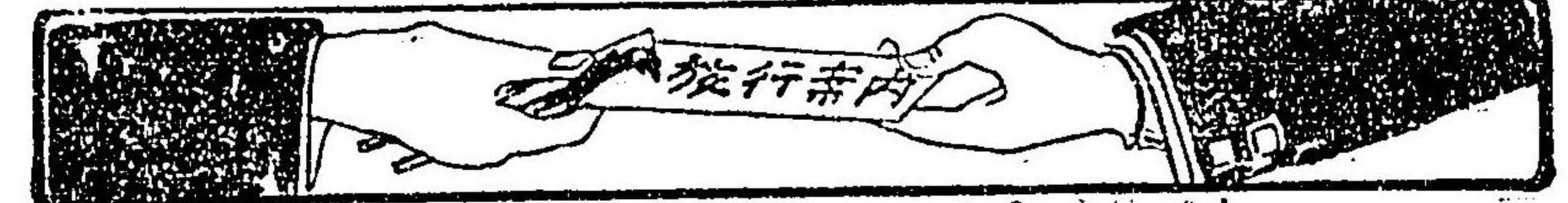
八〇





致の端緒を開きたるの利益は尠少からず。北海道の地たる北緯四十二度以上に膺たり氣候概ね寒冽にして土壤の豊沃と相俟て亞麻の栽培に適せり、歐洲に於ては白耳義、伊太利、獨逸、佛蘭西、愛蘭士、露西亞等其生産地甚だ豊かにして品質も亦至て良好なり、我邦にあつては風土の加減亞麻栽培に適するの地今日に於ては獨り北海道あるのみ、換言すれば北海道は亞麻の特産地と言ふも可なし北海道に亞麻製線場の設立されたる起源を索むるに明治廿二年一月白耳義人コレストン氏始めて北海道に來りて同廿三年迄教授の任に當り僅に斯業發展の端を開き廿二年雁木製線所を設立し、亞で廿三年琴似製線場設立し斯業の益々發達するに伴ひ同廿七年當別製線場廿八年十津川製線場等の増設を見るに至れり其後三十年に至り紋別にも製線場の設立するあり其當時滋賀縣人の共同に成れるもの旭川清真布にも設立せしものあり

しも維持困難の事情に依り鹿沼製線場にて之を買収し卅六年合同して元日本製麻會社を組織するに至しなり斯の如くにして同會社が北海道に亞麻製線場を經營するは石狩國空知郡清真布にある清真布製線場同國上川郡旭川町字中の島にある旭川製線場及膽振國有珠郡の紋籠にある紋籠製線場と同國虻田郡虻田村にある虻田製線場の四ヶ所なるも同會社の年々盛況に伴ひ亞麻原料の供給は倍々増加を圖ると同時に北海道中に在つても其地味を好み良種を選択して此地に新製線場を設置したるものなれば農民の奮勵と熱心に依り既設製線場の亞麻に劣らざるは勿論進んで舶來亞麻に比し遜色なきものを作り北海道特有産の名に恥ぢざらんことを期待せざるべからず。而して本道中亞麻の特産地は石狩國を以て其冠たるものとす帝國製麻株式會社が大規模を以て亞麻の製造に従事しつゝあるは世人の洽く知る所にして其産額の如き全道の總



産額の大部分を得有するの勢力あり。帝國製麻會社が北海道に原料を收むること右の如くなるが猶同社は北海各地に使用せる罽綯を販賣せること少からず、而して其網たるや特製の麻絲を以て器械力に依り製造するものなるが故に總ての點に完全にして且つ價格割合に低廉なれば一般漁業家の好評を博しつゝあり。其他羽田亞麻製線所、木工場、澱粉製造、味噌醬油醸造等あるのみ外に割箸製造、木地盆製造業等なきに非ざるも工業は尙ほ未だ搖籃の中に在りと云ふべし。 磯山 岩雄登の硫黃礦は其最大なるものにして三井物産の經營に係る新舊二式の器械を使用して盛んに採礦製煉に従事し、年々の産額七千噸に上ると云ふ、從來貨物の需給には内に仰ぎしも舊北鐵線已に開通したれば遠からず俱知安驛に通ずる新道路を發見するに至らん、其他硫黃礦、石炭礦、金

銀銅の試掘許可中の者無きに非ざるも未だ採掘に至らず。 磯泉 岩雄登及西高山(アイヌ語ニセコアンズプ)の山麓は北海の箱根にして七湯にも譲らざる温泉場を有す、山田温泉の眺望、新湯の奇抜、仁勢古安別の幽邃、岩雄別の高雅皆以て北海の珍とするに足る、新湯一名千歲湯及び開業せる西高山別は俱知安村界を距る僅に數歩に過ぎざるも已に南尻別に屬す其俱知安に屬するもの温泉四ヶ所炭酸冷泉一ヶ所あり。 山田温泉 西高山の半腹字琴籠に在り、俱知安停車場を去ること約二里駄馬を通ずるの便あり、比羅夫驛よりは一里に過ぎざれども道路未だ完全ならず現今實測中なり、温泉場は正面は雄偉壯麗なる蝦夷富士に對し裾野一帶俱知安、狩太の各原野を俯瞰し、朝暉夕陰氣象萬千の概あり、晨には半空に漲る霧の海を賞し、夕には玲瓏たる月影を



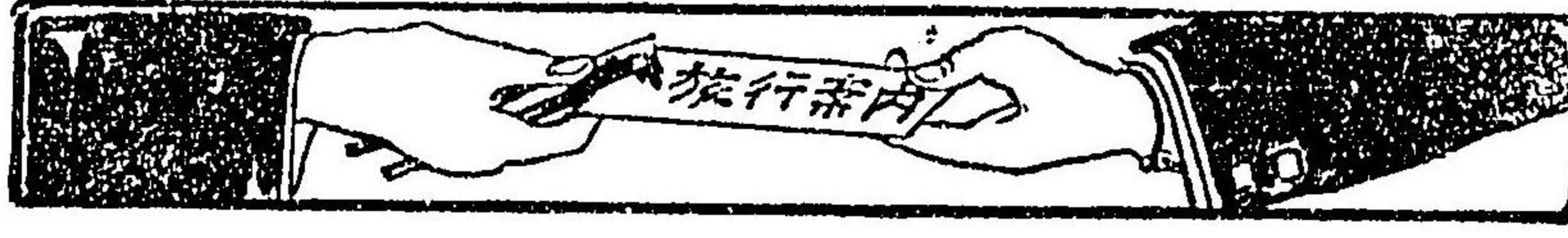


宿し而して身は清麗拘すべき温泉に浴す、羽化登仙の真味茲に至りて始めて嘗て試ることを得べし、温度尤も能く人身に適し皮膚病、痲瘋質斯、梅毒等に特効ありて浴客常に絶えず、是れたるに肉體の保養たるのみならず氣宇を潤大にし精神を爽快ならしむべき天然の療養地たるに適すと云ふべし。

北海炭酸水合資會社 同社は停車場を去る十五丁宇峠下にあり、林某外三名の發見する所にして明治四十年四月小樽の長谷川慶吉氏等、資本金三万円にて合資組織として新式の器械を購入し諸設備を完全せしめ弘く全道及海外に輸出すべき目的を以て營業を開始せり、從來我邦の需用せる炭酸水は、何れも多少人工瓦斯に水を加へて販賣せしものなるも該炭酸水は天然の炭酸水にして分析の結果普通坊間に販賣せるものに比し、尙十倍の炭酸分を含有せるを以て殆んど我邦に於て炭酸水中無

二の優等品として世に歡迎せらるゝに至りしを以て、海外輸出の上に於て頗る好望の結果を得つゝあり、尙副業として同社は製瓶事業をも開始し新業發展の道を講じつゝあり、而て該炭酸水は胃腸病には頗る効顯あるのみならず天然純良のラムネとして需用日々に増加しつゝあり。

後方羊蹄山 はアイヌ語「マツカリヌプリ」と稱し圓堆體を意味すと云ふ、志賀利川の所謂名山の標準なる美術的體式と幾何的體式とを相調合安排して對數的曲線の定則を表はしたるを「アイヌ」の既に言明したるに非ずや、山容富士に肖たるを以て蝦夷富士と稱せられ本道唯一の靈山なり、海拔六千四百餘尺満山緑樹青草を以て覆はれ少しも林面を露出することなし、北垣男爵漫遊の途次此山を賞し客に語りて曰く如斯名山にして而も翠巒なるは全國其比を見ずと豈夫れ過賞ならんや、登山の道は元は東口目名より上るものゝみなりしが明治



三十七年九月新に西館字下ンスケ廣瀬農場より小西湖畔に沿ふて一條の新道路を發見せしかば容易



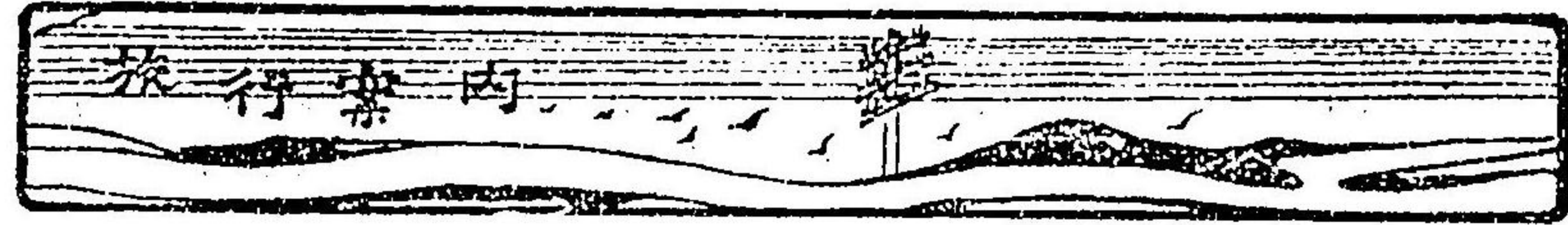
北海第一の雄大 送別の瀧

れ同會の發起にて日曜日毎に登山大會開かれしかば遠くは函館八雲を始め余市小樽札幌若見澤等より觀光の客引も切す、山上第一着には俗稱御花畑なる所ありて珍草異木妍を競ひ美を争ふ爛熳たる百花千紫萬紅殆ど人目を眩せん計なり誠に是れ天界の神苑と稱すべし、苑中

に登山の壯遊を試むるを得るに至れり三十八年始めて有志者の主唱にて蝦夷富士登山會は組織せら

俱知安

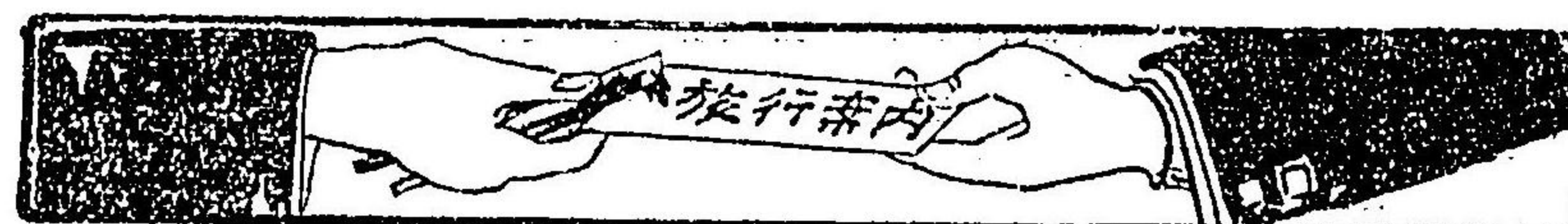
神泉湖あり方十畝に満たざるも清淺掬すべく渉るべし飲用に適す、其周圍は奇岩怪巖突兀し假松其



間に點綴し雅致譽ふべきなし、登山會に於ては此湖畔に征露紀念碑及比羅夫將軍紀念碑を建設し頂上に北海神社を創立する豫定なりと云ふ、爾後上ること三四丁にして中噴火口に達す口壁周圍十三四丁四周峭絶怪巖林立中に瀦水あり、更に上ること三四丁にして大噴火口の東壁三角測量標の在所即絶頂に達すべし、四壁は愈々峻絶に愈々峭絶假松を攀ち巨巖を跳び以て一周すれば三十町に餘ると云ふ下て火口底に達すれば小湖あり七八月の交尙瀦水の存するを見る、内壁には安山岩質熔岩の大塊あり、其他灰砂青草を敷き清潔掃瀧神の在すが如し口底より東壁の頂上まで百二十歩あり方に是れ海拔六千四百二十九尺若し快晴一點の雲なくんば有珠の赭峰は深碧盆の如き洞爺湖に映射し中島の翠巒恰も巨甕の浮ぶに似たり、駒ヶ岳の小富士は洋々たる噴火瀧を飾り、有珠、白老の連山樽前山、夕張岳、手稻山等一起一伏恰も海波の洶

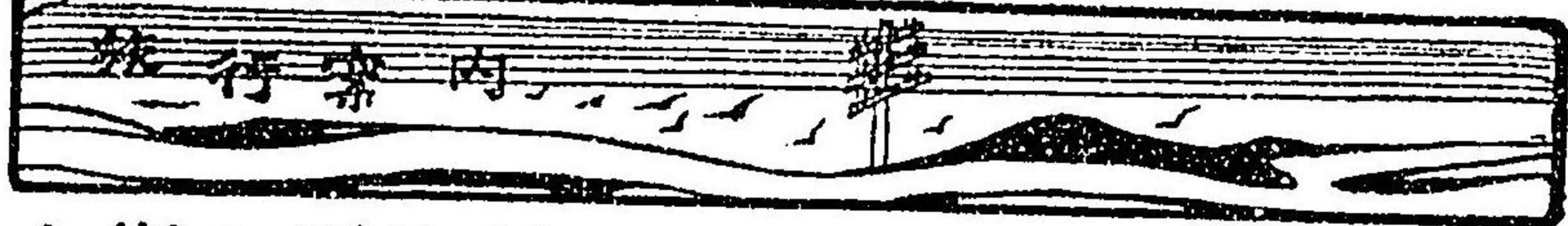
湧たるが如く、小樽灣頭の増毛に對する處更に轉じて利尻禮文を望み、西北は積丹半島、余別岳、雷屯山、岩雄登等を俯瞰し點するに岩内の白帆を以てす、更に眼を轉じて龍飛、尻矢の岬を指顧の間に展望することを得べし若し、精良なる望遠鏡の力を借らば根室半島より千島諸島をも望むべしと云ふ、而して頂上到處珍奇なる花卉に富めるを以て植物學上の寶習林としては好個の學園たるべく、若夫れ雲霧の變幻測るべからざる太陽の出沒火を燃すが如き其壯觀偉景北海道中豈之に比すべきものあらむ。

雲霧も神のいふきにはれにけむ  
世にあらはるゝ後方羊蹄の山  
後方羊蹄の高根おろしにこさはれて  
沖よりのぼる月をみる哉  
たちこむる湖砂より上にさし出で  
雲井のものとしりべしの山



因に曰く蝦夷富士登山會は毎年七月一日より九月三十日まで登山者に對し種々の便宜を圖り山上には宿泊の小家を供し中途には休憩所を設け婦女子と雖も容易に登高の道を開かんことを期待し居れり、且つや鐵道廳に於ては大いに此の舉を贊し毎年特に函館、黒松内、余市、小樽より俱知安往復の登山客に限り三等乗車賃金を半減することゝなりたり、故に登山會に於ては毎年優待券を發行し鐵道廳並に山田温泉及釧泉及各旅館の割引證を配布すると居れる左に登山者の爲めに登山行程を表示せん  
俱知安停車場若くは登山會事務所より  
廣瀬農場入口まで 五十四町  
小西湖まで 十町  
駒返まで 十八町  
御花畑(神泉湖)まで 三十町  
絶頂まで 五十町

通計三里九町に過ぎず故に健脚の人は四時半乃至五時間にて達することを得べきなり。  
岩雄登嶽は海拔三千三百七十四呎、俱知安停車場より樵溪を尋ぬる三里半にして頂上に達す奇巖怪峰突起して眺望甚だ佳なり、火口一二ありて尙ほ硫烟を吐く其火口湖となるものは三井物産探検所の近傍に在りて周圍凡そ二十町、探検所を下る二十町にして所謂イワオベツ温泉のイワオベツ河畔に湧出するを見る。  
尻別川 シリベツは土語大川の義にして土人の石狩川を發見するまでは本道の最大流となせしものなり、源を白老の山中に發して流域凡そ二十四五哩、キモベツより俱知安十號線に至るまでは磯船を通じて貨物を運搬するに足るも、同所より昆布に至るの間は忽ちにして急流直下水勢澎湃忽ちにして奇岩怪石突立奔流激湍飛沫の粉々たるあり或は斷崖千尺の下碧瑠璃を湛ゆるもの、或は霜氣天



に騎りて木葉紅を呈し、黄を染め出し漸く瘦せ  
色益々青からんとするもの景象萬千應接に迎あら  
ざるの美觀あり。

小西湖 字「ソスケ」に在り周圍一里餘火口湖にし  
て牆壁は峻絶なるも翠綠滴らんとする樹間蝦夷富  
士の絶頂兀々として蒼穹を摩するあり、狩太、俱知  
安の二村は兩脚に開展せられて西高山前面に横は  
り半腹なる山田温泉の建築物を指摘するを得、  
風景甚佳絶なるを以て登山會にては此地を公園と  
なし櫻樹を移植し且つ池中に養魚をなし舟筏を浮  
べ登山遊覽の客をして釣遊を試み花紅錦楓の下仙  
郷に遊ぶの感あらしめんとて専ら計畫中なり。

目名の原野 茫々漠々たる曠野にして宛然富士の  
裾野に似たり、未だ歴史上の確實なる考證を得ざ  
るも、阿部比羅夫府を後方羊蹄に閉しとの古事を  
抹殺する能はずとせば、恐らくは其舊蹟は此邊な  
らんか、鎌倉及び江戸か富士の裾野一帯の地に在  
りとせば此地又蝦夷富士の裾野として蝦夷の政廳  
たりしは一對の好佳話と稱すべきなり。

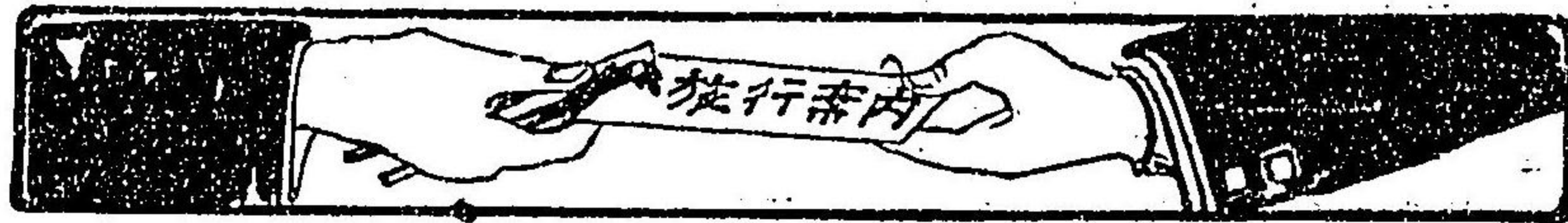
○電燈 ○電力 ○電氣鐵道 ○蓄電池 ○鑛山用諸機械

# 電氣諸機械シーメンス 輸入販賣業シツカト株式会社

## 函館出張所

函館區末廣町十七番地

○電球 ○電線 ○ケーブル ○量水器 ○X光線器械



花の舞ふもの化して煙霧となるや直射せる日光に逢ふて不漸の玉虹となり珠簾となり瑠璃となる其美其奇云ふべからざるものあり。

岩泉深 三十八年八月岩泉清氏の發見する所なり故に名づく、西高山の半腹富士見川の水源にして喬樹鬱蒼奇岩怪石の間直下三丈餘中間巨巖に激し白沫四散水聲轟々覺えず觀客をして凄然たらしむ、四邊楓樹多し若し夫れ滿山錦を綴り紅將に燃えんとするが如き中秋の雅景は能く筆紙の及ぶ所に非ず文人騷客清遊を試むべきに足らむ、山田温泉道路より約半里停車場より約二里半に過ぎず。

官公衙 俱知安村戸長役場、同警察分署、同郵便局、東俱知安郵便局、森林保護員駐在所、俱知安農事試験場、公立高等小學校、尋常小學校六、簡易教育所二、特別教育所五、村醫俱知安醫院、横尾病院、俱知安家畜病院。

神社佛閣 教會堂 八幡神社、眞宗大谷派惠曉寺、

曹洞宗孝進寺、眞宗本願寺派東林寺、曹洞宗大佛寺、外眞宗說教所四、眞言宗說教所一、日蓮宗說教所二、

劇場 一

旅館 として先づ指を屈するは旭ホテル(俱知安ホテル)とす、其建築宏壯客室清潔にして新式の諸設備は何れも完備し、兩樽沿線中第一の好旅館たりしも今春同地大火の際焼失せるを以て、之を機會に向一府大規模の建築をなし本道に於ての一大ホテルの設備を完成するの目的を以て専ら新築中の所此程落成したるを以て舊に倍して旅客の便を計ると云ふ、其他には井印南河旅館の支店、長岡屋等あり。

北海道 第一の高山 蝦夷

函樽間

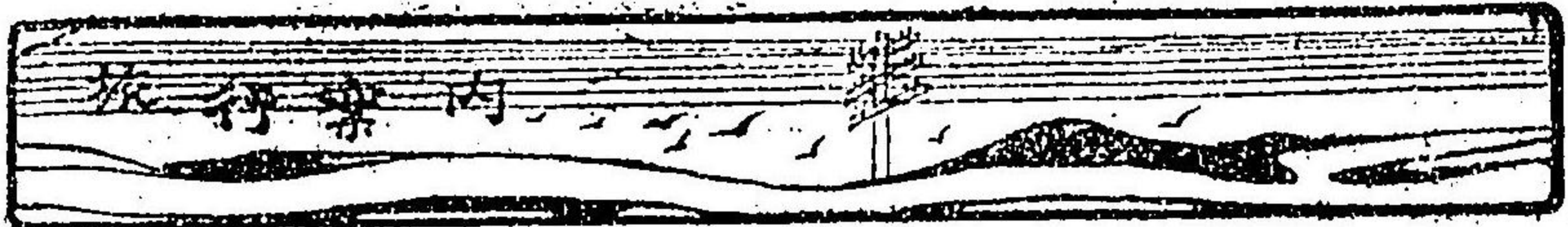
旭ホテル

俱知安停車場前  
(蝦夷富士登山駅)

館主 山田植藏

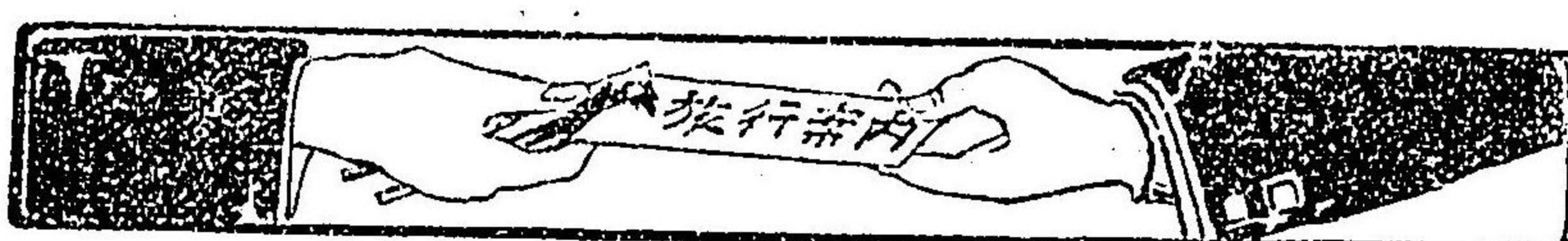






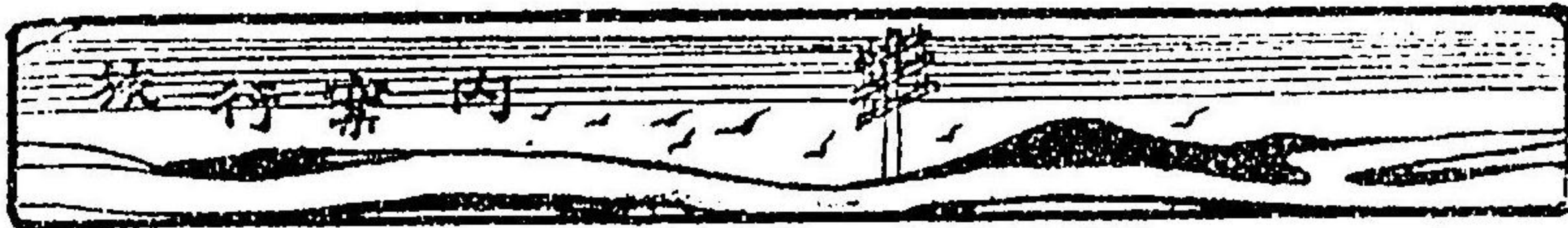
ば野東、敷島内、前田、幌似、發足等の各村及び  
 蛇田郡俱知安、真狩其他南尻別、昆布等なりしも  
 北鐵線全通後は俱知安方面の取引は多少小樽に移  
 りたるの傾きあるもの、如し、而して港口に長さ  
 五十間餘の暗礁の突出せるものあり、乃ち稻穂崎  
 の暗礁之なり、夙に岩内港灣改築の問題として岩  
 内經濟界に重きを致せるものなり、故に將來に於  
 て港灣改築の實行を遂げ、燈臺の敷設、貨物積卸  
 及び乗客乗船上陸場及岩内を發し、發足村を経て  
 古宇郡古宇に至る、新道路開鑿等の事業行はる、  
 に至れば、北部美國、積丹郡より南方壽都郡島牧  
 内部洞爺に至る迄の商業區域を伸張し、殆んど後  
 志國中央及び膽振國全般原野の生産物を配達吞吐  
 するの一大良港たるに至るや疑ひなきなり。  
 三十八年九月電話の架設するあり同十月岩内電氣  
 株式會社に於て電燈の施設等あり、其他久しく經  
 濟界の問題となりて決せざりし同地開發の關係あ

る港灣改築事業の如き、愈々五十萬圓五ヶ年繼續  
 事業として近き將來に於て工事に着手する等兎も  
 角岩内經濟界に一曙光を見るの機運に際會しつ、  
 あるは岩内の爲め喜ぶべきなり。  
 漁業の概況 鱈漁は漁業中最盛のものにして明治  
 三十五年就業行成網六結、角網四結刺網一萬六千  
 九百八十六枚の多きに及び、其他鱈角網四結  
 鱈一結、八尺網海鼠百八十一、北寄三、牛深網尾  
 曳網六十二等にして鱈は配繩を以て之を釣獲す、  
 營業者五十五人、魚釣約五十五人、昆布採收者百  
 二十三人なり。  
 農業の概況 農業は字老古美に四十餘戸の農業者  
 あり、明治三十五年既墾地畑二百二十九町、水田  
 十町八反歩あり、多くは蔬菜を作りて市内に販賣  
 す、其他大小豆雜穀等を播種すれども殆んど自家  
 用に過ぎず。  
 金融機關 北海道銀行岩内支店、日本工商銀行



支店、北海道貯蓄銀行支店(目下休業中)等あり。  
 工業及鑛業の概況 製造業には鱈肝油製造所二個  
 所あり漁燈油、沃度の製造を開業す、字老古美に  
 は煉瓦製造所三あり、其他酒造業七戸醬油醸造六  
 戸あり。  
 鑛業には岩雄發硫黃山の事務所あり、米國布哇等  
 に輸出するもの皆當港に於てす(俱知安驛の部參  
 照)茅沼炭礦は岩内市街より北三里餘なる茅沼村  
 の溪間にあり、安政三年の發見に係り爾來松前藩  
 及幕府に於て採掘に従事す、明治二十一年二月に  
 至り長濱彦太郎外四名官より拂下を受く、次で三  
 十年に至り、右近權左衛門氏之を譲受く、目下は  
 其獨力經營する所にして事務所を稻穂崎町に設く  
 岩内炭礦合資會社は明治三十二年の創立にして茅  
 沼炭山より石炭を採掘し之を岩内にて販賣す。  
 岩内水力電氣株式會社 同會社は本道に於ける水  
 力電氣事業の嚆矢にして、其水源は彼の有名なる

雷電時より發する幌内川なり、水車は米國マコミ  
 ック會社製にしてウッドワードの調製機を備へ、  
 發電機は米國ゼネラル會社製交流三相式二千ボ  
 ルト六十サイクルにして勵磁機と共に水車軸に直結  
 せるものなれば、其運轉に帶皮を要せず、隨て廻  
 轉速度も平均を保ち且つ据付場所も此較的僅少の  
 面積にて足る最新式の設計なり、工事全般は大坂  
 才賀電機商會に於て引受け竣成せしものなり抑も  
 本道に於ける水力電氣事業は其水源乏しからずと  
 雖も、冬季結氷積雪の恐れ多き爲め今日迄之が實  
 行者なかりしに、前年岩内の有志者より之を才賀  
 電機商會主才賀藤吉氏に謀りしに、氏は直に同商  
 會理事兼技術部長工學士三井助作氏をして之を調  
 査せしめし結果才賀氏自ら發起人となり其資本金  
 六萬圓の内四萬餘圓を同商會に於て投資し、同商  
 會理事三井助作野田儀一郎氏等取締役となり、同  
 商會理事工學士河合兵吾及當地有力家川村長四郎

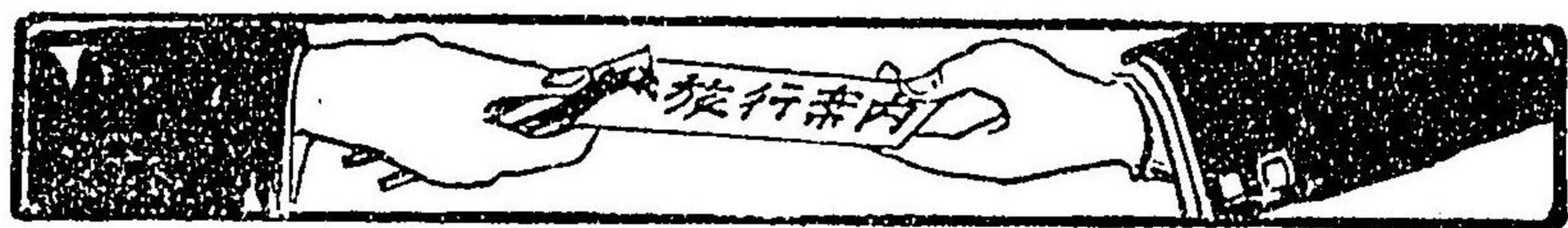


氏等監査役となり、支配人は同商會營業部員高野正幸氏之に當り以て今日の結果を見るに至りしなり



雷電嶺の糸白

り、斯業開始の結果は本道の工業界に偉大なる光



り、斯業開始の結果は本道の工業界に偉大なる光  
 魔神の巢窟かと怪しまる、旅客若し仔細に這般の  
 絶景を恣にせんとせば尻別川より小舟を僦ひ船  
 裝して岬端を廻るべし、又船中の霧都より岩内に  
 至るものは岬端を距る約三十町の處を通過す、雷  
 電は來年と國音相近し、昔辨慶蝦夷人に來年歸る  
 と約せし地なりと、雷電嶺は岬の北邊にあり、高  
 四十丈巾十八尺岩壁より直ちに海中に落下す夏時  
 來遊者多し、岩内より蘇忽内、中川、小森、喜十  
 郎小屋(今の前田村)より南部茶屋を経て小澤に至  
 るもの、和穂峠遊志を経て往昔之を稱して余市  
 山道と云ふ。

千萬の仇をなびけしやき太刀の  
 光りは遠く名に残りけり  
 ますら雄が太刀の緒ときて岩かねに  
 かけしや今の瀧の白糸  
 ●岩内神社は鹿野町にあり鹿野天皇市岐比賣  
 郷社

明を興ふるものにして實に才賀電氣商會の奮勵を以て多とせざるべからず、  
 温泉 處々に湧出す雄別、雷電、硫黄山皆附近に  
 あれども湧出量豊富ならず。  
 ●雷電嶺 是西海岸屈指の嶮にして其の岬角は則ち  
 雷電岬なり高三千呎、岩内、磯谷の郡境に峙つ、  
 其支峰と相對する中間に峠道あり、高さ千七百尺  
 之れ有名なる雷電峠にして西海岸屈指の嶮たり、  
 往昔は行人岩角を攀ち、薛羅によりて上りしと云  
 ふ、安政三年遂に開鑿して馬足を通ずるに至れり、  
 山中に温泉あり泉質瘴氣を含み温度百二十度傍に  
 神社あり速玉乃男伊那那美命を祀る、熊野社と稱  
 す、弘化三年の勸請なり、雷電岬は一名刀掛岬と  
 いふ、雷電峠(新道のある所)を左へ二十町、海岸  
 に岬頭大岩兀立して指掌の如く、眼下直ちに深淵  
 をなし、波濤岩面を噛み峻嶮にして近づくべから  
 ず、昔巖岩に固結して岩狀講説を極め、眼下深淵

●讀書家及び諸職工の諸君座右缺く  
 べからざる良劑なり  
 (委しくは能書を御覽なさい)



神靈水

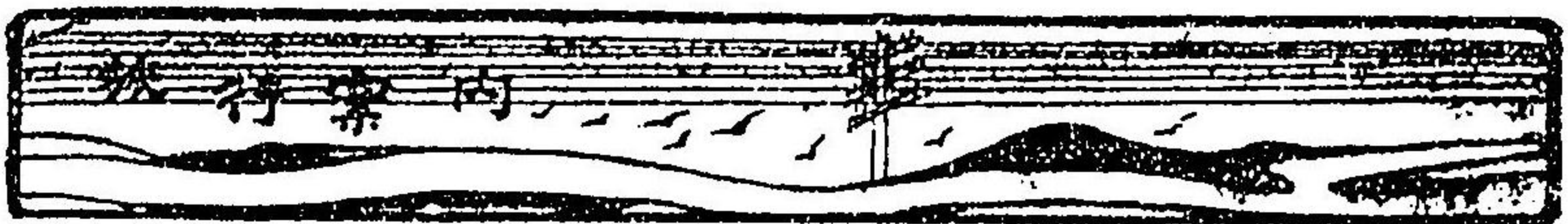
(錢五瓶小 錢十瓶大)

町附岩區橋本口市京東

平安田高

●此目薬は函入目薬の元祖にして點  
 眼器を添附せり御試用あれ必らず  
 きゝます  
 類似品あり(鷹と錨)の商標に御  
 注意を乞ふ





命を合祀す、文久二年の創立にして明治九年郷社に列せらる、村社稻荷神社は嘉永三年の創立にして明治八年村社格を許可せらる、眞宗大谷派智恵光寺は鷹臺町にあり、眞宗本願寺派光照寺、曹洞宗全修寺、日蓮宗蓮華寺、浄土宗歸應院等は何れも皆鷹臺町にあり。

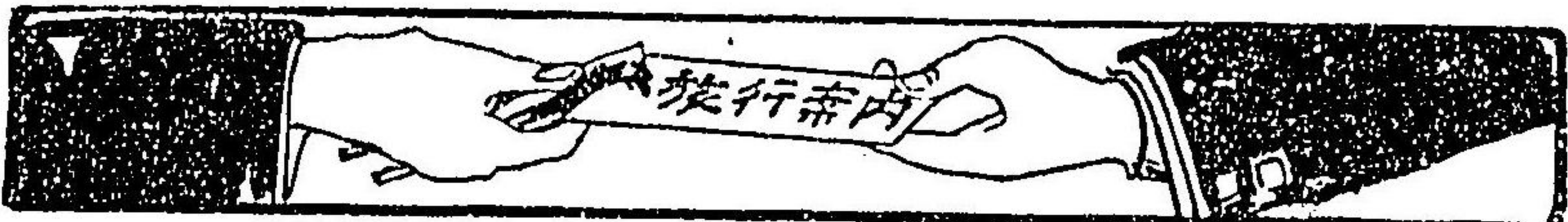
岩内馬車鐵道株式會社 小澤驛岩内間に鐵道馬車の敷設あり貨物の運搬及び旅客の便利鮮からず、毎日汽車の發着毎に貨車客車を運轉を爲し、其回数午前午後を通じて八回小澤岩内間の乗車賃金三十錢にして小澤驛より岩内には僅々一時三十分間に到着することを得べきを以て旅客、貨主の便利此上なし。

旅館及料理店 第一流の旅館にして有名なるは井桁印南河旅館 岩内ホテル等を以て最とす、何れも其位置は橋樑附近至便の所にあり、信用最も確實なり割烹店は三十二軒の多きあるも、金清樓

を以て第一とす、金清樓には別に西洋料理玉突等の設備あり。

### ●銀山驛

本驛は後志國余市郡大江村字マクンベツにあり、稻穂隧道を去る約五町餘にして赤井川の内字五十萬坪、赤井川本村、馬群別、長澤、尾根内、上山道等の生産物集注地として將來有望の驛たり、元來マクンベツ以南の地は逐年長足の進歩を爲し、現今戸數三百混成畑地五百町歩餘に達し、猶不毛の耕地數百町歩あるのみならず、大江村に屬する耕地千町歩と赤井川に屬する五百町歩あり、之に産する雜穀は年々約一萬五千石餘にして、赤井川に 蕪 鑛山あり、其他木炭の産出少しとせず、然るに從來夫れ等地方の生産物は余市方面へ駄馬によつて輸送するの已むなき事情ありしに、舊北



鐵全通後に於て本驛の新設を見るに至りたるは當方面生産界に如何に利益を興へたるかは亦想像の外にあり。

農工業 此附近總反別民有畑地七百二十町七反餘貸付地約三百萬坪、民有山林三百五十八町二畝十五歩農産物五千四百七十五石、柳行李一萬二千二百五十箇にして五箇村に於ける三十七年度農産物生産價格は實に十七萬八千八百八十五圓餘に達せり、柳行李 本驛の特産物は何なりやと問はば乃ち柳行李と答へむ。將來本驛の特産物として第二の但馬國を本驛に於て見るに至るべし。

温泉 停車場より約一町にして冷泉あり未だ其設備なきを以て浴客には不便なるも土地の有力者に於て目下計畫中なるを以て遠からず浴室其他の設備完全の暇は浴客の來往亦た少からざるべし。

銀山驛

### りらまあす 神経痛の良薬

電気水は理學專門家佐谷先生の發明せられたる良薬で其効能の著しい病症は諸關節及び筋肉に發する一切の疼痛、痲痺、倦怠等で總て身體の不自由な處に塗布て拭が如き速効があらります。



明發生先谷佐家門專學理

價 小瓶二十錢 中瓶四十錢 大瓶七十錢 全國郵稅各四錢

本舖 東京神田區大木口合會社  
發賣 東京兩國路大木口合會社  
取次店全國到處の藥店にあり

1011





余市川の流域に係り、灌漑の便宜しきを得るのみならず、地味亦豊沃なるを以て安政年中より早く既に開墾に着手せられ、次で青森、徳島等の諸縣民績々として來往し、本道中屈指の農村たるに至れり。

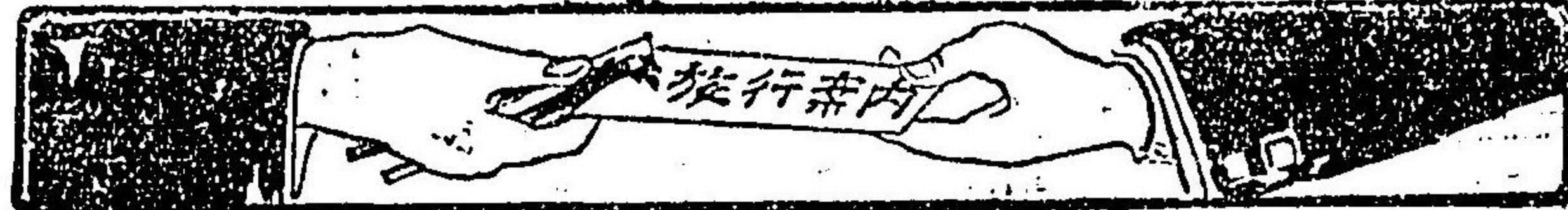
大江村 本村の東南に接續し、明治十五年公債毛利家に於て舊山口藩士を移住せしめたる處にして、目下戸數二百八十戸、人口千二百人を有し、之れまた大字山道に譲らざるの大農村なりとす。

赤井川村 戸數六百七十二戸、人口二千八百十六人を有し、山道停車場を距る約四里にして道路平坦なり、又岩内郡小澤村との距離三里餘、岩内町との距離七里にして其間稻穂峠の險道二里に亘るも馬車の便あるを以て約五時間にして岩内町に達するを得べし。

農場の概況 山小農場(地積百五十萬坪)は山道驛を距る約二十町、皆マクンベツにあり俗間柳農場

と稱し、柳行李の材料たる杞柳を栽培し、一面には工場を建設して、柳行李の製造に着手せり、之れが使用職工二十餘人、一個年の製造額一萬圓以上に達せり、元木農場(地積四十七萬坪)は停車場を距る二里なる字長澤に久保農場(地積七十五萬坪)は同二里半なる字オチナイにあり共に農業専務なりとす、又隣村赤井川村余市開墾株式會社(開墾地六百町歩、小作人二百五十戸を初めとし、植村澄三郎、前田正名、船越衛諸氏の農場及び同盟農場(徳光大次郎氏管理)等あり、其地積共に百町歩餘にして地味宜しく農産に適せり。

赤井山 赤井川村に屬し、余市川の支流白井川の左右にあり、元と山道停車場を距る六里、新開の道路あり、該山は明治三十一年の發見に係り最初對島嘉三郎氏等の經營に屬したるも、明治三十二年毛利家に於て北海道炭礦株式會社の名義を以て買取り、道路を開墾し、鐵山部を字大石澤



の附近に設け數個所に拓道を開けり、鐵脈は其數甚だ多くして所々に露出し、脈石は石英にして概して其幅廣く、卓越脈と稱するもの、如きは其幅廣きは七間、平均三間にして延長六千尺に達せり、礦物は硫化銀にして且つ金を含み、王越脈より崩れ落ち居る大塊中にて肉眼にて金粒を認むるを得べし、目下百四十名の工夫を使用し、試掘に従事し、其結果前途大に有望なるを示したるのみならず、然別鐵山を休鑛し、全力を此處に傾注することとなりたるを以て、探鐵本業に従事以來多數の人夫入込み、戸口爲めに増して、第二の然別市街を現出するに至れり。

旅店 然別驛には輪島屋工藤林之助、伊藤清之助あり赤井川村字五十萬坪には驛傳兼業の中村哲治郎等あり。

●仁木驛

然別より余市川の鐵橋を渡ること二にして仁木驛に達す、仁木停車場は大江城大字仁木村の中央にあり、同村は明治十二年徳島縣人の始めて移住開墾したる處にして、其後開村の人民は漸次他に移轉して殘る所少なれども、これに代りて入來る者亦皆徳島縣人にして、今日尙ほ純然たる徳島縣移住民より組織せられ、目下の戸數二百四十九戸、人口千二百六人、大江村此地に在りて仁木、大江山道の各村を管す、郵便電信局、巡査駐在所、公立尋常小學校亦此地に備はる。

農業の概況 仁木、大江、山道の三村は、實に余市郡に於ける農業の中心點にして、全村の延長五里餘に亘り、聖成反別二千五百餘町歩、水田の開けたるもの約四十歩、其農場の整理せる農業の發達せること實に全道に冠たり、旅人の一度此地に入るや、滿目一帯田圃遠く開け、北海道亦斯の



大農村あるに一驚せん、農作物の主なるものは麥



景遊の士宮尻利

類、大豆、刀豆等なり。

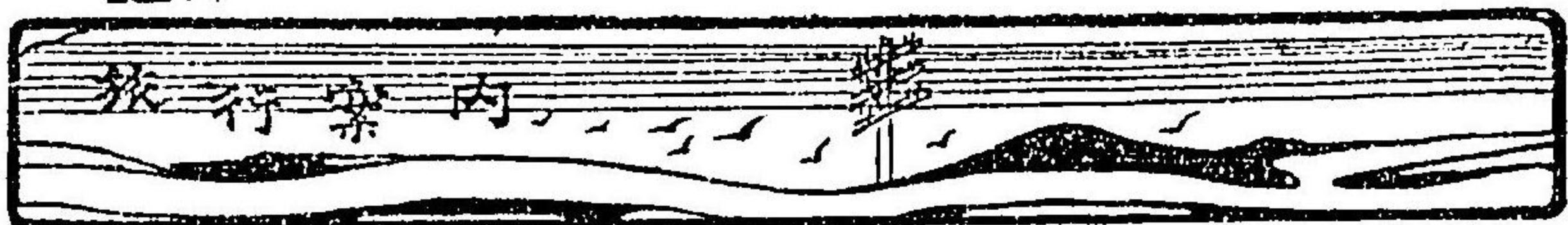
●余市驛

余市停車場は余市町大字黒川村番外地にあり、余市町は余市川に沿ひ余市灣に臨み、尻場岬は其西方に斗出す、地平坦にして漁商鱗次し頗る繁盛を極む、東西六町、南北二十丁、人口二萬餘を有し余市川沿岸新開墾地の開くると共に又物産の集散地にして前途有望の大驛なり、小樽へ五里二十丁岩内へ十二里八丁を距つ方言イワオナイと呼ぶ温泉ある所の義なり、余市川の源に温泉あり故に名づくと云ふ。

沿革の一斑 文政の頃迄は藤野喜兵衛の請負場所にして以後は林七左衛門之が請負をなす、運上屋を今の深町に置き、諸所に番屋を設け土人を指揮して漁業を營み、又和人の入移を許して漁業をなさしめたり、安政年間幕吏深町を開きて漁民に割渡し、慶應の頃は山雄、濱中の海岸漁家相接し、

余市産也

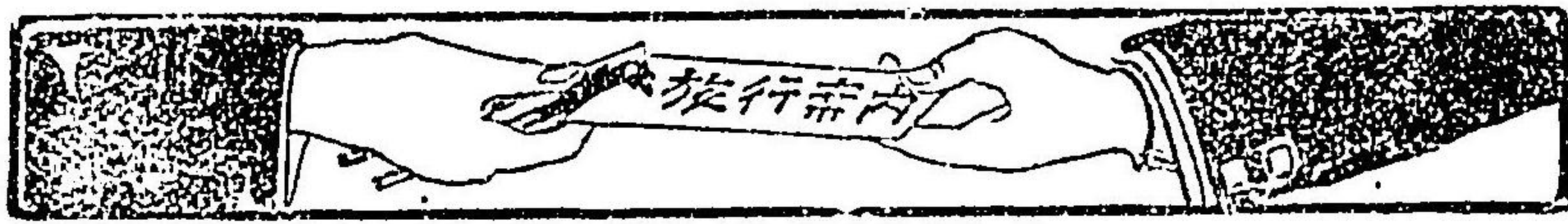
稲穂豊穰  
 言ぬは余市



既に小賣商店あるに至る、開拓使に至り請負人を廢し、漁場を一般の志願者に割渡せしを以て年々巨數著るしく増殖す、明治四年舊會津藩士を余市川の兩岸に移し、黒川、山田二村を開く、次で宮澤町を設く、明治十四年濱中、山雄二村を改め町となし、同時に中町、梅川町、琴平町を設く、同十五年電信線の架設ありて通信の便を増す、其頃川村後(大川村と改稱す)に新に市街地を區劃す、同二十一年余市、岩内間の道路を改築し車道を開く、逐年部内の諸村開拓の進歩するに従ひ、當市街は其市場として益々發達し、殊に大川町は大に膨脹して主要なる商業地となれり、明治二十三年五月濱中、澤、富澤、中、梅川、琴平、山雄、大川の八町、黒川、山田、春部、沖の四村を合せて余市町となし、同年六月一級町村制を執行す。市街の概況 余市市街はモイレの丘陵を以て自ら二部に分る、北部にあるは舊市街地にして、濱中

澤、富澤、中、梅川、琴平、山雄の七町より成り、澤町、富澤町は商家櫛比し、最も繁華なり、濱中町、山雄町は漁家多し、町役場、警察分署、郵便局、殖民部、林務課派出所、小樽區裁判所出張所、漁業組合事務所、小樽銀行出張所、余市高等小學校、大川、澤町の兩尋常小學校、大川小學校分校等各所に散在す、南部は大川町に余市川の口に位し、巡查駐在所、劇場等あり、余市郡各農村の貨物は概ね此處に集散するを以て商業最も盛なるのみならず、停車場も該方面に設置されたるを以て舊市街の漸く衰頹の傾あると共に同町方面は其膨脹著るしく地價の騰貴日一日よりも甚し停車場前には徳光運送組、栗山代理店、上川倉庫、取次店等あり。

農漁商の概況 農業に従事する山田、黒川は余市郡中最も早く開墾したる所にして今日殆んど未開の地なく地味亦概ね膏腴彼の有名なる毛利農場も



黒川にあり、春部は其耕地の面積狹隘なるのみならず、地味も亦劣れり、作物は大豆、菜豆を主とし、麥類、粟、小豆、玉蜀黍、馬鈴薯等に次ぐ又稀に藍を作るものあり、菜葉は農産物中重要なものにして、其形状色澤風味の點に於て本道中優等に位せり、耕作反別は合計八百四十町歩にして、其收穫は約四萬二千圓、菜葉の産額約八千圓の收入あり、漁業も亦夙に大に開け、多年經營し來りたる所にして鱈の産出頗る多し、其他の漁業は漁獲すと雖も同町及其附近に販賣し、他に輸出するは甚だ少量なり、鱈は肥料及食料に製し府縣に輸出する額平均一ヶ年二萬七千石、價額三十五萬圓に達せり、同町生産額の大なる既に斯の如きものあるのみならず、其灣は良好なりと云ふ能はざるも小樽港との間には船舶の往復あり、又國道は小樽より同町大川町を経て南西に折れ、仁木、大江、山道の各村を経て岩内港に通じ、余市

は余市郡概要の地に在るを以て、郡内諸村の貨物は皆余市町によりて集散し、且つ余市川の上流より出づる材木薪等の林産物あり、加ふるに然別、山、の同町に富給を仰ぐものありし爲め、余市郡の中心市場として、商業の發達を致したりと雖も、鐵道全通の今日に至りては商勢の上に幾分の影響を來さざる能はず、殊に然別、山、の休鐵は同町の商業に大打撃を與へたるに相違なし要するに益々奮勵して益々鐵道を利用せむことは余市市民の最も勉めざるべからざる處ならむ。

神社佛閣 寶隆寺(淨土宗文久二年創立)は澤町に永全寺(曹洞宗文久二年創立)は琴平町に、法華寺(日蓮宗明治十三年創立)は澤町に、即信寺(眞宗明治二年創立)泉念寺は梅川町に其他永全寺、即信寺の派出所は共に大川町にあり又郷社稻荷神社は富澤町に、村社琴平神社(元治元年創立)は琴平町に、村社稻荷神社は山雄町にあり。



二丘あり、一は外洋に面し、一は余市灣を擁して眼下に帆部岬横泊等の小岬出沒し、宛然箱庭の感あり、羈旅の妙味亦他に及ぶものなし。

追分節の由来 「忍路高島及びもないがせめて歌楽磯谷まで」とは、有名追分節として人口に膾炙する處、昔時後志國神威岬以北は右來の習慣として女人の往來を禁制す爲めに其の夫の漁業の爲め忍路高島に至るあるも其の婦之に従ふ能はず茲に於てか忍路高島及びもないが、せめて歌楽磯谷までとの（則ち壽都港の前面の海濱に歌楽磯谷の漁村あり）一篇の情歌になりたるなり。

●鹽谷驛

關島驛より鹽谷驛に至るの間、左方渺漫たる海面を望み、碧浪澎湃近く岩角を啣むの状忍路、余市間の景に譲らず、然も地は漸く平坦ならず、高丘

波濤の如く起伏する所を蜿蜒迂回し忍路（延長八百五十呎）第二チャラツナイ（延長七百呎）第一チャラツナイ（延長四百三十呎）の三隧道を通過して鹽谷驛に著す鹽谷停車場は鹽谷灣の背後丘陵の東南約四町の所に在り、鹽谷、木村を距る十四町なりとす、鹽谷村は忍路郡四ヶ村中の一にして戸數四百六十戸、本村民は専ら漁業に従事するも、近來和や農業に従事するもの増加し、農家百五十戸に及び、宇佐助澤には殖民地として二百六十萬坪あり村有農場及櫻井農場等あり、成蹟佳良位置停車場と相接近し諸般の便宜尠なからざるを以て將來の發達期して待つべし、目下高丘の部分は造林盛んに行はれ平地は悉く畑地と化し特産として大根を出す年々小樽港に搬出する高は二萬圓以上に上れり。

●旅店 としては八山印旅店あるのみ。

小樽實業案内

次第不同



日本郵船株式會社札幌旭川通ニ荷物一手取扱  
 各地行海陸接續貨物並ニ市内運搬取扱  
 諸官廳御用達并ニ作業及勞務請負業  
 港内解舟運送并ニ稅關手續代辦  
 全國各線鐵道貨物運送取扱  
 小樽港手宮町九番地

○ 會社資栗山組

電話(長)四百貳拾六番  
 振替貯金口座番〇四四〇番

電信略號(〇)又ハ(〇)シ  
 電信暗語(九善イロハ暗語)使用

札幌支店

札幌區北四條西三丁目一番地札幌驛前  
 電話(長)一〇一〇番電話(サ)又ハ(〇)

小樽出張所

小樽區土場町七番地小樽驛前  
 電話(長)七〇二番電話(〇)又ハ(ラ)

旭川出張所

旭川町宮下通上川運輪合資會社内  
 電話(長)三二番電話(〇)又ハ(ア)

北海道全線各驛ニ代現店アリ又全國各地知名ノ運送店ト取引聯絡アリ故ニ小樽港經由ノ荷物發送地ノ何處  
 ニ拘ラズ其送狀ニハ(小樽栗山組)ト記入アレバ自然當店ハ責任ヲ以テ確實ニ迅速ニ目的地へ運送スベク  
 尙栗山組扱ト記入セラレタル荷物ニ對シテ故障アル時如何ナル場合ト雖屹度解決方ヲ取計可申候

資本金二千萬元



株式會社 三井銀行小樽支店

電話番號 營業用 一五五  
 來客用 三三五

積立金百萬圓

(四十二年七月現在)

日本郵船社會船客貨物取扱

本店 小樽色内町十二番地 電話四百五十五番

小樽

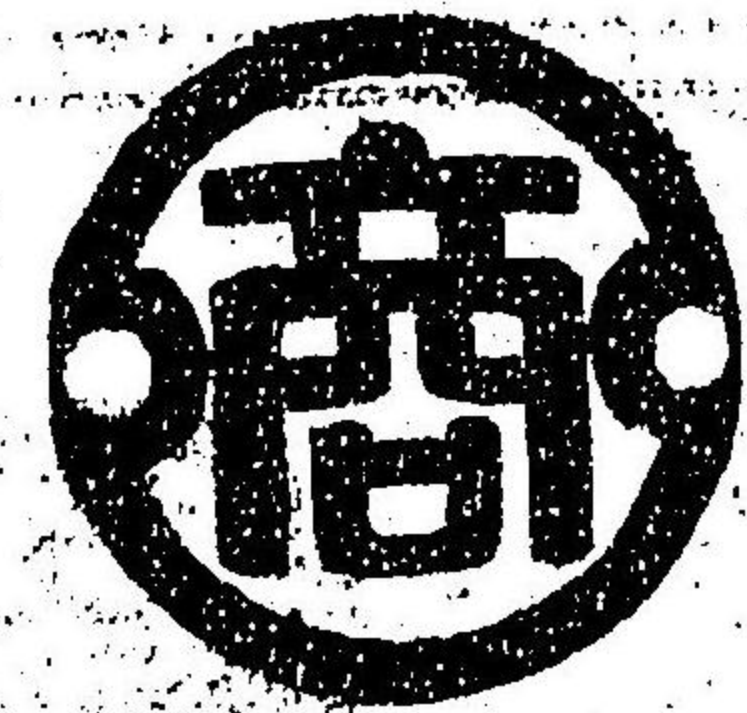
栗山回漕店

栗山晋作

出張所 郵船會社構内 電話四百二十八番

電話略(カ)又ハ(カ)

五



株式會社 日本商業銀行小樽支店

本店 神戸市鍛冶屋町

小樽區色内町拾壹番地

電話番號(營業用...三九番) (來客用...七二六番)

支店 (神戸市元町) 門司 (長崎) 岩國 (柳井)

出張所 (室蘭)

四

貯蓄預金  
 貯蓄預金  
 貯蓄預金  
 貯蓄預金

日本郵船株式會社專屬荷扱  
 北海道全線鐵道貨物取扱所  
 各地輸入接續貨物運送取扱

夕

竹内回漕店  
 竹内出張所  
 竹内利吉

本店長電話(五百四番)  
 南濱出張所(二〇九番)  
 振替口座(三三八五番)  
 電話(夕ケ)又ハ(夕)

株式會社  
 小樽區稻穂町大通  
 拓殖貯金銀行  
 小樽支店

長電話 貳四八番  
 振替口座 東京一八五二

北川商店  
 小樽區稻穂町  
 電話 七二六  
 電器(キクカ) 又ハ(キ)

創 立 明 治 三 十 九 年 十 二 月  
資 本 金 十 萬 一 圓 滯 貨 準 備 金 九 百 參 拾 貳 圓

倉 庫 業  
海 陸 物 產  
委 托 問 屋  
肥 料 販 賣 業  
擔 保 貸 付 業  
火 山 灰 製 造 販 賣 業

白鳥合資會社

小樽區色内町拾六番地

電話 長六五八番  
五七三番  
電略(シロ)又(ハシ)



白鳥合資會社  
火山灰製造所

電話 一 一 三 五 番

營業科目

- 米穀販賣
- 精米販賣
- 受托物品賣買
- 海陸產物賣買
- 海運業

小樽	札幌	岩見澤	瀧川	旭川	余市
共成株式會社本店	共成株式會社支店	共成株式會社支店	共成株式會社支店	共成株式會社支店	共成株式會社出張店
電話(一三三)番	電話(一四二)番	電話(一一二)番	電話(一〇四)番	電話(三二一)番	